

口北三廳志完結

北 征 錄

伏 戎 紀 事

松 亭 行 紀

塞 北 小 鈔

外 六 種

文學博士 內藤虎次郎 輯

滿蒙叢書

第二卷

東

京

滿蒙叢書刊行會發行

南滿洲株式會社圖書部



第二卷書目

口北三廳志

自卷之十四
至大尾

北征錄 北征後錄 北征記

伏戎紀事

松亭行紀

塞北小鈔

奉使俄羅斯行程錄

出塞紀略

西征紀略

從西紀略

佩蘅詩鈔

張家口至烏利雅蘇台竹枝詞

滿蒙叢書第二卷 解題

文學博士 內藤虎次郎

口北三廳志

已に前卷に出す。

北征錄

北征後錄

明の金幼孜撰す。幼孜本名は善、字を以て行はる。江西新淦の人。明の建文二年の進士にして、戸科給事中を授けられしが、成祖位を奪ふの後、翰林院檢討より累進して禮部尙書を以て武英殿大學士を兼ねるに至り、宣德六年、年六十四を以て卒し、諡を文靖と賜ふ。

幼孜は永樂の時に當り胡廣、楊榮等と共に、成祖の信任するところとなり、内閣に直し、考滿つるも改任せず。成祖が韃靼、瓦剌等を親征せし時は、皆隨行を命ぜられ、

過ぐるところの山川要害を記述し、又銘を刻する時、撰文を命ぜられしことあり。幼孜は、よく鞍に據りて草を起し、立ところに成りしを以て、成祖甚だ之を重じたり。嘗て胡廣、楊榮及び金純等と道を失ひて谷中に陥り、夜に入りて幼孜は馬より墜ち、僅かに榮の救ふところとなり、翌日始めて行在に達したることありしが、成祖は十數人を遣して二人を搜索せしめられたれども、獲ること能はず、その歸り來りし時、喜び顔色に動けりと云へり。

北征録は、即ち成祖の韃靼親征に扈從せし時の記録にして、之より先き、成祖は、永樂七年に於て、征虜大將軍丘福をして韃靼を征伐せしめしが、敗北して五將軍共に没せしを以て、意を親征に決し、八年二月に於て詔を發して北征し、飲馬河より幹難河に及び、大に本雅失里可汗を破り、歸路に於て再び知院阿魯台を破りて凱旋せり。幼孜は日を逐うてその行程を記し、併せて山川風土を審かにしたるが、但成祖が幼孜を留めて清遠侯王友等の營中に居らしめ、親ら精騎を率ゐて本雅失里を窮追せし間の記事は、その親しく見ざるところなるを以て之を缺けるのみ。その記述は極めて正確にして、明史本紀、並に明實錄の記事に合し、其の足らざる處を補ふに足り、武備志、殊域周咨錄、全邊略記等の記事の誤謬を正すべし。但だ其

の地名の多數は、皆此行新たに命せし漢名にして、今の何の地に當るやは、之を確指するに難く、口北三廳志山川に譯語を引きて、此書と同一地名を載せ、今名を附したるも、其の正確を保し難し。

北征後録は、成祖が瓦刺の答里巴、馬哈木、太平、把禿孛羅を征伐せし時の紀行にして、永樂十二年三月より八月に至り、その日を逐うて行程を記すこと、前録の例の如く、凡前録の審かにせし所は皆省に従ひしを以て、その記述は前録よりも簡略なり。唯この征伐は土刺河附近に及び、前録の詳かにせざるところを詳かにせしものあり。その記事は、亦悉く明史本紀及び明實錄と合して、その正確を證すべきものたり。書中忽蘭忽失溫の地名を急蘭忽失溫に作るが如きは、傳刻の誤に係れり。其餘漢名の地の考へ難きは、亦前録に同じ。

之を總ぶるに、幼孜の前後二録は、成祖の兩次北征の記事として、又明初に於ける蒙古地方の山川風土の記録として、明實錄と長短互に補ふを以て、重要な史料となすべきものなり。四庫全書提要に稱して、其往返大綱は均しく史傳と相合し、其瑣語雜事は史の錄せざる所のものなりと云へるは、その當を得たるものにして、その之を存目の中に入れて、全書に著錄せざりしは、清朝學者の習として、務めて

明人の著述を抑ふるの風あるが爲めのみ、その記事の價值なきによるに非ざるなり。

北征記

明の楊榮撰す。楊榮字は勉仁、福建建安の人、建文二年の進士、翰林院編修を授かり、成祖位を奪ふの後、入つて内閣に直し、工部尙書兼謹身殿大學士に歴官し、仁宗、宣宗、英宗に歴仕して、正統五年卒す。年七十、文敏と諡す。榮は始め金幼孜、胡廣等と成祖の知遇をうけ、職に文學に備はり、成祖が五度塞を出でて北征するや、榮は皆之に隨行し、宣德以後楊士奇、楊溥等と共に先朝の遺老を以て輔弼の任に當り、年壽又高くして、天下の重望を負ふこと數十年、世に明代の賢相を稱する者、必ず三楊を首とするに至れり。

この書は、榮が永樂二十二年、成祖に隨ひて阿魯台を討伐せし時の紀行にして、この役は、軍に成功なく、成祖はその歸途に於て、榆木川に崩じたり。當時榮は金幼孜と共に中官等と議して、親しく後事を處理せるを以て、その記述は盡く自から略聞せる所に係るべく、明實錄の記するところと亦全く符合せり。但この書の記す

るところ、明實録と彼此互に出入ありと雖も、その同一事を記せるや、字句の末に至るまで悉く一樣にして、其の關係の太密なるは、その間却つて疑ふべき者なきに非ず。その他殊域周咨録、武備志等の記するところより、以て明史本紀に至るまで、皆この二書に本づけるが如くなれば、皆旁證たるの値なし。或は當日榮の親しく記せるところ、後に實録に引用せられたるやも知るべからざるも、然かも實録の記事は又この書の略せるところを審かにせるものあれば、この書が榮の當日記録の全文にあらざること、も又知るべし。故に四庫全書提要には、榆木川の役、その事世に異説多きも、榮が記すところは史と符合す。蓋し史官その帷幄の臣にして身、顧命に預れるを以て、故に用ひて以て據となす。その實録なると否とは又者ふべきなしと云へり。之を金幼孜の北征二録に比すれば、その信據に値する點に於て、稍及ばざるところあるを免かれざるも、然もその記せる行程山川は、又疑ふべき餘地なければ、即ち之を明實録に參して當日の事情を考ふるも、大なる誤謬に陥るに至らざるべし。

伏戎紀事

明の高拱撰す、拱字は肅卿、河南新鄭の人、嘉靖廿年の進士、庶吉士に選ばれ、更に編修を授けらる。穆宗の潜邸に居りし時之に侍講せる緣故を以て、その卽位の後、大に重用せられ、官は尙書大學士に至り、隆慶萬曆間、張居正と共に最も權力ある宰相たり。拱は又才略ありてよく大事を決し、穆宗の深く依頼するところたりしが、唯自ら任ずること甚だ厚く、氣を負ひ人を凌ぐを以て、遂に中官に陥れられ、萬曆の初年に退けられ、數年の後卒せり。

隆慶四年、拱が相位に在りし時、韃靼の把漢那吉、その祖父俺答汗が我兒都司より聘せし妻を奪ひたるを恨み、來りて明の宣大山西總督王崇古について降を乞ひしかば、王崇古は巡撫方逢時と共に、上言して、之を優遇し、以て俺答を牽制し、嘉靖以來、明より叛きて俺答に降り、三十年間邊疆を騷擾せしめし趙全等と交換するの策を立てしかば、拱は朝廷にありてこの議を賛成し、把漢那吉をかへし、趙全等を得て之を誅し、以て久しきに亙れる邊害を除き、更に俺答の封王通貢のことを決したり。明の邊疆に對する政策は隆慶中に於けるこの封貢の擧を以て最も成功せるものとなす。拱は當時親しくその機務を主りしを以て、官を退きし後、その始末を記してこの書をなせり。四庫全書提要には、その記事の明史と合せざると

ころあるを指摘し、拱の功に矜りて自ら伐り、記するところ未だ盡く據るに足らざるを言へども、然も書中の記事は、多く王崇古等と往復の文牘及び奏疏等を據として之を編したれば、その記述の詳細なるは、以て當日の實情を徴すべく、韃靼に關する資料として頗る價值あるものたるは疑ふべからざるなり。今本は寶顏堂祕笈及び記錄彙編に刻せる所を參校し、加ふるに明實錄を以てその疑はしき處を正したり。

松亭行紀

塞北小鈔

この二書は共に清の高士奇の撰するところ、士奇は浙江錢塘の人にして、字は澹人、江村と號す。年十九にして北京に至り、國子監生を以て、順天鄉試に應せしが、落第して、賣文を以て生活をなせし際、康熙帝に知られて、内廷に供奉し、大に寵任せられ、詹事府錄事より累遷して、康熙十九年、額外翰林院侍講を授けられたるは異數なり。爾後累遷して、廿六年、詹事府少詹事に進みしが、翌年、巡撫張汧より嘗て賄賂を受けたりと、の嫌疑により、上疏して歸田を乞ひ、原官を以て解任を許された

り、廿八年、帝南巡して杭州に至りし時、士奇の西溪山莊に行幸され、御書の額を賜りたり。士奇は元來科目より出身せずして、然も職を文學に奉じ、帝の寵遇甚だ厚かりしかば、之を攻むる者漸く多く、遂に明史編纂の命を受けたる王鴻緒、一統志編纂の命を受けたる徐乾學等と相前後して、言官の彈劾を蒙り、この年に於て一切の職任を解きしも、帝の信任は衰へずして、卅三年に至り、再び大學士王熙、張玉書等の薦を以て乾學、鴻緒と共に北京に至りて修書の命を受けたり。卅六年、母を養ふを以て歸郷を乞ひ、特に詹事府詹事を授けられてその乞ひを許され、四十一年、禮部侍郎を授けられたるも赴任せざりしが、四十三年、帝が復南巡せし時、遂に隨つて北京に至り、ほどなく歸郷して、その年六月に歿し、諡を文恪と賜れり。著書頗る多し。

松亭行紀は、康熙二十年三月、聖祖が太皇太后を奉じ、直隸遵化州附近の溫泉に行幸せし時、士奇隨行を命せられ、往來せし始末を記せしものにして、四庫全書提要には、その地理を考證する事、未だ正確ならざるを非難せるも、然もその經過せし土地の狀況を記述せることの詳細にして、考證に資あるは、猶之を稱し、殊に之を著録したり。今本は昭代叢書丙集に收むるところによれり。

塞北小鈔は、康熙二十二年、帝が太皇太后を奉じ、古北口を出で、避暑の爲めに、内蒙古地方に行幸せし時、士奇は復隨行を命ぜられしが、途中に於て病を發して返り、その行を終へざりしも、帝が行幸の日程は、殊に之を附記してその始末を明かにせり。帝が北京に還りし後、士奇は翰林院侍讀に轉補し、殊にその病を問はれたる事を記せるを見れば、當時寵眷の盛なりしこと知るべし。この書は隨行の時日甚だ短きを以て、その記載するところも、松亭行紀の如く詳細なるを得ざるも、然も康熙時代に於ける内蒙古地方の地理を考ふるに於て、裨益なしとせず。四庫全書提要は、この書を以て、存目の中に入れたり。今本は松亭行紀と同じく、昭代叢書本によれり。

奉使俄羅斯行程錄

清の張鵬翮撰す。鵬翮字は運青、四川遂寧の人、康熙九年の進士、庶吉士に選ばれ、累遷して武英殿大學士に至り、雍正三年に卒す。年七十七、文端と諡す。鵬翮は康熙年間、に於て名相と稱せられ、殊に河道を治むるに功あり。この書は、鵬翮が兵部督捕右理事官たりし時著はすところなり、康熙二十七年恰

も俄羅斯のペートル大帝の時、東方を經略して黑龍江邊に至り、清朝の兵と雅克薩(アルバジン)に衝突せしかば、康熙帝は内大臣索額圖等をして、道を喀爾喀にとりて俄羅斯に使せしめたり。時に鵬翮は同じく命を奉じて參畫に預かりしが、その途中の行程を記せるもの即ちこの書なり。又の名を漠北日記といふ。

朔方備乘に、この書を評して、考ふるに喀爾喀は北、俄羅斯と界を接し、この往來の道は、即ち今の張家口より庫倫、恰克圖に至るの道なり。唯この時、喀爾喀未だ内屬せず、故に記するところ道路迂回、後に設けたる臺站と同じからず。但し索額圖等出使せし時、特旨を奉じて八旗の精兵萬餘人を率ゐて以て行き、私從の僕馬も又復萬を越え、旌旆飛揚、二十餘里に連亙す。故に沿途營を安んじ、汛を設くること、尋常出使のこと、迥に異なり、未だ俄羅斯の界に抵らずと雖も、然も記述詳明にして考覈に資するに足ると。

この書始めには日を案じて程を記し、後には別に蒙古の掌故に關する記事を分ちて記録し、頗る詳細を極めたり。唯その中河源に關する一章の如きは、この一行の記事と全く關係なし。蓋し鵬翮が蒙古の事を記するによりて、毘聯して之に及べるならん。但だ之を削れば、原書の趣を損ずるを以て、今併せて之を存せり。

この書は又數刻ありて、字句の異同甚だ多く、殆どその何れによるべきやを定め難きものあり。今藝海珠塵本による。

出塞紀略

清の錢良擇撰す、良擇字は玉友、木庵と號す、常熟の人、錢牧齋に於て數世の族孫に當れり。弱冠にして北京に遊びしが、累科第せず。後遂に髮を削りて僧となれり。良擇は、北京にありし時、詩名を負ひ、諸公貴人に賞せられ、遂に索額圖、張鵬翮等が塞外に使用する時、擢でられて同行し、その餘足跡甚だ廣く、殆ど天下に遍かりしも、遂に不遇を以て終れり。その詩集を撫雲集と云ひ、世に行はる。

この書は即ち良擇が索額圖、張鵬翮と共に使命を奉せし時の紀行にして、至る處審かに風土を記し、又古今體詩を挾みて、文筆の及ばざるところを補へり。この行康熙帝は、俄羅斯人と折衝するの用に具へんが爲めに、二人の西洋宣教師を隨行せしめしが、清朝の官書、鵬翮の紀行共にその事を記せず、唯この書のみは明かにその事を記せり。朔方備乘に、其の中綸、音奏議頗る平定、羅刹方略の未だ載せざるところを補ふに足るものありといひ、又殊にその西洋人の同行を記せし事を稱

せるは、以てこの書の信すべき資料たるを證するに足る。

西征紀略

清の般化行撰す。化行字は熙如陝西咸陽の人、少くして父母を喪ひ、王某に養はれたるを以て、その武進士に中りし時王姓を稱し、後に至りて舊姓に復せり。故にこの書中にも總兵官寧夏の王化行と記せり。化行は武事に通曉し、吳三桂の亂に既に戦功を立てたるが、その最も大功ありしは聖祖が準噶爾を征せし時にして、昭莫多の大戦にあり。即ち康熙三十五年のことにして、化行は時に寧夏の總兵たりしが、標兵三千を領して、撫遠大將軍費揚古に従ひ、西路より進んで噶爾丹を勦し、昭莫多に於て大に之を破れり。この役噶爾丹は、最も内助の功多かりし阿努可敦を喪ひ、僅かに數十騎を以て逃れたる程にして、その敗滅の原因は全くこの役にあり、遂に翌年に至りて勢窮して自殺せり。化行は、清朝の諸將中この役に於ける功最も高く、聖祖が寧夏に幸せし時、準噶爾の降附者に對し、化行を指して、この將軍は即ち爾等を殺敗せる者なりと云ふに至れり。

この書は實にこの役の始末を詳述せるものにして、其の兵事、地理に關する記述

は皆以て信を徵すべし。この役に關する官書は、平定朔漠方略の如きありて、その詳密を極めたるも、その記述は、主として案牘により、軍機の隱微に至りては之を盡さざるものあり。この書は化行が親しくその經歷せる所を記せるを以て、官書の遺漏を補ひ、當日の事情を盡すに足る。故に魏源が聖武記を修めし時、康熙親征準噶爾記に於て、本文は主として官書によりて之を録せしも、然も化行のこの書を節録して其後に附し、以て參照に資せり。化行は、この役を經し、功を以て雲騎尉世職を給せられ、廣東提督に擢でられしが、康熙四十一年に至り官を辭し、四十九年に卒せり。今刻するところは昭代叢書本によれり。

從西紀略

清の范昭達撰す。昭達字は笠巖、江南吳縣の人、その仕履を審かにせず。康熙の末年準噶爾の澤旺阿喇布坦、清朝に抵抗せしを以て、聖祖は皇十四子允禩を以て撫遠大將軍として青海を鎮撫せしめしが、この時振武將軍傅爾丹は科布多の附近なる毛代插漢叟兒に鎮戍して、之と犄角相應せり。この地は殺虎口より出で、七千餘里の遠きにあり、極めて重要な地にして、軍書の往復頻繁なるも、その間未だ臺站

あらずして、甚だ馳述に便ならざるを以て、五十八年四月兵部尙書范某等に命じて、臺站安設のことを企てしめたり。時に昭達は范尙書に従ひ歸化城を経て插漢叟兒に至りて歸れり。本書は即ちこの一行の行程を記せしものにして、山西より科布多に出づる沙漠西路の地理風土を述べたる重要なる資料たり。今刻するところは又昭代叢書本によれり。

奉使三音諾彥記程草(佩蘅詩鈔)

塞上吟(佩蘅詩鈔)

清の寶璽の撰するところにして、其著佩蘅詩鈔中に刻せり。寶璽は字を佩蘅といひ、滿洲鑲白旗の人にして、索綽絡氏なり。道光十八年の進士にして、始め主事を以て禮部に用ひられ、二十七年詹事府右中允に擢でられ、咸豐八年七月浙江鄉試正考官に充てられ、十年に總管内務府大臣を授けられ、管理三山事宜たりしが、この年英佛軍の北清侵入ありて、三山の地もその侵略を蒙りしにより、降されて五品頂戴となれり。十一年に在軍機大臣上行走並びに總理各國事務衙門大臣となり、同治元年戸部尙書に進み、三年には長髮賊平ぎしを以て賞を受け、七年には捻匪

平ぎしを以て復賞を受けたり。光緒三年、武英殿大學士を授かり、十二年を以て致仕し、十七年に歿し、諡を文靖と賜はれり。

咸豐同治の間、支那の争亂に際し、長髮賊、捻匪、苗賊、回匪等各地に起り、加ふるに英佛軍の侵入ありて、咸豐帝は、遂に熱河に蒙塵するに及びしが、この時中央政府の重鎮としてよく危局を支持せし者は、恭忠親王及び文忠公文祥及び寶鋆の三人なりと稱せられたり。争亂平定するに及びて、寶鋆等を攻撃する者多く、文祥は、光緒二年に歿し、寶鋆は次で致仕し、恭親王も晩年に勢力を失ふに至れり。

寶鋆は旗人より出身せるも、文學に通じ、佩蘅詩鈔の著あり。その宰相たること多年に互りしも、黨派を樹てず、賄賂に瀆れざりしを以て世に稱せらる。

上の二書は、咸豐四年使を蒙古に奉せし時、途中に於て詠せしところの詩並に蒙古滞在中の作にして、之によりてその地方の臺站の狀況、並に風土習俗を徴するに足り、専ら辭藻を彫琢するを以て主とするものに非ず。之を讀めば人をして親しく漠北を旅行するの感あらしむ。

張家口至烏里雅蘇臺竹枝詞

この書は清の志銳の著すところにして、志銳は廓軒と號し、その履歷を審かにせざるも、恐らくは旗人の文學ある者なるべし。

志銳は光緒二十一年、烏里雅蘇臺に職を奉せしが如く、その途中にありて、各臺站毎に小詩を賦して行程を記せしこと、寶壘の奉使三音諾彥記程草と體裁を同じ、その蒙古地名に譯言を注することなども全く相似たるも、寶壘の行程は北京より推河に至る五十臺に過ぎざるに、志銳の行程は、更に延いて第六十四臺花碩洛圖に及び、作るところの詩は、各臺六十四首、風俗に關するもの二十一首、雜詠十五首にして、寶壘の及ばざる所を審かにせり。今本は徐乃昌氏が志銳の原稿によりて懷函雜俎中に刻せしものを本とせり。

口北三廳志

自卷之十四
至大尾

大正八年八月
滿蒙叢書刊行會發行

纂

內藤虎次郎

稻葉岩吉

岡崎文夫

訂

石山福治

服部暢

口北三廳志卷之十四

直隸分守口北道金志章撰

藝文志三

詩 樂府歌行

敕勒歌

北齊 斛律金

敕勒歌陰山下。天似穹廬蓋四野。天蒼蒼野茫茫。風吹草底見牛羊。

大漠行

唐 崔 湜

單于犯薊堞。驃騎略蕭邊。南山木葉飛下地。北海蓬根亂上天。科斗連營太原道。魚麗合陣武威川。三軍遙倚伏。萬里相馳逐。旌旆悠悠靜瀚源。鞞鼓喧喧動盧谷。窮徼上幽陵。吁嗟倦寢興。馬蹄凍溜石。衣毳暖生冰。雲沙泱泱天光閉。河塞陰沈海色凝。崆峒異國誰能托。蕭索邊心常不樂。近見行人畏白龍。遙聞公主愁黃鵠。陽春半歧路間。瑤臺苑玉門關。百花芳樹紅將歇。二月臯蘭綠未還。陣雲不散魚龍

水。雨雪猶飛鴻鴈山。山嶂連縣不可極。路遠辛勤夢顏色。北堂萱草不寄來。東園桃李長相憶。漢將紛紜攻戰盈。敵旅蕭條幽朔清。韓君拜節偏知遠。鄭吉驅旌坐見迎。火絕煙沈右西極。谷靜山空左北平。但使將軍能百戰。不須天子築長城。

部落曲

唐高適

蕃軍傍塞游。代馬噴風秋。老將垂金甲。闕支着錦裘。琯弓蒙豹尾。紅旆插狼頭。日落天山下。鳴笳漢使愁。

鐵山碎

鼓吹鏡歌第八

唐柳宗元

鐵山碎。言突厥之大。自古傳。莫彊焉。師大破之。降其國。告於廟也。鐵山碎。大漠舒。二虜勁。連穹廬。背北海。專坤隅。歲來侵邊。或傳于都。天子命元帥。奮其雄圖。破定襄。降魁渠。窮竟窟宅。所余吾。百蠻破膽。邊氓蘇。威武輝耀。明鬼區。利澤彌萬祀。功不可踰。官臣拜手。惟帝之謨。

春水行

金趙秉文

先春宮外春水生。鴛鴦飛下寒猶輕。綠衣探使一鞭信。春風寫入鳴鞘聲。龍旗曉日迎天仗。小隊長圍圓月樣。忽聞疊鼓一聲飛。輕紋觸破桃花浪。內家最愛海東青。錦韉掣臂翻青冥。晴空一擊雪花墮。連延十里風毛腥。初得頭鷺誇得雋。一騎星馳薦陵寢。歡聲沸入萬年觴。瓊毛散上千官髯。不才無力答陽春。羞作長楊侍從臣。閒與老農歌帝力。歡呼一曲太平人。

扈從行

金趙秉文

馬翻翻車轆轤。塵土難分真面目。年年扈從春水行。裁染春衫波漾綠。綠韉珠勒大羽箭。少年將軍面如玉。車中小婦聽鳴鞭。遙認飛塵郎馬足。朝隨鼓聲起。暮逐旗尾宿。樂事從今相繼躅。聖皇歲歲萬幾暇。春水圍鵝秋射鹿。

做郎士元寶刀塞下兒

金趙秉文

長安俠少年。白馬黃金鞭。侈騎捧長劍。官儀如殿前。烟塵生絕塞。烽火照甘泉。如聞辭第將。遺貌上凌烟。

征人怨

元好問

瀚海風烟掃易空。玉關歸路幾時東。塞垣可是秋寒早。一夜清霜入鏡中。

沙陀行

元郝經

老鼠山陰界。墻北隱隱磷磷起。沙磧泉腴草美地。高寒王氣瑰雄當。斗極幾回秦漢儘。消沉隔斷中原沒。行跡坡陀瀾漫重。復重。舊灤新尖宛如一。天傾海倒白浪枯。中有生龍千萬匹。雲屯霧郁無畔岸。水灑煙浮川谷溢。駮驪窟宅簸蕩寬。駮駮康莊憂磨密。參差不斷動魚文。汹潼相銜翻蟻隙。噴風掣電脫兔疾。色別群分鮮錦織。春迴凍裂怒蹄齧。踢碎水天轟霹靂。分馳茁莊賈餘俊。突兀權奇縮生力。角伏踈促口叉豁。目凸銅毬凹溝脊。鯨鬣瀾翻鳳臆橫。山字圓平尾梢直。

飄飄舉是萬里足。往往玉立八九尺。雪壓草根脂滿口。不解人間有
皁櫪。腹腴氣猛穩且馴。不喜牽籠喜迎敵。隘視河山渾一抹。仰首西
風聽鳴鏑。古來伯樂未曾見。天下更無多馬國。國初西北半天紅。房
駟光芒遶天策。帳前白駒飛下天。青草年年益蕃息。開國一戰何所
須。木鎗五千跨生駒。百萬山崩排堵墻。乘勝逐北過燕都。更得金源
四十萬。大青小青絕世無。回戈却取西南夷。奄有渥洼與余吾。長鬚
巨鼻入監牧。大宛空群王作奴。崑崙蹴平飲河源。瑤池月窟皆長驅。
沙陀拓境數萬里。驥騶驍騰古無比。金粟堆空漢月沈。馬上真人作
天子。釁端不在宴賜年。斗尾堆金勢難止。西域既定右臂舉。皁旗隨
風便南指。迅鋒踏破李王城。抄騎直入杏花營。小關透漏潼關敗。嶢
峰扶出汴梁驚。黃流見底江漢狹。我馬正渴方橫行。中原無人馬有
足。殘城破屋不足平。風聲鶴唳皆落膽。但言有馬不問兵。旣平西海
復南海。馬鳴蕭蕭廻旆旌。歸來罷戰合長圍。令如殺敵誰敢違。包山

絡海數千里。西稍把手隔年期。一朝圍合密鐵匝。馬耳戢戢爲籬籬。百獸擁起自衝蹙。骨牙挂角傷毛皮。先開一面放三日。然後共施弧矢威。黃羊野馬不足數。躡躡羆兕驅熊羆。赤霧不散肉山赭。乾坤模糊血淋漓。長楊上林莫大誇。舍長露短彼一時。向令見此無復獵。相如枉用多文辭。以戰爲獵國俗然。況乃萬里皆鞭笞。馬多地廣兵力勁。將士能將馬爲命。終身騎射不離鞍。辛苦生獰殆天性。每將饑渴勒狂橫。一飽一肥無復病。俊逸都無水草態。變化自有真龍性。鼓鼙聲動便開張。人人據鞍皆王良。直入飲血齧頭顱。查牙生人潤枯腸。所向空闊都無敵。遂令四海皆天王。駝駝錦背高崔嵬。玉帛萬國來梯航。琵琶絃急曳落高。酡顏半醉馬乳香。玉脂澌灑玻璃滑。浮動酥顆金粟黃。供官大群肉擁腫。揮霍瀕洞如酒漿。馬頭一璞驚孱顏。橫截數尺琢玉鞍。絳革編珠排碎錦。繁纓小鈴絡金環。前朝不數大無價。九采奪目誰敢看。五花虎文稱裝束。踏地恐破驕且閑。大官牽來

至尊御。馬前拜舞朝百蠻。此時息民立紀綱。泰山四維萬世安。地無與大兵無強。何用更舉祗自殘。天生此馬爲天下。敵盡兵窮亦當罷。五十年來不摘鞍。安得瘡痍被王化。但願沙陀馬無數。會見中原有新戶。深宮九重不動塵。永使驂騮脫羈鼻。

白山行

鴛鴦灤東白石山。一峰峻削尤高寒。金蓮花擁玉芙蓉。奇秀誰教在此間。頑冰積雪雕鏤就。追琢琳琅露枯瘦。霧披煙染不能青。草隱沙昏日依舊。當時朱劬若相逢。玉京不運萬歲峰。華陽宮中第一山。沉水灌洗金泥封。瑰異無緣到華夏。歲歲年年聚羊馬。幾回重著吟鞭點。崔嵬貌作詩中畫。曉來雨過無埃塵。落月冷浸光更新。就中必有連城璧。世間誰過三別人。北山安得移山叟。移向石淙玉溪口。太湖烏玉都壓倒。更添風月三千首。

北嶺行

元郝三經

中原南北限兩嶺。野狐高出大庾頂。舉頭冠日尾插坤。橫亘一脊繚絕境。五臺南望如培塿。下視九州在深井。上有太古老死冰。沙埋土食光爛爛。盤磴滑硬草無根。枯石摩天墮生礪。南人上來不敢前。撲面欲倒風色猛。坡陀白骨與山齊。慘澹萬里殺氣冷。嶺北乾坤士馬雄。雪滿弓刀霜滿頸。稀星如盃斗直上。太白如月人有影。寄語漢家守城將。莫向沙場浪馳騁。

化城行

東郊野馬如鳥驚。依稀隱約還成城。參差雉堞雲間橫。鰲頭岌窱擊長鯨。壯哉三都與兩京。殿閣樓觀頽空明。丹雘峭麗欵且傾。烟氣荏苒搖旆旌。其中似有百萬兵。是邪非邪寂無聲。秦邪漢邪杳難名。長風忽來一掃清。赤日如赭高天青。霜淨沙乾雁鷺鳴。路傍但見棘與荆。祇有慘澹萬古情。人間城郭幾廢興。一抔聚散皆化城。君不見始皇萬里修長城。人土竝築頑如冰。屈丐按劍將土蒸。堅能礪刀草不

生神愁鬼哭枯血腥。殺人盈城著死爭。只今安在與地平。平地深谷爲邱陵。江南善守鐵瓮城。城外有田不敢耕。西北廣莫無一城。控弦百萬長橫行。身爲心城屋身城。一朝破壞俱化升。佇立感化參玄冥。乾坤翻覆一化城。案張獨二口塞外有太子城遺蹟。已不可考。每黎明時。從遠望之。見有城郭涌出地上。樓櫓雉堞。宛然如新。須臾日出。卽隱不見。殆卽所謂化城者。蓋亦地鏡海市之類也。又案此詩中重用七城字。是亦有意而爲之者。非漫然也。

松林行

元 袁 桷

陰陰松林八百里。昔日相傳爲界址。玄雲卷甲天馬來。雪兔霜狐先委靡。山前犬牙十六州。石郎屈膝輕相投。淺沙圓石古轍迹。草青青枯無盡愁。闕二拂天鎮南北。萬井燃松烟似墨。大車闕二龍角全。小車輪困束矛戟。松花落子闕復抽。不如昔日當道稠。采薪之人不辭遠。出郭十里爭相酬。君不聞雪山之西銅柱南。混同鴨綠成東漸。金山橐駝爭貢寶。翦取平林作馳道。

天鵝曲

元 袁 桷

天鷲頸瘦身重肥。夜宿官蕩羣成圍。蘆根唳唳水蒲滑。翅足蹇曳難輕飛。參差旋地數百尺。宛轉培風借雙翮。翻身入雲高帖天。下陋蓬蒿去無跡。五坊手擎海東青。側眼光透瑤臺層。解條脫帽窮碧落。以掌疾攔東西傾。離披交旋百尋袞。蒼鷹助擊隨勢遠。初如風輪舞長竿。末若銀毬下平坂。蓬頭喘息來獻官。天顏一笑催傳餐。不如家雞柵中生死守。免使羽林春秋水邊走。

楊花曲

上都楊花瘦且堅。葉葉不展圓如錢。年年飛花作端午。遠客乍見心茫然。上都飄雪不知數。此花與雪相旋舞。黃鸝聲絕孤雁鳴。萬騎千車互來去。手攀短條心欲絕。宛轉成毬恨初結。寒風飛蓬卷車輪。點點相亞隨相滅。南鄰蕩子衣夜單。曉望日出如黃綿。辛勤掇拾不敢棄。願刮龜毛同作氈。

北行歌

元馬祖常

君不見李陵臺白龍堆。自古戰士不敢來。黃雲千里雁影暗。北風裂
 旗馬首回。漢家衛霍今何用。見說軍還如裏痛。不思百口仰食恩。豈
 念一身推轂送。如今天子皇威遠。大磧金山烽燧鮮。却將此地建陪
 京。灤水回環抱山轉。萬井喧闐車戛輪。翠華歲歲修時巡。親王親圭
 荆玉盡。侍臣朝絳纘。珠新高昌句麗子入學。交趾蠻官貢鱗角。斗米
 三錢金如土。國人謳歌將軍樂。將軍樂四海清。吾皇省方豈田獵。觀
 風察俗知太平。

車簇簇行

元馬祖常

李陵臺南車簇簇。行人夜向灤河宿。灤河美酒斗十千。下馬飲者不
 計錢。青旗遙遙出華表。滿堂醉客俱年少。侑杯小女歌竹枝。衣上翠
 光金陸離。細肋沙羊成體薦。共訝高門入三縣。白髮從官珥筆行。毳
 袍衝雨桓州城。

上京端午行

羅襦垂垂扇奩歇。守宮持紅不數蝎。桐官馬酒銀流澌。內饗餅啖酥
凝雪。灤水之陽漢陪京。拂天翠華風日清。繡絲鞋墻擅南陌。玉環鏡
鼻專東城。射柳王孫五花馬。醉來見客不肯下。擷藍攬綠鬪草嬉。靈
運無鬚更誰詫。香爐熏衣今幾人。蘭堦晝永簾光勻。圍坐屏風罨畫
劇。杯中菖蒲笑回春。

白翎雀歌

烏桓城下白翎雀。雌雄相呼以爲樂。平沙無樹託營巢。八月雪深黃
草薄。君不見舊時飛燕在昭陽。沉沉宮殿銷鴛鴦。芙蓉露冷秋宵永。
芍藥風暄春晝長。

灤水秋風詞

元柳貫

朶樓清曉常祠罷。吾殿新秋曲宴回。御帛功由寒女出。分頒恩自九
天來。

西風初吹白海水。落日正見黑山雲。旃盧小泊成部署。沙馬野駝連

數羣。

後灤水秋風詞

元柳貫

界牆窪尾砂如雪。灤河背頭風捲空。泰和未必全盛日。幾驛雲州避暑宮。

旋卷木皮斟醴酪。半籠高帽敵風砂。丈夫射獵婦當御。水草肥甘行處家。

山郵納客供次舍。土屋迎寒催瑾藏。砂頭蘑菇一寸厚。雨過牛童提滿筐。

上都柳枝詞

元王士熙

惹雪和烟復帶霜。小東門外萬條長。君王夜過五花殿。曾與龍駒繫紫韁。

偏嶺前頭樹樹逢。輕於蒼檜短於松。急風捲絮悲游子。永日留陰送去儂。

合門嶺上雪淒淒。小樹雪深望欲迷。何日汝陽尋故里。綠陰陰裏聽鶯啼。

竹枝詞

元 王士熙

宮裝驪裏錦障泥。百兩氍毹一字齊。夜宿巖前覓泉水。林中還有子規啼。

車簾都卷錦流蘇。自控金鞍撚僕姑。草間白雀能言語。莫學江南唱鷓鴣。

北方巫者降神歌

元 吳 萊

天深洞房月漆黑。巫女擊鼓唱歌發。高梁鐵鐙懸半空。塞向瑾戶跡不通。酒肉滂沱靜几席。箏琶朋措淒淒風。暗中鏗然那敢觸。塞外祇神喚來速。隴坻水草肥馬羣。門巷光輝耀狼羆。舉家側耳聽語言。出無入有凌崑崙。妖狐聲音共叫嘯。健鶻影勢同飛翻。甌脫故王大獵處。燕支廢積黃沙樹。休屠收像接秦宮。于闐請騶開漢路。古今世事

一渺茫。楚襪越女幾災祥。是耶非耶降靈場。麒麟披髮跨大荒。

塞上曲

元 廼賢

秋高砂磧地椒稀。貂帽狐裘晚出圍。射得白狼懸馬上。吹笳夜半月

中歸。馬乳新桐玉滿瓶。沙羊黃鼠割來腥。蹋歌盡醉營盤晚。鞭鼓聲中按

海青。雜沓毳車百兩多。五更衝雪度灤河。當轅老嫗行程慣。倚岸敲冰飲

橐駝。烏桓城下雨初晴。紫菊金蓮漫地生。最愛多情白翎雀。一雙飛近馬

詐馬行

井序

元 周伯琦

國家之制。乘輿北幸上京。歲以六月吉日。命宿衛大臣。及近侍。服

所賜只孫珠翠金寶衣冠腰帶。盛飾名馬。清晨自城外。各持綵仗。

列隊馳入禁中。于是上盛服。御殿臨觀。乃大張宴爲樂。惟宗王戚里。宿衛大臣。前列行酒。餘各以所職。叙坐合飲。諸坊奏大樂。陳百戲。如是者凡三日而罷。其佩服日一易。大官用羊二千。噉馬三匹。他費稱是。名之曰只孫宴。只孫華言一色衣也。俗呼曰詐馬筵。至元六年歲庚辰。忝職翰林。扈從至上京。六月廿一日。與國子助教羅君叔亨。得縱觀焉。因賦詐馬行。以紀所見。

華鞍鏤玉連錢驄。彩暈簇轡珠英重。鈎膺障顛鞞鏡叢。星鈴綵校聲瓏瓏。高冠艷服皆王公。良辰盛會如雲從。明珠絡翠光龍葱。文繒縷金紆晴虹。犀毘萬寶腰鞵紅。揚鑣迅策無留蹤。一躍千里真游龍。渥注奇種皆避鋒。藹如飛仙集崆峒。乘鸞跨鳳來曾空。是時閭闔含薰風。上京六月如初冬。金支滴露冰華濃。水晶殿閣搖瀛蓬。扶桑海色朝曈曈。天子方御龍光宮。袞衣玉璫回重瞳。臨軒下接天威崇。大宴三日酣羣棕。萬羊鬻炙萬甕醲。九州水陸千官供。曼延角觝呈巧雄。

紫衣妙舞衣細蜂。鈞天合奏春融融。獅獐虎嘯跳豹熊。山呼鼉扑萬
姓同。曲欄紅藥翻簾櫳。柳枝飛蕩搖蒼松。錦花瑤草烟茸茸。龍岡環
拱灤水淙。當年定鼎成周隆。宗藩磐石指顧中。興王彝典歲一逢。發
揚祖德并宗功。康衢擊壤登時雍。豈獨耀武彰聲容。願今聖壽齊華
嵩。四門大啓達四聰。臣歌天保君彤弓。更圖王會傳無窮。

白翎雀

元 張 憲

眞人一統開正朔。馬上鞦韆手親作。教坊國手碩德閭。傳得開基太
平樂。檀槽訝訝鳳皇麟。十四銀環柱冰索。摩訶不作兜勒聲。聽奏筵
前白翎雀。霜矰矰風殼殼。白草黃雲日色薄。玲瓏碎玉九天來。亂撒
冰花灑氈幕。玉翎琤玆起盤礴。左旋右折入寥廓。崑崙孤高繞羊角。
啾啾百鳥紛參錯。須叟力倦忽下躍。萬野寒星墜叢薄。碧然一聲震
龍撥。一十四絃暗一抹。鴛鴦飛起暮雲平。鷺鳥東來海天闊。黃羊之
尾文豹胎。玉液淋漓萬壽杯。九龍殿高紫帳暖。蹋歌聲裏懽如雷。白

翎雀樂極哀。節婦死忠臣摧。八十一年生草萊。鼎湖龍去何時回。

白翎雀辭二章

井序

元 楊維禎

按國史脫必禪曰。世皇畋於松林。聞婦哭甚哀。明日白翎雀飛集。幹耳朶上。其聲類哭婦。上感之。因令侍臣製白翎雀辭。雀能制猛獸。尤善禽鴛鴦也。舊辭未古。為作白翎鶻二章。以補我朝樂府。白翎雀西極來。叶金為冠玉為衣。百鳥見之不敢飛。雄狐猛虎愁神機。先帝親手鞵。重爾西方奇。海東之青汝何為。下攫草間雉兔肥。奈爾猛虎雄狐狸。

白翎雀來西極。地從翼旋山目側。邊風勁氣勁折膠。材官猛箭與之敵。黃狼紫兔不餘力。須臾白雪輕。一舉千仞直。鴛鴦洒血當空擲。金頭玉頸高十尺。千秋萬歲逢玉食。

塞上謠八首

錄四

明 張 昱

玉貌當壚坐酒坊。黃金飲器索人嘗。胡奴疊騎唱歌去。往還都是射

鵬兒。

溘然路失龍沙西。桐酒中人軟似泥。馬上毳衣歌刺刺。往還都是射鵬兒。

野蠶作繭絲玉玉。乳雞浴沙聲谷谷。駱駝妳子多醉人。氈帳雪寒留客宿。

雖說灤京是帝鄉。三時閑靜一時忙。駕來滿眼吹花柳。駕起連天降雪霜。

白翎雀歌

明張昱

烏桓城下白翎雀。雄鳴雌隨求飲啄。有時決起天上飛。告訴生來毛羽弱。西河伶人火倪赤。能以絲聲代禽臆。象牙指撥十三弦。宛轉繁音哀且急。女貞處子舞進觴。團衫鞞帶分兩房。玉纖羅袖柘枝體。要與雀聲相低昂。朝彈暮彈白翎雀。貴人聽之以爲樂。變化春光指顧間。萬蘂千花動絃索。只今蕭條河水邊。宮庭毀落沙依然。傷哉不聞

白翎雀。但見落日生寒烟。

雲州謠

尹耕

黃霧塞雲州。川止有獨石。無新邊無新邊。虜伺便堪憐。小校能迎戰。頭二刀臂雙箭。西軍來若雷電。漢廷飛將何足羨。

出塞曲

尹耕

鷺鷥淬劍鵠調弓。獵罷陰山落日紅。鐵騎不嘶沙磧草。牙旗飛掣枯棹風。

塞上曲

謝榛

旌旗蕩野塞雲開。金鼓連天朔雁回。落日半山追北騎。彎弓直過李陵臺。飛將龍沙逐北還。夜驅駝馬入燕關。城頭殘月誰橫笛。吹落梅花雪滿山。

塞下曲

明胡應麟

平沙一望隴雲開。玉笛飛聲夜轉哀。萬里朔風吹不斷。梅花齊落李

陵臺。

塞下曲

本朝 徐蘭

萬騎從天下。邊人拭目看。長城無數窟。飲馬一時乾。

赤陵姐琵琶歌

本朝 徐蘭

邏沙檀上紅紋蹙。龜茲國唱無愁曲。尤物皆乘氣運生。天教色藝空金屋。千年大漠藏龍蛇。化爲女子顏如花。生長赤陵呼作姐。能將蕃曲譜琵琶。琵琶宮調八十一。別有新聲緩挑出。韻並風生樂萬方。國王略爾一見加諸膝。其王分地跨興和。山名西與山戎厄魯特接壤多。間起侵凌緣互市。終修和好悔操戈。鼓聲坎坎冰天裂。豔粧正踏山頭雪。一枝春色照黃沙。兩國兵端從此結。虎奪龍爭秋復春。朝爲楚媵暮爲秦。掌上青娥偏解舞。原頭戰骨幾生塵。皇皇天子修文德。頻遣行人頒玉敕。蠶茲緜丹貉嚙爾惡浮天。爲一婦人滅一國。旌旗出沒黑山陬。風雨憑陵青海頭。塵起百靈爭訴帝。霜高屬國盡防秋。維時五

月三日暮。至尊駐蹕香泉戍。寇騎倉皇走大荒。龍驤浩蕩來西路。羽林年少爲余言。親見闕氏陣前仆。

噶爾丹之妻
名阿魯嘎吞。

四寸文綦么鳳飛。週身

細鎧秋金鍍。芙蓉十隊化寒烟。剩有殘英泣斷弦。鬢點雪霜亡普贊。命餘鋒鏑出祁連。理藩院裏秋槐老。階墀猶把琵琶抱。宛似蝦蟇陵下人。潯陽江上傷潦倒。聽彈一曲別郎官。弦上傳來意萬般。未死若憐北地隔。得歸翻戀漢恩寬。曲終上馬風蕭索。風吹淚逐哀弦落。何須淚逐哀弦落。禾黍油油滿沙漠。君不見傾城傾國代有人。若個老歸生處樂。况爾歸時國有君。太平無復強侵弱。

五言古詩

李陵臺

唐劉灣

漢武愛邊功。李陵提步卒。轉戰單于庭。身隨漢軍沒。李陵不愛死。心存歸漢闕。尙欲報國恩。不爲匈奴屈。身辱家已無。長居虎狼窟。朔天無春風。北地多積雪。窮陰愁殺人。况與蘇武別。發聲天地哀。執手肺

腸絕。白日爲我愁。陰雲爲我結。生爲漢宮臣。死爲北地骨。萬里長相思。終身望南月。

界牆雪

不用體物字。昌州北。金人所築界牆也。

元郝經

陰風播長嶺。坤倪忽軒豁。嶙峋生鐵雲。黯淡死灰潑。初來雜沙石。硬顆傾碎雹。旋轉迸玉屑。一噴勢愈惡。勁發萬弩齊。激去掣箭鑿。委積皆重搭。背左著點剝。遵緊不暇飛。滾滾互團栝。蟠空凍相粘。連締渾欲閣。漫天都一片。奚計席與箔。何處覓界牆。人間無海嶽。顧盼已數尺。氣偃驚駭愕。慄慄寒作威。稜稜痛如斫。模糊半垂面。酸楚欲折腳。我馬不得前。我僕指已落。重繭頓覺輕。透骨江紙薄。挾纊殆兒戲。豐貂亦纖弱。向晚耦陡黑。陰雲肆饕虐。橫空怒潮頭。壓地塌天角。平拉老鼠山。倒卷鴛鴦灤。刀槊走柔然。金鼓鑿衛霍。竟夜遽呼號。乾坤碎磨錯。車從谷口沒。人在冰底罨。黎明遞相尋。堆阜各挑撥。還聞頓足歌。彎弧盡欣躍。正好射黃羊。何須待消鑠。長嘯蹴踏去。天沙蕩寥廓。

聲繞霹靂絃。查牙競禽縛。平地深虎穿。更不用繒繳。瀝血嚼紫肝。流
澌飲紅酪。雪盛馬尤肥。皇天助幽朔。資賦不畏寒。自得生處樂。可笑
羸秦初。更歎金源末。直將一抔土。欲把萬里遏。隱墻日避冷。手弄不
龜藥。救死尙未能。奚暇更守捉。况乃天道北。斗極重旋斡。黑雪是長
安。飛灑過汴洛。突兀無與強。萬古入陰壑。爲告党家兒。惟當守盟約。
君看銷金帳。豈是疆戎索。

書上都學宮齋壁

元馬祖常

齋居芹宮傍。永日少人跡。清心暮古躅。簡編頗紬繹。徒自傷迷民。位
卑力莫及。苟祿亦可羞。吾將反蓬華。

望李陵臺

元柳貫

平沙北流水。青山在其上。李陵思鄉臺。駐馬一西向。草根含餘淒。峰
尖入塞望。俚言雖莫稽。陳迹尙可訪。想其深入初。步卒亦材壯。手張
天子威。氣奪名王帳。覆車陷囚虜。此志迺大妄。一爲情愛牽。遑恤身

名喪。縷縷中郎書。挽使同跌蕩。安知臣節恭。之死不易諒。河梁執別處。出語謾惆悵。家聲故燁赫。三世漢飛將。兵法有死生。人運迭休旺。忠回在信史。豈沒功罪狀。馬遷當腐刑。強欲雪其謗。土思豈能無。層雲塞亭障。千年麒麟圖。吾將執玄鬯。

書上京國子監壁

元虞集

神京極高寒。幽居了晨夜。雷風無時發。零雨每飄灑。炎光不到地。蕭爽度長夏。大化漠無宰。豈必事陶冶。揚雄不曉事。守道棲棲者。元經百無徵。白髮漫盈把。

擔子窪

元黃潛

自從始出關。數日走崖谷。迢迢度偏嶺。險盡得平陸。陂陀皆土山。高下紛起伏。連天暗豐草。不復見林木。行人烟際來。牛羊雨中牧。颯然衣裳單。咫尺異寒燠。佇立方有懷。相逢仍問俗。畏途宜疾驅。更傍灤河宿。

上都分院

元黃潛

晨興過桓州。旭日生蒼涼。舉頭見觚稜。金碧何巍煌。洪河貫其中。青山環四旁。暮投玉堂署。鼇峰屹中央。升階旅羣彥。官燭分餘光。琴冊紛在側。談笑來清觴。列坐無所爲。陳詩詠黃唐。帝鄉豈不樂。父母遠莫將。起視雲漢低。垂星爛寒苾。南飛有冥鴻。邈矣天際翔。

灤河

元袁桷

近山馬昂鬣。遠山鳳翥羽。百谷奔亂流。屈曲長蛇赴。維時雨新過。急溜糟牀注。居人滙爲井。千屨集沙步。寒光澄玉膏。甘冽過牛乳。茲泉成白溝。巨浸合沮洳。蓮芡充餽糧。魚蝦足租賦。塞翁話疇昔。陋彼成險固。往事不復論。汙汙日東去。

登侯臺

元袁桷

蜿蜒西龍岡。綠草搖晴波。旁有雙玉井。石角增嵯峨。明良佐神運。目力窮陂陀。層垣睥睨雄。寶構通義娥。昂昂鐵竿聳。飛鳥光盪摩。土屋

黏蜜房。文氈圍錦窠。緬思皇猷遠。默止松林戈。匪以清暑遊。跋履勞
鳴珂。陰森晚色晦。寒沙聚羣駝。悲笳月初上。戴斗瞻天河。

灤河吟

元宋本

灤河上游陋。涓涓僅如帶。偏嶺下橫渡。復遠行都外。頗聞會衆流。既
遠勢滂沛。雖違禹貢道。獨與東海會。乃知能自致。天壤無廣大。

金蓮川

元陳孚

茫茫金蓮川。日映山色赭。天如碧油幢。萬里罩平野。野中何所有。深
草臥羊馬。昔人建離宮。今存但古瓦。秋風吹白波。猶似哀淚灑。村女
採金蓮。芳香紅滿把。豈知步蓮人。艷骨掩泉下。人生如蜉蝣。百年無
堅者。安得萬斛酒。浩歌對花瀉。

李陵臺約應奉馮昂霄同賦

元陳孚

落日悲笳鳴。陰風起千嶂。何處見長安。夜夜倚天望。臣家羽林中。三
世漢飛將。尙想甘泉宮。虎賁擁仙仗。臣豈負朝廷。忠義夙所尙。漢天

青茫茫。萬里隔亭障。可望不可到。血淚墮汪漾。空有臺上石。至今尙西向。

擔子窪

昔多盜賊。今置巡檢司於山椒。其山無林木蔓草。

元 迺 賢

朝發牛羣頭。夕憩擔子窪。高秋得清曠。野蔓多幽花。黃雲翳日脚。草色浮天涯。山荒樹寂寂。寒陂落昏鴉。頗喜盜賊清。塞田盡禾麻。至今將軍壘。日落聞清笳。我生久羈旅。崎嶇涉風沙。天寒道路遠。曠黑投山家。

李陵臺

元 迺 賢

落日關塞黑。蒼茫路多岐。荒烟淡暮色。高臺獨巍巍。嗚呼李將軍。力戰陷敵圍。豈不念鄉國。奮身或來歸。漢家少恩信。竟使臣節虧。所愧在一死。永爲來者悲。千載撫遺蹟。憑高起遐思。褰裳覽八極。茫茫白雲飛。

次上都崇眞宮。呈同遊諸君子。

元 賢

雞鳴涉灤水。慘淡望沙漠。穹盧在中野。草際大星落。風高班馬嘶。露下貂裘薄。晨霞發海嶠。旭日照城郭。嵯峨五色雲。下覆丹鳳閣。琳宮多良彥。休駕得棲泊。清尊置美酒。展席共歡酌。彈琴發幽懷。擊筑詠新作。佳時屬承平。幸此帝鄉樂。願言崇令德。相期保天爵。

鴛鴦灤作

元周伯琦

官路何逶迤。里數不可度。宿止有常程。晚次鴛鴦灤。山低露草深。天朗雲氣薄。積水風颼颼。平沙烟漠漠。鳧鷖雜翔集。巨鱗倏潛躍。居人歲取給。遠眺近一勺。原隰多種藝。農奚犬牙錯。滌場盈粟麥。力穡喜秋穫。舒徐八駿遊。相羊瑤池樂。山川豈不佳。人事日蕭索。芻牧紓邦供。征徭非昔昨。都人望翠華。朝朝候靈鵲。

興和郡

屬河東憲司按部。西抵太原千餘里。

元周伯琦

我行已旬浹。所歷皆朔漠。興和號上郡。陂陀具城郭。灤陽界東履。汾晉直西略。提封廣以遐。編氓半土著。連藁結賈區。層樓瞰寥廓。要會

稱雄麗。勢壓諸部落。興王遠垂裕。百載承制作。北巡必西還。遠擬東
邑洛。供億須浩繁。撫循在恭恪。四鄰懼備虞。三輔嚴寄託。賢愚不同
調。蟲沙與猿鶴。長願四海清。漢儀歲輝爍。

懷禿腦兒作

漢言後海也

元周伯琦

侵晨離白海。輦路轉西邁。野光散平蕪。山容列修黛。秋風動地來。曾
波忽澎湃。戎馬多驚嘶。寒聲襲鞶帶。踰岡覽晴川。夷曠襟抱快。白花
間紫莠。將將委珩珮。幽興足目前。絕境疑方外。旌麾匝雲屯。輿帳擬
行在。法從各有司。諫垣敢荒怠。邊報叢遠函。蒼黃盡吁怪。解鞍憩前
村。伏枕念當代。王綱未旒綴。羣生半塵芥。紆軫誰與言。沉思屢長慨。
東南何時蘇。吾欲問大塊。

是日驛報。杭省有警。

黑谷東路山

元朱德潤

高岡盤崔巍。白石落絕壑。鳴泉咽古竇。巖麓淨如削。緬想融化初。元
氣下磅礴。山靈託奇範。株瓜下連絡。大峰齊雲霄。羣嶠入雲脚。朱闌

圍碧瓦。隱見仙人宅。良境不可負。行將理芒屨。

獨石口

本朝高士奇

懸崖削千仞。窄徑通一綫。舉鞭指獨石。色喜塞門見。昔來春風寒。山骨露峭舊。王師有程期。勝概不敢戀。茲還已徂暑。瞻眺景物變。宿雨收長林。白雲橫匹練。野花各自媚。灼灼露華泣。饒吹殷地來。未覺鞍馬倦。

七言古詩

晚夏。驛騎再之涼陘觀。獵山間。往來十有五日。因書成詩。

金蔡松年

兜羅蔥鬱浮空青。曉日馬頭雙眼明。名山不作世俗態。千里傾蓋來相迎。老松閱世幾千尺。玉骨冷風戰天碧。應笑年年空往來。塵土勞生種陳迹。山回晚宿一川花。翦金裁碧明烟沙。寒鄉絕艷自開落。欲慰寂寞無流霞。明日行營獵山麓。古樹寒泉更深綠。強臨水玉照髻

毛。只恐山靈怪吾俗。陂潮不盡水如天。清波白鷗自在眠。平時朝市手遮日。思把一竿呼釣船。驛騎回時山更好。過雨秋容淨如掃。山英知我宦遊心。爲出清光慰枯槁。可憐歲月易侵尋。慙愧山川知我心。一行作吏豈得已。歸意久在西山岑。他年俗累麤能畢。雲水一區供老佚。舉杯西北酹山川。爲道此言吾不食。

扈從冬狩

并序

元 耶律楚材

癸巳扈從冬狩。獨予誦書于穹廬中。因自譏云。

天皇冬狩如行兵。白旄一麾長圍成。長圍不知幾千里。蟄龍震慄山神驚。長圍布置如圓陣。方騎雲屯貫魚進。千羣野馬雜山羊。赤熊白鹿奔青驪。壯士彎弓殞奇獸。更驅虎豹逐貪狼。御閑有馴豹。縱之以搏野獸。獨有中書倦遊客。放下氍簾讀周易。

題灤陽胡氏雪溪卷

元 虞 集

積雪平沙陰山道。射虎殘年不知老。豈識船如天上坐。翠竹爲帷樹

爲葆。昔乞鏡湖苦不早。白髮如絲照清潦。他年此地若相逢。應著漁
簑脫貂帽。

金人出塞圖

元虞集

海風吹沙如捲濤。高爲陀磧深爲壕。築壘其上嚴周遭。名王專居氣
振豪。肉食湏飲田爲遨。八月草白風颼颼。馬食草實輕骨毛。加弦試
弓復置囊。今日不樂心慄慄。什什伍伍呼其曹。銀黃兔鶻明繡袍。鷓
鴒小管隨鳴鞞。背孤向虛出北臯。海東之鷲王不驕。錦鞞金鏃紅絨
條。按習久蓄思一超。是時晶清天翳絕。駕鵝東來雲帖帖。去地萬仞
天一瞥。離婁屬望目力竭。微如聞音鷲一擊。束身直上不同折。遂使
孤飛一片雪。頃刻平蕪灑毛血。爭誇得雋頓足悅。挂兔懸狼何足說。
旌旗先歸向城闕。落日悲風起騷屑。烟塵滿城鼓微咽。大會要王具
甘歡。王亦欣然沃焦熱。闕支出迎騎小鐵。琵琶兩姬紅顴頰。歌舞迭
進醉燭滅。穹廬斜轉氍毹月。

端午日。繇車中抵開平。客中三度端陽。愴然有懷。

袁 桷

居庸昔日逢端午。子規聲聲勸歸去。舊歲灤陽萬壽宮。九節菖蒲泛瓊醕。今年車中飽掀簸。盲風北來雨如注。沙坡馬鬣高下迎。土屋魚鱗先後附。舊家松篁百尋碧。薜蘂花前石榴樹。停車俛首不得語。鄰壻簫聲雜駝鼓。勞生得意同蝸牛。舊歷却行等蠅虎。

賦得灤河送蘇伯修參政

元 周伯琦

清灤悠悠北斗北。千折縈環護邦國。直疑銀漢天上來。搖漾蓬萊五雲色。蛟龍變化深莫測。金蓮滿川淨如拭。鑾輿歲歲兩度臨。雨露同流草蕃殖。長亭短亭來往人。朝夕照影何時息。相君親授臨軒敕。紫駟嚼齧黃金勒。却從江漢望龍岡。三疊晴虹勞夢憶。

上京效李長吉

元 馬祖常

龍沙秋淺雲光薄。畫羅衣裳侵曉著。吳娃楚娘侍團扇。象輿鳳輦明

珠絡。椒花染紫風雨香。三十六盤天路長。南都北都望行幸。千秋萬
歲迎君王。

蘇伯修往上海。王君實以高麗笠贈之。且有詩。伯修徵和章。因
述往歲從遊之悰與今茲睽攜之歎云爾。

元陳旅

往來飲馬灤河秋。灤河斜抱石城流。青城丈人來水上。揭謝蘇王

曼頤敬德

皆與遊。顧予濫倚橋門席。日斜去坐鼇峰石。夜涼共飲明月尊

醉眠更聽高樓笛。灤河九曲流濺濺。自我不見今三年。蘇郎又扈屬

車去。佇望弗及心茫然。龍門峽中雲氣濕。山雨定灑高麗笠。別意遙

憐柳色深。歸心莫爲鷓鴣聲急。

龍門道中夏月多杜鵑

不才未許收詞垣。賦成何日

奏甘泉。人言凡骨苦難化。爲我致意青城仙。

旅時已注爲史官復勒留助教

白翎雀圖
明王禕

白翎雀雪作翎。羣呼旅食啁晰鳴。何人翻作絃上聲。傳與江南士女

聽。南人聽聲未識形。畫師更與圖丹青。圖丹青一何似。知爾之生何處是。秋高口子草如雲。風動腦兒沙似水。

塞外觀牧 并序

本朝高士奇

張家口外。皆國家畜牧之場。馬牛羊不下數千百萬。望若雲錦。上緩轡巡行。察其勤惰。蕃育之盛。自古無媿。賦詩紀之。

天弧親射旄頭落。捲地風霆吞大漠。軍前騾裹三百萬。一一龍媒官

字烙。砂磧由來水泉少。霜寒四月無青草。王師到處如有神。草茁泉

甘芻飲好。圉人太僕森成列。塞外牧馬場。有屬內務府上駟院者。有屬太僕寺者。牛羊有屬內府慶豐司者。廣放山南與

山北。月中絢爛錦七襄。山上瀰漫雲五色。獅毛虎脊各驍騰。曹霸韋

偃畫不得。軍實委輸積如堵。臯下牛羊亦甫甫。魏貅夜帳寂無譁。但

聽連空噍風雨。我皇攬轡勤慰問。踴躍奚官與牧豎。君不見郎樞女

樞馬易畜。大角安陽最宜犢。古樂府隴上謠。郎樞女樞。十馬九駒。安陽大角十牛九犢。何如天育更蕃滋。不

效區區烏保谷。又不見周宣薄伐。四牡同牧人。乃得牛羊豐。聖朝威

遠。豈物力在。垌。堪知造化功。

謁元世祖陵

本朝 徐蘭

元世祖陵。在起輦谷。無封樹。獵者或踐其地。輒有風雷之異。

聞昔朱明修祀典。曾命禮臣巡禹甸。伏羲下逮宋理宗。三十六陵皆祭徧。祁連因未入提封。欲賫香帛無由從。掃塔席幄順天府。春秋遙奠青芙蓉。芙蓉青青亂雲宿。中有三間老瓦屋。征人遙望綠琉璃。知是元家起輦谷。谷口番僧通漢字。留客招提話遺事。自言歷劫悟前身。親見陰房築空翠。巫媪纔牽靈馬來。聖僧已渡流沙至。僧名朝爾吉維時指點白毫光。爭覩君王顯神異。天花鋪地坐親親。夜半山頭分舍利。元祖火化時。得舍利甚多。東方日射雲窈冥。背人入山埋寶瓶。地下有天黑如漆。祕祝才宣役萬靈。亂峰高下化機械。俄頃萬壑藏雷霆。雪漬風吹不數日。依舊滿天芳草青。往年有客挾弓弩。誤入雲中踏玉虎。千雷萬霆出谷飛。百里人家苦霪雨。至今鹿兔滿巖阿。馬蹄不敢驚黃土。問

余到處訪雲蘿。中國名山想遍過。聞道長陵在天上。此中靈異更如何。

李陵臺

本朝 徐蘭

少卿當日若戰死。何至有臺名望鄉。臺前有路不能返。南望故鄉空斷腸。孤鴻忽叫夕陽裏。想見登臺哭聲起。二十餘年淚幾何。風吹草上聲如水。

蹙鼠

爾雅云。北方有比肩獸焉。與邛邛鉅虛比。爲邛邛鉅虛嚙甘草。卽有難。邛邛鉅虛負而走。其名謂之蹙。呂氏春秋云。蹙鼠前兔後邛邛鉅虛。鼠後兔前。前高不得取甘草。故須蹙食之。李時珍本草云。今契丹及交河北境。有跳兔。頭目毛色似兔。而爪足如鼠。前足僅寸。後足長尺。尾亦長。其端有毛。一跳數尺。止卽蹙卽。卽蹙鼠也。土人云。蒙古打跳兔。於月黑夜。人持一木棍。驚草中。則跳兔成羣而出。跳入圈中。但未見有邛邛鉅虛耳。

本朝 徐蘭

有獸蒼蒼鼠之屬。同乎兔者耳與目。後足空長難躑躅。何不截長補不足。彼以爲狃缺一角。此以爲狼足太縮。我就視之形局促。一跳一仆尾蠹蠹。巨虛嚙草忽躍去。棄爾啾啾俄空谷。蹙鼠蹙鼠不須哭。誰使爾爲獸之僕。劉安雞犬滿雲中。飽食菴藟莫他矚。

本草。巨虛食菴藟子而仙。

燐火

徐蘭

土雨空濛著衣濕。燐火如螢飛熠熠。須臾散作星滿天。空際如聞萬人泣。有火獨明必鬼雄。衆鬼吐焰無其紅。約束羣燐共明滅。無乃昔日爲元戎。別有火光黑比漆。埋伏山坳語啾唧。鬼馬一嘶風亂旋。千百燈從暗中出。電光閃閃兩軍接。狐兔草中皆震懾。一派刀聲不見刀。髑髏墮地輕於葉。血過千年色尙新。那知白骨化烟塵。新鬼不添故鬼冷。無復寒衣送遠人。

五言律詩

出塞

唐耿士漳

漢家邊事重。竇憲出臨戎。絕漠秋山在。陽關舊路通。列營依茂草。吹角向高風。更就燕然石。看銘破敵功。

和吳侍御被使燕然

唐盧照隣

春歸龍塞北。騎指雁門垂。胡笳折楊柳。漢使採燕支。戍城聊一望。花

雪幾參差。關山有新曲。應向笛中吹。

奉使朔方贈郭都護

唐李華

絕塞臨光祿。孤營佐貳師。鐵衣山月冷。金鼓朔風悲。都護徵兵日。將軍破敵時。揚鞭玉關道。回首望旌旗。

登單于臺

唐李士元

悔上層樓望。翻成極目愁。路沿葱嶺去。河背玉關流。馬散眠沙磧。兵閑臥戍樓。殘陽三會角。吹白旅人頭。

李陵臺和水雲韻

宋昭儀王清惠

李陵臺上望。答子五言詩。客路三千里。鄉心十二時。孟勞欣已釋。區脫未相離。忽報江南使。新來貢荔枝。

塞上

金趙秉文

因尋射雕壘。偶到殺狐川。虜地牛羊瘦。邊沙草木羶。廢城餘井臼。古戍斷烽烟。自說無征戰。經今六十年。

撫州

元楊 奐

北界連南界。昌州又撫州。月明魚泊夜。雲冷鼠山秋。爲客無時了。勞生有許愁。殘年嬰世網。吾欲謝浮鷗。

次袁學士上都詩韻

趙孟頫

曉日夾雲樹。春風吹雪山。飛鷹元兔磧。飲馬白狼灣。寶帶吳鉤迥。金矛漢節閑。將軍萬里外。不怕二毛斑。

崇眞宮西梨花

元馬祖常

春日梨花下。相逢把臂行。香痕憐粉薄。酒暈惜紅輕。影動簾穿燕。聲來樹度鶯。共當拚一醉。莫待鬢華生。

上都道中

元張養浩

窮馭惟沙漠。昔聞今信然。行人鬢有雪。野店竈無烟。白草牛羊地。黃雲鵬鷲天。故鄉何處是。愁絕晚風前。

宿灤河望白海行宮

元許有壬

下馬河邊市。遙瞻海上宮。水天涵野白。禁樹擁雲紅。望幸羣黎切。思歸獨客窮。聖恩疎酒令。暫得醉歌同。

時有旨。特放。灤河酒禁。

上京雜詠十首

元袁桷

雲護中街日。風開北戶天。千溝凝白雪。萬竈起青烟。午溽曾持扇。朝寒却衣綿。松林空有界。翦伐不知年。

土屋層層綠。沙坡簇簇黃。馬鳴知電急。雁過識天涼。墨菊清秋色。金蓮細雨香。內園通闥苑。千樹壓群芳。

天闕虛無裏。城低納遠山。白榆迷雁塞。青草補龍灣。市簇家家近。官清日日閒。重遊深問俗。漸恨鬢毛斑。

舊歲寒冬惡。霏霏土雨迷。門荒懸馬革。草淨絕牛蹄。列帳烟光慘。空營月色低。縣官捐粟帛。歲晚得扶攜。

上國饒爲客。天涼眼倍青。白魚沙際網。黃鼠草間翎。芍藥圍紅斗。摩姑綴玉釘。漸知塵骨換。振佩接青冥。

天賜清涼國。晴霞綻雪峰。月低疑墮兔。雲近得攀龍。寶鑑頒冰徹。筠籠賜果封。白頭貂帽客。爲我話深冬。駝鼓村村應。傳更趣進程。草肥涼露白。樹薄曉風清。帳殿橫金屋。羶房簇錦城。屬車流水度。細點侍臣名。伏日瓊林宴。名王總內朝。帽尖花壓翠。衣角錦圍貂。炙熟牛酥苳。醅深馬乳澆。柘枝旋舞急。宛轉稱纖腰。市狹難馳馬。泥深易沒車。凍蠅爭日聚。新燕掠風斜。晚汲喧沙井。晨炊斷木槎。閭閻通茗酪。俗簡未全奢。長夏崇真觀。疎簾灑靜便。支頤推萬古。止息契重元。月窟窗如雪。天瓢酒似泉。主人憐老客。下榻不曾懸。

再次韻十首

元

梅

帝京環陸海。平野接冰天。龍吐青林火。狼沉紫塞烟。風花秋黯澹。雲葉雨連綿。昔日君臣意。深符卜洛年。

寶閣凌空涌。金壺映日黃。梵音通朔漠。法曲廣伊涼。御榻惟經帙。宮
鑪獨篆香。吾皇清淨德。銀管願垂芳。
高下雲中樹。疎明雪外山。坡凹茅結屋。嶺轉水回灣。禁路分馳道。沙
場當內閑。通明風露冷。時許侍清班。
晨起儀臺立。烟青望眼迷。草低鷹側目。車逼馬廻蹄。風勁弓弦直。泥
融柱礎低。蚊蠅深斂跡。塵尾不須攜。
紫極中天正。森森接帝青。雁歸傳帛信。雉落舞紅翎。寶所金千頃。朱
門帶萬釘。瀛洲清淺處。高坐納青冥。
昔年曾扈蹕。宿直對鰲峰。錦掣蘭苕翠。波翻墨沼龍。起居青簡注。除
拜紫泥封。共說先皇日。千官總住冬。
土驛高低置。蒼茫七日程。馬通分熠燿。牛酪注深清。殘雪明珠闕。繁
星列火城。前山黃白處。草藥不知名。
千堞蜂腰凸。羣山馬首朝。沙場調俊鶻。草窟射豐貂。鬧舞花頻簇。狂

歌酒恣澆。今年春事減。土舍雪齊腰。
箭落驚遊騎。鈴傳督運車。土風殊楚越。驛道仿褒斜。細雨三更枕。清
秋八月槎。夜聽繁管急。漸習五陵奢。
長齋孤館靜。捧腹睡便便。酒斷眸凝碧。塵深鬢返元。凍蜂粘暖草。乳
燕啄冰泉。過翼時頻數。鄉心日夜懸。

客舍書事五首

元 袁 桷

客景眞愁絕。淒涼倍舊年。草穿沙背縮。雲住屋頭偏。竈冷厨烟濕。窗
低簷溜懸。畏寒難出戶。盡日得高眠。
愁極吟肩聳。塵深望眼迷。屋隨冰上下。山趁雪高低。乾酪瓶爭挈。生
鹽斗可提。日斜看不足。蹋舞共扶攜。
蟾影穿窓蠹。龍光拂席流。淒清三伏暑。淅瀝九天秋。水惡停泥井。冰
堅宿瓦溝。年年遊上國。那識望鄉愁。
禁堞防危石。官衢漾淺沙。犬能搜兔窟。馬解避駝車。童翦青蔬甲。僧

分墨菊芽。飄零堪慰藉。小雨墊烏紗。
宿霧成疎雨。寒蓬卷細塵。雲飛疑到地。草長不知春。香几蜂喧密。花房燕語真。白頭關塞外。猶作未歸人。

寄陳衆仲助教上都作

元虞集

學省足清晝。詞垣驚早秋。美人隔河漢。落月在高樓。持衣未成曲。吹笛不勝愁。還趨鳩鵲觀。別製鸚鵡裘。

同楊仲禮和袁集賢上都詩十首

元柳貫

出塞行瞻日。趨朝喜近天。離宮開苑囿。馳道絕風煙。瑤水巡非遠。峒山歷更綿。甘泉多法從。獻賦憶當年。

雨水漸衣黑。雲沙際目黃。烟開纔黯慘。日出已蒼涼。徇俗高簷帽。清心小篆香。端居萬里念。蕙草惜微芳。

昔建寰中業。初開徼外山。雉城平兀兀。沙水淨灣灣。朱夏宸遊正。清秋武衛閑。叨陪文學乘。空愧鬢毛斑。

諸俗隨方異。溝塗隔舍迷。醺人惟馬湏。勸客有駝蹄。殿角孤花靚。城隅雜樹低。天涯中夜舞。如意昔曾攜。天潢猶白白。雲幕故青青。積潦摧車軸。高風墮箭翎。宮塗丹楮聖。殿戶紫金釘。女樂蓬萊祕。哀簫動杳冥。幄殿層雲障。轅門積雪峰。奇鷹皆戴角。御馬盡飛龍。瀚海將臨幸。雲亭望陟封。青邱大羽獵。有事待元冬。儒務惟章句。官規自法程。齋扉侵雨潤。宴几得風清。歷歷三刀夢。行行萬里城。明年遂耕隱。深仗酒爲名。經游還絕塞。際遇復清朝。大暑無蒙綵。輕寒已御貂。盤空蠶屢薦。觴至酒頻澆。貧病諳爲客。何慚帶減腰。公子青絲轡。王孫綠幘車。宴酣風小定。舞破日西斜。手擲宮中果。神行海上槎。築鄘母自厚。儉德不期奢。水草芳芳善。弓弧戶戶便。合圍連婦女。從戍到曾元。雪毳千家帳。冰

瓢百眼泉。浚稽山更北。長望斗光懸。

桓州

元陳孚

躍馬長城外。方知眼界寬。晴天雷雨急。暑夜雪霜寒。鐵騎秋呼鵠。金盤曉薦糞。柳營弓劍滿。容我一儒冠。

送鄭暄宣伯赴赤那思山大斡爾朶儒學教授二首

元張翥

絕漠同文軌。提封振古稀。大牙開武帳。元老秉天威。白馬紫駝騎。青貂銀鼠衣。那思山水。曾覩六龍飛。野散千軍帳。雲橫萬里川。寒多雨是雪。日近海爲天。黑黍供甘釀。黃羊飽割鮮。廣文但少客。寧慮坐無氈。

江東魏元德所製齊峰墨。于上都慈仁殿。賜文錦馬。灌以寵之。

既南歸。作詩以贈云。

元迺賢

錦襲元圭瑩。龍香秘閣浮。漬毫春黛濕。拂楮翠雲流。繡綺頒宮掖。瓊

漿出殿頭。小臣沾雨露。千載荷恩休。

九月一日還自上京途中紀事二首

元周伯琦

九月灤陽道。寒烟暗遠坳。有山皆積雪。無水不成冰。獵犬高於鹿。鳴鴉大似鷹。欲爲風土記。問俗果誰馮。
行宮臨白海。金碧出微茫。錮豹仍分署。韝鷹亦有房。射熊名鄙漢。祝網德懷湯。乾豆遵彝典。人瞻日月光。

立秋日書事三首

元周伯琦

大駕留西內。茲辰祀典揚。龍衣遵質樸。馬酒薦馨香。望祭園林邈。追崇廟祏光。艱難思創業。萬葉祚無疆。

日南行。

國朝歲以七月七日或九日。天子與后。素服望祭北方陵園。奠馬酒。執事皆世臣子弟。是日擇

鐵剌標山影。金鋪耀日華。龍迴秋歇雨。燕落晝翻沙。苑御調驍騎。宮官葺幃車。長楊誰共賦。滿耳沸寒笳。
涼亭千里內。相望列東西。秋獮聲容備。時巡典禮稽。鴟鳧隨矢落。猘

上京西山。上樹鐵幡竿。高數十丈。以其下海中有龍。用梵家說。作此鎮之。

鹿應弦迷。乾豆歸時薦。康莊頌耄倪。

上京之東五十里。有東涼亭。四百五十里。有西涼亭。其地皆饒水草。有禽魚山獸。置離宮巡狩。至此

歲必獵較焉。

紀行詩二十六首錄十二

元周伯琦

乘輿繩祖武。歲歲幸灤京。夏至今年早。山行久雨晴。日瞻黃道肅。夜

拱北辰明。隨步窺形勝。周諮記里程。

嵐翠摩台斗。林霏隱日車。谷深幽境迴。路轉列峰斜。錦石欹瑤草。蒼

叢綴白花。柴門成聚落。山崦盡人家。

萬幕懸崖下。高低疎復稠。廚墻聯虎衛。幄殿聳龍樓。榆柳清長晝。槐

松颯早秋。威容隆古昔。神武鎮中州。

高嶺橫天出。炎天氣候涼。白沙深沒馬。碧草淺連岡。晨服增緜纈。寒

鄉貴稻粱。土風多國語。閩井異尋常。

晴川平似掌。地勢與天寬。煙草青無際。雲岡影四團。貔貅環武陣。麟

鳳擁和鑾。高獻南山壽。同承湛露歡。

右沙嶺二首。是日上都守土官遠迎至此。內廷小宴。

嶺西通驛傳。山盡見郵亭。萬竈閭閻聚。千轅驃騎營。市樓風策策。野

堠霧冥冥。雄略卑秦隴。孤兵笑廣青。

右牛羣頭。

涼亭臨白海。行內壯黃圖。貝闕明清旭。丹垣護碧榆。龍湫時霧雨。鷹

署世衡虞。駐蹕光先軌。長楊只一隅。

右察罕腦兒。猶漢言白海也。

地曠居人少。山低雲影微。石墻蟲避燥。土屋燕交飛。沙淨泉宜酒。天

涼秋合圍。朔方戎馬最。芻牧萬羣肥。

右明安驛。

漢將荒臺下。灤河水北流。歲時何袞袞。風物尚悠悠。川草花芬郁。沙

禽語滑柔。暮梁遺句在。過客重綢繆。

右李陵臺。

桓州當孔道。城築自唐時。翊輔千年盛。川原萬里夷。草滋新雨歇。雲

起遠山移。迎送官僚習。長懷眷被私。

右桓州。古烏丸地也。

南坡延勝概。一舍抵開平。地蘊清涼界。天開錦繡城。雷轟駝鼓振。霞

絢象輿行。填道都人士。瞻前戴聖明。

右南坡。

巡守綏畿甸。游從覽近風。山川隨地異。聲教此時同。王業躋難遠。神

都制作雄。按行循故事。不用避青驄。

上京雜詩

元周伯琦

省方繩祖武。清暑順天時。法從嚴番直。周盧肅羽儀。氍毹駝背展。匝馬頭垂。惟有都人士。長望雨露私。卑濕如吳楚。雄嚴軼漢唐。土牀長伏火。板屋頗通涼。菌出沙中美。椒生地上香。忘歸江海客。直欲比家鄉。

上都四首

明釋梵琦

突厥逢唐盛。完顏與宋隣。君王饒戰略。公主再和親。異域車書會。中天雨露均。皇朝真一統。御歷正三辰。塞外疑無地。人間別有天。宮牆倚樹直。御榻愛花偏。正想爐熏滿。遙知漏點傳。輪臺方奉詔。版築更求賢。夜斗低垂地。秋河近著城。有灰開月暈。無扇減風聲。角奏梅花早。杯傳竹葉清。尙衣綿欲折。高殿雪初晴。

萬國初無外。諸羌更在西。閣門朝見雪。亭障晚開鞞。天子黃龍府。將軍白馬氏。錦袍涼似水。銀甕醉如泥。

開平書事六首

明釋梵琦

射虎南山下。看羊北海邊。築城侵地斷。居室與天連。墨黑沾衣雨。沙黃種黍田。自從爲帝里。無復少人烟。地勢斜臨北。河流穩向東。龍庭行萬里。虎路遠三巓。羌女裁皮服。奚兒挽角弓。長吟對落景。獨坐感飛蓬。舊俗便弓馬。新霜稱綺羅。平原芳草歇。古戍暮雲多。翠袖調鸚鵡。金鞭制駱駝。上樓看月色。無酒奈君何。北海何人到。西天此路通。尋經舍衛國。避暑醴泉宮。盛夏不揮扇。平時常起風。遙瞻仙仗簇。復有綵雲籠。夜雪沙陀部。春風勅勒川。生涯惟釀黍。樂事在彈弦。不用臨城將。何須負郭田。雙鷗來海外。一箭落天邊。

孤城橫落日。一望暗銷魂。天大纖雲卷。風多積草翻。有田稀種粟。無樹強名村。土屋難安寢。飛沙夜擊門。

漢北懷古十首

錄九

明釋梵琦

世祖起沙漠。臨軒銷甲兵。羌中一片地。秦後幾長城。象膽隨時轉。駝蹄入夜明。何須待秋獵。不必問春耕。曠野多遺骨。前朝數用兵。烽連都護府。柵遠可敦城。健鶻雲間落。妖狐塞下鳴。却因班定遠。牽動故鄉情。北向無城郭。遙遙接大荒。舊來聞漢土。前去是河隍。野蒜根含水。沙葱葉負霜。何人鳴磬築。使我涕霑裳。無樹可黃落。有臺如白登。三冬掘野鼠。萬騎上河冰。土厚不爲井。民淳猶結繩。令人思太古。極目眇平陵。吾聞窮髮北。此地卽天涯。夏有九河凍。春無三月花。清涼非枕簟。富貴是雲沙。愛爾捐居室。長年到處家。

曠望重關外。蕭條萬里餘。未嘗營粒食。終不好樓居。繆甚英雄事。茫然艸昧初。大人饒畜牧。隨分有穹廬。漢使騎高馬。唐兵出近關。前臨蒲類海。却上浚稽山。帝號垂千古。軍聲蓋百蠻。初無功可紀。只有劍須殷。每厭冰霜苦。長尋水草居。控弦隨地獵。剗木近河漁。馬酒茶相似。馳裘錦不如。健兒雙眼碧。慣讀左行書。北入窮荒野。人如曠古時。天山新有作。耶律晚能詩。地坼河流大。峰高月上遲。自言羊可種。不信繭成絲。遠客停驂處。平沙落日時。塞蓬穿土早。河柳得春遲。欲乳羊求母。頻嘶馬顧兒。朔方多雨雪。南望是京師。

烏桓

明釋梵琦

烏桓第一州。白雪亂三秋。不盡邊雲起。無情塞水流。兔銛蒙氏筆。狐潔檜君裘。自笑成癡坐。何期作遠遊。

贈江南故人

明釋梵琦

煮茗羹羊酪。看山駐馬搗。地椒真小草。芭欖有奇花。塞月宵沉海。邊風晝起沙。登高望吳越。極日是雲霞。

邊詞

本朝 屈大均

邊郡今無事。風吹殺氣過。鼓鞞沈上谷。烽火斷交河。子女穹廬入。金珠犬馬馱。蒙恬城下骨。夜夜聽笙歌。

雲州秋望

本朝 屈大均

白草黃羊外。空聞虜築威。遙尋蘇武廟。不上李陵臺。風助羣鷹擊。雲隨萬馬來。關前無數柳。一夜落龍堆。

塞上見山桃

本朝 胡會恩

樹樹山桃發。春風塞上行。六飛臨朔漠。萬騎出關城。日麗霓旌嫋。風和鼙鼓鳴。千羣組練裏。橐筆幾書生。

金蓮花

胡會恩

仙葩生朔漠。當暑發奇英。色映金沙麗。香分玉井清。倚風無俗艷。含露有新榮。試植天池側。芙蕖敢擅名。

駐蹕沙陀步獵賜鮮兔

高士奇

觀兵陟沙磧。步獵愛春晴。本自月中得。頒從天際擎。肥因新草綠。閒就野泉烹。翹首岡陵外。宣威仰聖明。

前一日爲萬壽節。

闢窩圖東山產石。五色甚佳。

聞克魯倫河更勝。

高士奇

不信陰山石。看來錦不如。斑斑閒丹綠。磊磊亂璠璣。飽飯消磨後。清泉洗濯初。歸囊無長物。持此贈鄉閭。

塞蝶

黑質黃駁。時來草間。

高士奇

夏五陽坡煖。翩翩草際飛。蠢茲生異域。未解戲芳圍。野闊香難拾。天寒卉竟稀。靜看過布幔。來去似相依。

沙燕

高士奇

于飛沙上燕。結侶亦雙雙。無計巢朱屋。何由傍綠窓。依棲惟在野。嗚

喚自成腔。觸物鄉心動。茅簷想越江。

金蓮花

高士奇

卉本仙山種。

清涼山產金蓮花。

開當夏候深。異香飄紫塞。寶相湧黃金。露葉凝

輕翠。風枝裊細陰。曾邀天筆賞。移取植華林。

上有詠金蓮花詩移植內園。

高士奇

雁雛

雁于五月間。生雛塞上諸澤中。其大如拳。細鳴嗷嗷。就水草為棲息。

憐此隨陽鳥。生雛水澤中。脆毛初曬日。弱翅未凌風。沙軟羣相戲。蘆

深到處叢。待時遵渚去。寥闊任秋空。

白翎雀

塞上鳥。如鶴翎而小。翅有白翎。因名白翎雀。雌雄相呼。聲可聽。京師園沼閨閣中。多畜之。鳴之巧者。一雀數金。元世作樂。名白翎雀。想亦以其可聽也。元人多咏之。

高士奇

磧外相呼樂。人間重白翎。名傳元樂府。產略古禽經。妙選籠雕檻。清

音囀畫屏。芙蓉秋露冷。曾否憶沙汀。

高士奇

絕塞山綿邈。龍輿日指西。九旂虹影動。萬竈黑烟低。鼓角邊隅靜。壺

漿部落攜。聖君弘覆載。遠邇視皆齊。

早發

本朝 高其倬

韞馬瞻高旆。穿衣待曙雞。地當灤水北。家在霧靈西。塞遠山相續。邊

灤陽對月

高其倬

北極風初定。東山雨暫晴。何曾今夜月。不似故鄉明。輪定當樓影。鴉

喧匝樹聲。老親應念子。危坐向深更。

本朝 拉曼歆

登曼陀山。望應昌故城。翠栢峰峰合。黃沙處處明。草荒迷舊壘。塔聳認孤城。水遶天山去。雲

從故國生。登臨時欲暮。空使客魂驚。

口北三廳志卷之十四終

口北三廳志卷之十五

直隸分守口北道金志章撰

藝文志四

詩 七言律詩

春陰

宋 朱 弁

關河迢遞遶黃沙。慘慘陰風塞柳斜。花帶露寒無戲蝶。草連雲暗有藏鴉。詩窮莫寫愁如海。酒薄難將夢到家。絕域東風竟何事。祇應催我髻邊華。

駕幸春水。放海青。扈從。得鵝應制。

金 趙 夔 諷

駕鶯得暖下陂塘。彩騎星馳入建章。黃繖輕陰隨鳳輦。綠衣小隊出鷹坊。搏風玉爪凌霄漢。瞥眼風毛墮雪霜。共喜園林得新薦。侍臣齊捧萬年觴。

金蓮川

金 趙 秉 文

一色天連王氣中。離宮風月滿雲龍。向來菡萏香銷盡。何許薔薇露染濃。秋水明邊羅韞步。夕陽低處紫金容。長楊獵罷回天仗。萬燭煌煌下翠峰。

贈燕

井序

金田 琢

明昌丙辰。予從軍塞外合虜里山。野舍荒涼。難以狀言。春末有雙燕。亦巢此屋。土人不之識。屢欲捕之。予曲爲全護。此燕晝出夜歸。予必開戶待之。忽一日飛止坐隅。都無驚畏。巧語移時不去。予始悟。明日秋社。此鳥當歸。殆留別語也。因作一詩贈之。以細字寫之。爲蠟丸繫之燕足上。明年四月。予受代歸。又八年。泰和甲子。任潞州觀察判官。四月十二日。偶坐廨舍之含翠堂。忽雙燕至。一飛簷戶間。一上硯屏。予諦視之。繫足蠟丸故在。乃知此鳥蓋往年贈詩者也。因請同年龐君才卿。畫爲圖。求諸公賦詩。幾年塞外歷崎危。誰謂烏衣亦此飛。朝向蘆陂知有爲。莫投茅舍重

相依。君憐我處頻迎語。我憶君時不掩扉。明日西風悲鼓角。君應先去我何歸。

題田器之燕子圖

金楊雲翼

危巢客舍久相依。常記西風社日歸。海國傳心千驛隔。塞垣回首十年非。新詩尙在人空老。舊夢無憑鳥自飛。寄語齊諧休志怪。沙鷗相欸解忘機。

陰山

元 耶律楚材

八月陰山雪滿沙。清光凝目眩生花。插天絕壁噴晴月。擎海層巒吸翠霞。松檜叢中疏吠畝。藤蘿深處有人家。橫空千里雄西域。江左名山不足誇。

鹿尾

元 耶律楚材

鑿輿秋獮獵南岡。鹿尾分甘賜尙方。濃色殷殷紅玉髓。微香馥馥紫瓊漿。韭花酷辣同葱薤。芥屑差辛類桂薑。何似氈根蘸濃液。流匙滑

飯大家嘗。

開平晚歸

七月一日
授翰職。

元王惲

龍首岡邊野草深。秋風灑水動歸心。百年蓬巷開圭竇。一日恩光照士林。吟鬢有光浮鏡玉。家書封喜認泥金。料應曉月簾櫳底。乾鵲飛來報好音。

宿李陵臺

元周應極

曠野平蕪入壯懷。征鞍小駐李陵臺。關河萬里秋風晚。霜月一天鴻雁來。持節蘇卿眞壯士。開邊漢武亦奇才。千年懷古無窮意。且向郵亭酌酒杯。

送王繼學修撰馬伯庸應奉分院上都二首

元袁桷

玉京高處雪流脂。連插雞翹綠鬢垂。蹀躞有泥歌獨漉。琵琶無夢說相思。黑河舊樂催填譜。白海名花擬進詞。羽獵上林俱罷賦。卿雲何以報明時。

淺坡平疊磧漫漫。拂嶺青帘罨畫看。氈屋起營羊腓熟。土房催頓馬通乾。桐官走驛傳金椀。冰正分奩貯玉盤。莫上鄉臺望南北。白雲微處是槍竿。

伯庸開平書事次韻四首

元袁 桷

沈沈櫻殿內門西。曲宴名王舞馬低。桂蠹除煩來五嶺。冰蠶却暑貢三齊。金罍醅重凝花露。翠釜膏浮透杏泥。最愛禁城千樹柳。歸鴉揀盡不曾棲。

身如病鶴倦梳翎。往事猶存舊汗青。伏日賜冰來上苑。晚風傳竹度疎櫺。承恩裁詔心抽繭。落筆誅奸眼拔釘。惆悵當今人物論。披衣危坐望晨星。
的的新愁漲碧波。可堪跋馬上危坡。明知風伯秋當路。更候天孫夜度河。砂磧共傳歌敕勒。陰山那復見延陀。周廷王會須椽筆。慚媿陳人奈老何。

馬足曾窮五色河。更將舌本品浮槎。新聲促軫傳三疊。寶構懸鈴鎖四阿。短榻鴈來愁不奈。小窗人去酌母多。白頭慵作東封頌。願效諸生賦止戈。

華嚴寺

元袁桷

寶構熒煌接帝青。行營列峙火晶熒。運斤巧鬪攢千柱。相杵歌長築萬釘。殿基水泉沸涌。以木釘萬枚築之。其費鉅萬。雲擁殿心團寶蓋。風翻簷角響金鈴。險知帝力超前古。側布端能動地靈。

上京翰苑書懷三首

元馬祖常

沙草山低叫白翎。松林春雨樹青青。土房通火爲長炕。氈屋疏涼啓小櫺。六月椒香駝貢乳。九秋雷隱菌收釘。誰知重見鼇峰客。颯颯臨風鬢已星。

門外春橋漾淥波。因尋紅藥過南坡。已知積水皆爲海。不信疎星又隔河。酒市杯陳金錯落。人家冠簇翠盤陀。薰風到面無蒸暑。去鳥長

雲奈客何。

萬里雲沙碣石西。高樓一望夕陽低。谷量牛馬烟霞錯。天險山河海岱齊。貢篚銀貂金作藉。官窰磁盞玉爲泥。未央殿下長生樹。還許尋巢彩鳳棲。

次韻王繼學參議寄上京胡安常諸公二首

元馬祖常

石磴冰澌古不消。廣寒張樂喜聞韶。五坊戲馬春旗合。百隊回龍曉仗朝。闐闐門高承藻井。番禺縣遠貢鮫綃。年年載筆陪京道。題柱相如又過橋。

省中溫樹晝陰陰。郎署薰衣盡麝沉。星近紫垣明上界。日行黃道對天心。和鸞秋駕車塵靜。佩玉朝鳴漏水深。好乞龍門灘上石。種桐千尺斷爲琴。

送王參政上京奏選

元馬祖常

滇池細馬踏龍沙。宰相朝天路不賒。峽裏琴泉春作乳。月中珠樹夜

成花。三千禮樂尊儒術。百二河山壯帝家。魚上禹門無點額。直郎宣
奏日當衙。

駕發上京

元馬祖常

蒼龍對闕夾天闈。秋駕凌晨出國門。十里貔貅騎腰裏。一雙日月繡
旗幡。講蒐獵較黃羊圈。賜宴恩沾白獸尊。赫奕漢家人物盛。馬卿有
賦在文園。

開平事

元王結

金馬門東畫省西。千官花覆曙光低。九莖芝蓋雲衣合。百石銅盤露
顚齊。鹿柵已營修竹塢。燕巢還補落花泥。上林伏日金桃熟。鸚鵡來
時不敢棲。

送馬伯庸學士赴上都

元奎

人間六月沸炎波。上國清涼樂事多。視草舊傳真學士。散花新起病
維摩。千年結友心相似。萬里辭家意若何。料想勝游偏得句。秋風先

寄雁南過。

人間上都察院

元張養浩

栢臺人散坐堆。默記灤江四往廻。髮爲廡冠容易雪。心因蝸角等閑灰。慚無元素回天策。空負坡仙酌月杯。兩處飄零家萬里。亂山遮斷白雲堆。

金中都道中

元張養浩

細草和烟展翠茵。雜花勻簇道旁春。鳴禽曠野棲無樹。破屋荒山住有人。露濕敝袍寒襯月。風餐行鉢暗凝塵。去年聞海今沙漠。贏得霜華鏡裏新。

營興和道中

元張養浩

底事勞勞形與神。道途鞍馬動經旬。烟橫絕澗疑無地。風響深林似有人。早發舉鞭揮霧露。夜行翹首認星辰。何時却遂桑榆晚。愛殺坡仙此語真。

上都次馬伯庸尙書韻二首

元曹元用

灤水橋邊御道西。酒旗閒挂暮簷低。春從玉樹陰中老。雲補青山闕處齊。畫戟遙臨青瑣闥。紫騮解惜錦障泥。鸞鳳自爲明時出。宜傍上林高處棲。

柳簇金溝蘸碧波。雲深玉闕瞰重坡。鳳凰曲奏鈞天樂。烏鵲橋通織女河。萬井閭閻春浩蕩。六街車馬晚陂陀。山人素有林泉興。奈此承明夜直何。

送袁伯長扈從上京

元虞集

日色蒼涼映赭袍。時巡母乃聖躬勞。天連閣道晨留輦。星散周盧夜屬橐。白馬錦韉來窈窕。紫駝銀甕出蒲萄。從官車騎多如雨。祇有揚雄賦最高。

觸石墜馬臥病。蒙恩予告。先至上京。寄漑之學士敬仲參書二首。

翠幄臨都尙駐郊。言瞻龍漢度前茅。雨餘草氣千原合。日下雲章五色交。給札脩辭持玉筆。賜羹充腹出珍庖。白頭感遇知何補。阿閣清巖栖鳳巢。

趨召顛隲歎日昏。旋聞予告荷深恩。藥頒西域千金劑。酒賜初筵九醞尊。默憶舊書忘晝永。行吟冷署覺春溫。摩挲素壁光於雪。思得參書寫樹根。

王儀伯參政見和郊字韻詩。復用韻叙謝二首。一錄

龍游宮沼鳳游郊。通水明堂不翦茅。縣蒔草儀三日具。大亨饗帝五雲交。執輿已信神爲馬。和鼎寧容祝代庖。八月涼風張樂地。頌聲洋溢播雲巢。

端午節飲客與趙伯高

龍沙冰井夏初融。簪筆長隨避暑宮。蠟燭烟輕留賈誼。銅盤露冷賜楊雄。南村久病思求艾。北客多情問轉蓬。忽聽滿船歌白苧。翻疑昔

夢倚春鴻。

還次桓州

元柳貫

塞雨初乾草未霜。穹廬秋色滿沙場。割鮮俎上薦黃鼠。獻獲腰間懸白狼。別部烏桓知幾族。他山稽落是何方。長雲西北天如水。想見旌旗瀚海光。

次伯長侍制韻。送王繼學修撰馬伯庸應奉扈從上京。

仗前桐酒進瓊脂。翠絡金鉤向馬垂。少宰氈廬初張事。從官魚笏正書思。三辰上應旗旂象。六樂中陳鼓吹詞。供奉逍遙承御宿。故應燕許擅同時。

山圍黑谷翠漫漫。獨許詞臣息馬看。蹕道雲開朝采正。蹕林風定雪花乾。賦成特賜麒麟爵。宴出初擎碼碯盤。歲歲八州人望幸。鈞陳旗尾認朱竿。

漫題齋壁

元柳貫

牧馬新來秣地椒。街頭搗酒玉傾瓢。羲和白日經天近。敕勒陰山度
幕遙。雨過忽然思御袂。風清聊復快凌歊。他年續作灤陽夢。萬里排
雲遡沱寥。

次韻伯庸侍制上京寓直書事四首。因以爲寄。元柳貫

舉頭涼影動明河。問信仙人八月槎。斗下孤光懸太白。雲間長御挾
織阿。霓裳催按新聲遍。鳳藻需承曲宴多。一代詞華歸篆刻。龍文還
欲映瑀戈。

松巒新裁似鶴翎。手中雲影落深青。宮花忽動紅千帳。禁柳齊分綠
半樞。金掌擎秋調玉屑。銅渾窺夜約銀釘。不知太史朝來奏。東壁光
聯第幾星。

烏桓落日稍沉西。南極青山女堞低。馬谷夏泉經雨漲。龍堆秋草拂
雲齊。一函祠檢將升玉。萬里丸封不用泥。儻直夜涼談往事。乘車猶

欲避雞樓。

杯面春風濺濺波。醉來難覓百東坡。寧無天上支機石。信有人間采玉河。霜驛舊圖開党項。雪毫新興寫伽陀。聚星更比荀陳盛。月照金鑾夜若何。

觀失刺幹耳朶御宴回

元柳貫

毳幕承空柱繡楣。綵繩巨地掣文霓。辰旗忽動祠光下。甲帳徐開殿影齊。芍藥名花圍簇坐。蒲萄法酒折封泥。御前賜酺千官醉。恩覺中天雨露低。

車駕駐蹕。即賜近臣灑馬。妳子御筵。設毼殿失刺幹耳朶。深廣可容數千人。上京五月芍藥始花。

午日雪後行失八兒禿道中。有懷同館諸公。

元柳貫

尖峰猶是漠南山。駝褐蕭蕭午日寒。艾葉漫將頭上插。榴花應許夢中看。馬前沙雪行初隱。鵬背荒雲落更盤。王事獨賢吾敢憚。重煩同館勸加餐。

送賀尙書致仕後赴召上都

元傅與礪

使者徵行立曉風。宰臣傳詔守離宮。關中舊憶留蕭相。江左俱看起謝公。路經琴峽秋聲滿。天繞灤河御氣通。聞說至尊勞睿想。莫令行色後賓鴻。

次韻張仲助教上京卽事

元吳師道

海波填碧湧金鼇。當日經營得俊髦。周鼎卜年開帝業。漢都作鎮奠神臯。宮中雙鳳朝扶輦。帳下千牛夜捉刀。萬國會同時肆覲。衆星遙拱北辰高。大駕時巡鎮北庭。皇風萬里暢威靈。有年太史仍書雨。卜日祠官已祭星。白草黃雲秋漫漫。朱樓翠樹晚冥冥。南歸却作灤陽夢。應是平生舊所經。

翼翼行都歲幸臨。名王諸部集如林。氈車滿載彤庭帛。寶馬高馱內府金。暮散歌呼灤水上。夜騰光氣黑山陰。世皇謨烈眞弘遠。共感湛恩到骨深。

聞危太朴王叔善除宣文閣檢討

元 吳師道

陰山分脈自崑崙。朔漠絲延迥北門。遙見馬駝知牧地。時逢水草似漁村。穹廬敕勒秋風曲。青塚嬋娟夜月魂。今日八荒同一字。向來邊徼不須論。

亭障連山入杳茫。氈車如雪謾沙場。鵬盤天際秋雲白。雁去關南木葉黃。獨客應憐冠戴楚。閒情無奈管吹羌。歸來若度桑乾水。莫忘并州是故鄉。

用袁侍制送行韻

元 王士熙

青草白沙入渺漫。層層山色舊曾看。赤城曉日霞初起。黑谷晴嵐雨未乾。錦帕蒙鞍中使馬。寶刀分膾內家盤。不才底事頻行役。只合清江把釣竿。

寄上都分省僚友二首

元 王士熙

天上風清暑盡消。尙方仙隊接一作雲韶。白鷺海水生鷹獵。紅藥山

岡詐馬朝。涼入賜衣飄。細葛醉題歌。扇濕輕綃。河堤楊柳休傷別。八月星杓到鵲橋。

畫省薰風松樹陰。合歡花下日沉沉。腐儒無補漫獨坐。故人不來勞寸心。紫極三台光景接。洪鈞萬象歲年深。灤江回首九天上。誰傍香爐聽舜琴。

上京次伯庸學士韻二首

元 王士熙

侍臣催講御階西。雲靜觚稜曉色低。天關神州卑兩漢。地連碣石轉三齊。含香晝永閑青瑣。視草堂幽濕紫泥。最憶東山老松樹。秋風應有鶴來棲。

長堤芳草遍灤河。誰買扁舟繫樹槎。金帳薰風生殿角。畫樓晴霧宿檐阿。萬年枝上烏啼早。九奏階前鳳舞多。供奉老來文采盡。詩壇昨夜又投戈。

紀行述懷

扈從上京之行

元 宋 鑒

陪扈灑京愧未曾。馬瘖兒病苦淩兢。龍門湍息山陁雪。偏嶺風淒石
瀨冰。倏忽雨暘天叵測。迂疎道路事難憑。侍臣爭笑馮唐老。不向明
時獻技能。

一 失刺幹耳朶觀詐馬宴。奉次貢泰甫授經先生韻。

元 迺 賢

詔下天門御墨題。龍岡開宴百官齊。路通禁籞聯文石。幔隔香塵鎖
水犀。象輦時從黃道出。龍駒牽向赤墀嘶。繡衣珠帽佳公子。千騎揚
鑣過柳堤。

珊瑚小帶佩豪曹。壓轡鈴鐺雉尾高。宮女侍筵歌芍藥。內官當殿出
蒲萄。栢梁競喜詩先捷。羽獵爭傳賦最高。一曲霓裳纔舞罷。天香浮
動翠雲袍。

繡綺新裁雲母帳。玉鈎齊上水晶簾。鳳笙屢聽伶官奏。馬蹏頻煩太
僕添。風動香烟飄合殿。日扶花影上雕檐。金盤禁鬻纔供膳。階下傳

呼索井鹽。

上林宮闕淨朝暉。宿雨清塵暑氣微。玉斧照廊紅日近。霓旌夾仗彩霞飛。錦翎山雉攢遊騎。金翅雲鵬織賜衣。宴罷天階呼秉燭。千官爭送翠華歸。

灤河源似九龍池。清暑年年六月時。孔雀御屏金纂纂。櫻欄別殿日

熙熙。青藜獨喜頒劉向。黃閣重開拜子儀。千載風雲新際會。願將金

石播聲詩。

時太傅脫公再入相。

得大人書。喜聞秋末自散不刺復回大都。賦寄宣彥高。

元吳萊

一紙江南到屋扉。高秋漠北奉宮闈。金微駐蹕踰唐塞。鐵勒鳴笳接漢畿。緜叢行朝因贄玉。蹕林望祭類游衣。明年草賦呈親去。想像汾陰扈從歸。

院中聞大駕先還。再和伯修韻。

元陳旅

甘泉宴罷雁聲寒。桂樹吹香出寶闌。翠輦遙臨秋海白。霓旌高拂曙
星殘。氈城家拜銀靨賜。棘院人爭繡虎看。堪笑子雲能作賦。獨騎羸
馬後奚官。

送閣學士赴上都

元李孝光一作
甘立

從官萬騎擁鑾輿。東閣詞臣載寶書。雨過草肥金絡馬。月明山轉紫
駝車。龍庭日近瀛洲路。灤水天高玉帝居。明日仙凡便相隔。少年寮
吏謾躊躇。

上京秋日三首

元張翥

山前孤戍水邊營。落日無人已斷行。甌脫數家門早閉。輶溫千帳火
微明。白摧野草狼同色。秋入榆關雁有聲。最是不禁橫笛怨。海天秋
月不勝情。

水遶雲廻萬里川。鳥飛不下草連天。歌殘敕勒風生帳。獵罷闕氏雪
沒韉。紅頰女兒花作隊。紫髯都護酒如泉。時巡歲歲還京樂。別換新

聲被筦絃。

遠山平野浩茫茫。曾是當年古戰場。飲馬水乾沙窟白。射鵬塵起磧雲黃。中郎節在仍歸漢。校尉城空罷護羌。今日車書逢混一。不辭老去看檀鄉。

上都詐馬大宴五首

元貢師泰

紫雲扶日上璇題。萬騎來朝隊仗齊。織翠轡長攢孔雀。鏤金鞍重嵌文犀。行迎御輦爭先避。立近天墀不敢嘶。十二街頭人聚看。傳言丞相過沙堤。

櫻欄別殿擁仙曹。寶蓋沈沈御坐高。丹鳳銜珠裝騶裏。玉龍蟠甕注蒲萄。百年典禮威儀盛。一代衣冠意氣豪。中使傳宣捲珠箔。日華偏照鬱金袍。

卿雲弄彩日重暉。一色金沙接翠微。野韭露肥黃鼠出。地椒風軟白翎飛。水精殿上開珠扇。雲母屏中見袞衣。走馬何人偏醉甚。錦韞賜

得海青歸。

簫韶九奏南風起。沙燕高低撲繡簾。醞醪酒多杯迭進。鷓鴣香少火重添。舊分宮錦緣衣襪。新賜奩珠簇帽簷。日午大官供異味。金盤更換水晶鹽。

清涼上國勝瑤池。四海梯航燕一時。豈謂朝廷誇盛大。要同民物樂雍熙。當筵受几存周禮。拔劍論功陋漢儀。此日從官多獻賦。何人爲誦武公詩。

夜宿灤河背兒

元陳孚

貂裘塵土黑如鴉。海角孤臣扈翠華。萬里親庭應鶴髮。一生客路又龍沙。囊中藥卷菴蓉葉。盤裏蔬堆芍藥芽。漸見馬前添喜氣。明朝又近玉皇家。

開平卽事二首

元陳孚

百萬貔貅擁御閑。灤江如帶綠廻環。勢超大地山河上。人在中天日

月間。金闕觚稜龍虎氣。玉階閶闔鷺鶴班。微臣亦有河汾策。願叩罡
風上帝關。

天開地闢帝王州。河朔風雲拱上游。鵬影遠盤青海月。鴈聲斜送黑
山秋。龍岡勢繞三千陌。月殿香飄十二樓。莫笑青衫窮太史。御爐曾
見袞龍浮。

和吳宗師灤京韻

元李存

紫駝白象壯行儀。但覺炎威日日微。露透地椒清寶仗。風生天棘滿
旂旒。金盤藹藹行新饌。玉體脩脩進袂衣。自得仙吟因想像。半生元
不離門畿。

次韻王師魯侍制史院題壁

元周伯琦

大安御閣勢峇亭。華闕中天壯上京。虹繞金堤晴浪細。龍蟠粉堞翠
岡平。衆星拱北乾坤大。萬國朝元日月明。分署玉堂清似水。簫韶時
聽鳳凰聲。

七月七日。同宋顯夫學士暨經筵僚屬。遊上京西山。紀事二首。

元 周伯琦

聯岡疊阜衛神都。萬幕平沙八陣圖。朝市星垣周社稷。宗藩磐石漢規模。官堤互野豐青草。禁籞深林暗碧榆。地闢天開到今日。九重垂拱制寰區。

盤盤絕頂撫崢嶸。目盡天涯一掌平。海氣騰空搖鐵刹。山風卷霧淨金城。鞞鷹秋健諸酋帳。苑馬宵肥七校營。相顧依然情未已。攜壺明日約同傾。

出明昌界。元 邱處機

陂陀折疊路灣環。到處鹽場死水灣。盡日不逢人過往。經年時有馬廻還。地無木植惟荒草。天產邱陵沒大山。五穀不成資乳酪。皮裘氈帳亦開顏。

元 邱處機

北陸初寒自古稱。沙陀三月尙凝冰。更尋若士爲黃鶴。要識修鷗化大鵬。蘇武北遷愁欲死。李陵南望去無憑。我今返學盧敖志。六合窮觀最上乘。

龍岡晴雪

元張嗣德

陰山積雪互春秋。霽景玲瓏燦十洲。玉展畫屏當黼辰。翠凝香霧繞龍樓。吟懷暖動鼠鬚筆。酒力寒輕狐白裘。清暑年年動游幸。冰壺六月坐垂旒。

灤江曉月

元張嗣德

灤江曉月漾琉璃。皓景沈沈碧海西。監牧平沙時洗馬。趨朝青瑣正聞雞。鐘聲破霧騰珠刹。橋影垂虹枕玉溪。夙德詞臣勞扈從。恩承紫誥又春泥。

次韻王侍郎上都見寄

元薛元曦

灤水東風淨物華。石鼇峰下駐仙車。清明草檢歸黃閣。勝日開筵近

紫霞萬戶砧聲聞別館。九天秋色落誰家。仙郎賦罷長回首。南去還乘八月槎。

開平

明陳循

灤河河北開平府。云是前朝舊上都。萬瓦當年供避暑。孤城此日設防鋪。龍岡夜照烏桓月。鳳輦時巡敕勒區。何處登臨最愁絕。李陵臺上望平蕪。

上谷歌八首

錄一首

明尹耕

貔貅十萬陣堂堂。自古安危繫朔方。東下鼓聲連碣石。西來亭障帶河滄。分兵久戍勞充國。借箸前籌賴子房。聞道暫留諸部落。拔營今已遁遐荒。

塞北感懷

明王清

西風關外雪初晴。懷古思鄉百感生。玉帳枕戈人萬里。鐵衣傳箭夜三更。夢回絕域烏桓戍。戰罷空山敕勒營。烽火微茫天路遠。月中鴻

雁起秋聲。

西風千家店

明羅存禮

杖屨乘閒塞外行。客鄉此日慰飄零。壺觴乳酪千家店。車馬氈裘十里亭。白廟雨餘秋澗碧。紅門日落暮山青。雁飛好向江南去。爲報平安在永寧。

登張家口城樓古

本朝戴本孝

蜿蜒城勢列長蛇。堡斷峰連水折沙。駟僮驛通中外市。牛羊氣雜往來車。神爭社會當場綵。女競邊粧滿髻花。一望西風烟草寂。駝鳴旃幕夕陽斜。

塞外午日和江邨韻

本朝胡會恩

斗杓頭上已南移。亭午寒飈獵獵吹。雪片尙封牀下草。榴花不照髻邊絲。遙天信息征鴻杳。絕漠流光凍雀知。相對重裘話京洛。羅衣紈扇隔年時。

塞外雜咏

胡會恩

川原泱泱古沙場。一綫新蹊接混茫。斷磧淒風廻白雁。陰山殘雪下黃羊。蕭蕭塞草搖空塹。漠漠窮邊絡大荒。馬首但諳西北去。不知身世此何鄉。

霜蹄貫鐵尙凌兢。沙路衝寒踏萬層。杲日橫空常灑雪。春風動地不銷冰。戴星捲甲停朝食。聽鼓歸營辦夜燈。捧腹壯夫應笑我。豎儒軍旅更何曾。

窮陰氣候異京華。小幙斜支算抵家。雲度一痕旋過雨。草長徑寸未穿沙。革囊遠汲爭甘井。土鏹新樵識異花。相訊馬駝無恙否。披營促坐點膏茶。

弓刀結束並征西。大塊高寒白日低。野曠天廻屯萬馬。沙平草長散羣羝。連營戒櫜聲常肅。列障懸旌路不迷。身到天山回望處。層岡疊疊似雲梯。

途次大雪。過江邨詹事帳中。潑茗夜話。和乾齋侍讀韻。

胡會恩

雪壓荒陲萬疊沙。相逢鬪帳卽爲家。汲來雁磧新濺水。點就龍泓舊試茶。謾訝聯鑣行漠北。還將接軫到天涯。茫茫鞆譯從何辨。賴有琅函載滿車。

過上都河

高士奇

窮荒春盡草無青。何處淒涼訪故亭。元時四涼亭遺址不可得。塞北山川迷史籍。幕南

部落絕王庭。雲垂野水流俱遠。鳥入長空去不停。閒把玉鞭吟馬上。

夕陽風角起林垆。

扈蹕至興安嶺。有旨命登絕頂遠眺。恭紀七律四首。

本朝 查慎行

崇岡斗起杳難攀。翠罕華旌歲往還。六合一家寧恃險。九邊三面總無關。龍沙展勢提封外。鳥道盤空霄漢間。詔許重登峰頂望。始知高

出萬層山。

忽開眼界向層巔。指掌圖成立馬前。東走陪京山委浪。北踰瀚海地黏天。牛羊白散千屯雪。草木青回萬竈烟。四十九藩齊望幸。呼嵩聲徹半空傳。

甲帳辰旗紫邏長。極天晴色辨微茫。黃榆不斷庭芳路。白日能消冰雪光。獵騎嘶風爭北向。野鷹隨雁亦南翔。西山蒼靄遙相接。直似登臨在帝鄉。

輿圖遠闢古興安。鳳舞龍廻氣鬱蟠。半嶺出雲鋪大漠。喬松落葉倚高寒。嶺以北松皆落葉丹青不數東南秀。俯仰方知覆載寬。萬里乾坤千里目。

欣從奇嶮得奇觀。

八月十七日。伊蘇河源雪中聞雷。食頃開霽。查慎行

雲黑初防挾雨來。俄看黍谷散寒灰。千峰雪作漫天霧。萬帳風兼動地雷。紅樹一番殘葉盡。碧空依舊夕陽開。眼前變幻真奇絕。天果難

將管見推。

隨駕行興安嶺上

查慎行

橫亘東西路幾千。直從遼海控居延。盡消伏莽山無樹。不斷靈源地
涌泉。羣牧牛羊量論谷。諸蕃廬帳列如壓。聖朝不畫長城界。一道平
岡是九邊。

塞外七夕早發

本朝 拉 欽

一夜秋風助曉涼。鞭梢拂露滿征裳。平林日上沈青靄。欹岸花開散
野香。客路忽驚逢七夕。歸期猶道過重陽。蕭條立馬高原望。羨爾穿
雲雁幾行。

和苙圃題蘇武廟詩用壁間茶字韻

本朝 金 虞

青塚明妃共一家。至今遺廟傍天涯。少卿別後如中酒。通國歸來似
小茶。小茶蕃女之稱。見元遺山詩。入畫麒麟終慘淡。寄書鴻雁漫咨嗟。銀沙萬里忠魂
在。廻樂峰前看月華。

和蘇武廟茶字韻詩。正如宋書生讀明律也。再步一首。聊以解嘲。

節毛落盡竟還家。廟食無涯歲有涯。瀚海牧羝終化乳。漢庭歌馬未通茶。從征客過應長歎。疥壁詩傳亦可嗟。絕調千秋首蘇李。莫將輕翰染烟華。

青城懷古

本朝 高其倬

築城絕塞跨岡陵。門啓重關殿百層。宴罷白沈千帳月。獵回紅上六街燈。夜江欲渡金源馬。秋使方徵渤海鷹。劫火東延名勝盡。前塵難問再來僧。

塞外招提

本朝 徐蘭

萬幕懽聲接九邊。翬飛黃屋奉金仙。寶輪掩映春浮樹。佛轉法輪處。樹名春浮。珠像

橫陳色界天。百尺雀離封古雪。雀離佛圖。見北魏史。一盆鮓答浴香泉。京房易占。兵強王武則牛腹生石即鮓答也。西域人以淨水浸之玩弄。雨花著處消兵氣。甌脫新開萬頃田。

過鄂倫拖羅海

本朝 關 寧

颯颯西風動大荒。平岡衰草冷斜陽。天如覆釜晴光遠。地似層波去路長。野渚炊烟藏部落。遙林殘雪露牛羊。橫空幾點南歸雁。嘹唳飛鳴向故鄉。

五言排律

奉使契丹道中五言長韻

宋 歐陽修

初旭瑞霞烘。都門祖帳供。親持使者節。曉出大明宮。城闕青烟起。樓臺白霧中。繡鞞驕躍。貂袖紫濛濛。朔野驚飈慘。邊城畫角雄。過橋分一水。回首羨孤鴻。地里山川隔。天文日月同。兒童能走馬。婦女亦腰弓。度險行愁失。盤高路欲窮。山深聞喚鹿。林黑自生風。松壑寒逾響。冰溪咽復通。望平愁驛迥。野曠覺天穹。駿足來山北。輕禽出海東。合圍飛走盡。移帳水泉空。講信鄰方睦。尊賢禮亦隆。斫冰燒酒赤。凍繪縷霜紅。白草經春在。黃沙盡日蒙。新年風漸變。歸路雪初融。祇事

須彊力。嗟予乃病翁。深慙漢蘇武。歸國不論功。

開平新宮五十韻

元郝經

日月旋天蓋。星辰合斗樞。光騰掌內鐵。氣繞澤中蒲。金帛羞重賜。弓
刀奮一呼。真人翔灞上。天馬出余吾。尺箠初開關。羣雄競走馬。無勞
爲更舉。乘勝卽長驅。蹴踏千年雪。驍騰萬里駒。長城衝忽斷。弱水飲
先枯。肅殺威靈盛。驅除運會俱。華夷塵頃洞。天地血模糊。地盡諸蕃
外。兵窮兩海隅。九州皆瓦礫。萬國一榛蕪。誰與重休息。徒爲妄駭吁。
治平須化日。殺伐豈良圖。聖子曾當璧。神孫會握符。鐵山深蘊玉。瀚
海特生珠。歷數終當在。謳歌信不誣。欲成仁義俗。先定帝王都。畿甸
臨中國。河山擁輿區。燕雲雄地勢。遼碣壯天衢。峻嶺蟠沙磧。重門限
扼狐。侵淫冠帶近。參錯土風殊。翠擁和龍柳。黃飛盛樂榆。岐山鳴鸞
鷲。冀野牧駒駝。風入松杉勁。霜涵水草腴。穹廬罷遷徙。甌脫省勤劬。
階土遵堯典。卑宮協禹謨。既能避風雨。何用飾金朱。棟宇雄新造。城

隍屹力扶。建瓴增壯觀。定鼎見規模。五讓登皇極。羣生賜大醕。還聞
却走馬。卽見弛威弧。簡策詢前代。弓旌聘老儒。恢宏回一氣。徼幸絕
多塗。雷雨施靡澤。乾坤洗舊污。直爲提赤子。遂使出洪鑪。遠徼收疲
恭。窮邊罷轉輸。江壖遺鄂岳。石窟棄巴渝。刀槩存殘骨。膏粱換毒疇。
却令逢有道。免使叫無辜。契濶還同室。鰥惻得字孤。八荒皆壽域。六
合極歡娛。白叟休垂泣。蒼生獲再蘇。只知期用夏。更擬論平吳。旭日
冰天透。仁君雪國無。終能到周漢。亦足致唐虞。遇主得知己。逢時合
舍軀。弭兵通信誓。奉詔敢踟蹰。頓覺心田豁。還將肝紙劄。行行重回
首。瑞氣滿闔闈。

魯子翬御史。分按遼陽。作長律五十韻。愛其精密。予今歲亦扈
蹕開平。因次其韻。

元袁

桷

象御天街正。烏輪海觀昇。省方秋戒愼。扈蹕歲因仍。石迸根駢拇。山
廻勢左肱。塵深疑帽重。霧密覺衣蒸。午頓炊難熟。宵征酒易勝。解鞍

心惘惘。執轡念兢兢。酪水分罍缶。通薪算斗升。皮毛均製服。脂腠或
然燈。統幕迷高下。烽臺閱廢興。度關泉水咽。出口月華澄。狼戾官芻
峙。魚麗餽粟徵。千房雲疊疊。萬竈墨層層。列帳排衣甲。行營護棘矜。
旆旋環似翼。鼓發去如繩。斗北瞻紅棧。雲西指白登。草肥青穉稷。松
聳翠峻嶒。積雪疑忘象。搏風訝徙鵬。屬車攢幄帳。行殿儼茵憑。白氈
時逢賈。朱衣定指僧。翠旒逼華蓋。金甕耀觚稜。觀闕天經界。儀臺象
緯凭。依飛拳似虎。鐵杖足如能。竹帛司常煥。丹青職貢增。會朝諸帽
簇。賜宴寶卮凝。陞立齊垂橐。師行陋釋棚。廣寒通月窟。高爽寄涼檜。
上聖英資異。丁年武德弘。天戈中夜渡。星檄百川承。同軌嚴行夏。明
禋恥用鄩。別州端首冀。分器定先滕。德啓無疆服。光傳有道曾。皇威
宣絕漠。陽澤散堅冰。表正辰居所。漸仁水集塍。庭開下鳴鳳。苑廢罷
飛鷹。舉逸尊加璧。綸材鄙販繒。鄧林搜八柱。瀛海取三凌。曲學慙繩
祖。孤聞賴得朋。沈思雲外弋。冥索澤中罾。容議鷄同鶴。人疑驥聚蠅。

濡毫終有思。執簡豈無懲。謂可兼遐邇。胡云立愛憎。清芬蘭佩結。芳
薦蕙肴烝。鴻筆吾誠忝。輜軒子累乘。共知心耿耿。明對髮髻髻。馬磨
誰憐許。龍門共企膺。枚生詞過實。揚子德徒稱。盛化乾坤闢。王綱日
月恒。麟符昭炳蔚。豹霧駭超騰。虛白難爲繪。空青不受贈。欲追千古
筆。爲付一枝藤。

次韻繼學三首

錄一

元馬祖常

雞塞西寧外。龍沙北極邊。有天皆入貢。無地不生仙。鵲玉光含水。驪
珠濕帶涎。香清堪閉閣。衣薄豈勝綿。珥筆遊鼇禁。扶犁占鶴田。酒來
揚子宅。人上剡溪船。自信篇章貴。能歌擊壤年。

省中書事

元王士熙

玉京長夏裏。畫省五雲邊。終日身無事。時清職是仙。縹緲分馬乳。銀
葉薦龍涎。細草烟籠罽。垂楊雪妒綿。客懷天外鶴。農事雨餘田。染翰
逢歌扇。揮金向酒船。鼇峰孤絕處。閒坐似當年。

上京大宴。和樊時中侍御。

元貢師泰

一元開大統。四海會時髦。畿甸包幽薊。天門啓應皋。羣黎皆屬望。百辟盡勤勞。蕃國來琛獻。邊陲絕驛騷。劍韜龍尾匣。弓屬虎皮囊。列聖尊皇極。元臣異節旄。宗盟存帶礪。世胄出英豪。歲駕嚴先蹕。居人望左纛。平沙班詐馬。別殿燕櫻毛。鳳簇珍珠帽。龍盤錦繡袍。扇分雲母薄。屏晃水晶高。馬湏浮犀椀。駝峰落寶刀。暖茵攢芍藥。涼甕酌蒲萄。舞轉星河影。歌騰陸海濤。齊聲纔起和。頓足復分曹。急管催瑤席。繁絃壓紫槽。明良真曠遇。熙洽喜重遭。化類工成洽。聲同士赴磬。隆恩雖欵洽。醉舞敢呼號。拜命榮三錫。論功恥二桃。重華躋舜禹。盛業繼夔臯。燕饗存寅畏。遊畋戒逸遨。乾坤春拍拍。宇宙樂陶陶。爭獻公車頌。光榮勝袞褒。

至正元年。復科舉取士制。承中書檄。以八月十九日至上京。卽國子監爲試院。考試鄉貢進士紀事。

元周伯琦

上國興王地。神州避暑宮。規模三代廓。聲教萬方隆。至正儒科復。留
司造王充。周南麟趾厚。冀北馬羣空。積雪寒無夜。清秋月正中。氈闌
環壁水。彩筆扇祥風。殿陳寧韜劍。先登不待弓。豹斑開曉霧。雉尾爛
晴虹。障候瞻鄒魯。都人想鎬豐。簾分堂上下。區別院西東。副楮行鴉
蠟。緘名畫鳥蟲。厲防周四署。塗抹眩雙瞳。理到無優劣。辭修有拙工。
神明終日監。造化四時公。讐校稽魚豕。詮題辨鷓鴻。固知毇繫博。敢
以贖爲聰。天淨文星麗。寒收土氣叢。臺萊浮渭洛。杞梓出恒嵩。偕計
先章甫。前驅軼小戎。有人爭覩鳳。何處兆非熊。合志官聯樂。連牀笑
語同。獸爐圍炭熾。魚燭綴花紅。雕豆羞肴炙。金卮奉酪醕。環廬帷毳
鬪。侍史服貂鼯。肩鏞虔朝暮。閣兵愼始終。更移壺滴瀝。衙報鼓籠銅。
事憶歐蘇遠。詞懷賈董雄。驛程心歷歷。雅奏日泐泐。聖統乾坤久。人
文日月崇。灤河天上出。銀漢定相通。

塞下

明謝榛

路出古雲州。風沙吹不休。烏鳶下空磧。駝馬渡寒流。地曠邊聲動。天高朔氣浮。霜連窮海夕。月照大荒秋。擊鼓蕃王醉。吹笳漢女愁。龍城可復取。俠士幾封侯。

五言絕句

涼陘

峩峩景明宮。五雲湧蓬萊。山空白晝永。野曠清風來。

金趙 颯

李陵臺二首

元馬祖常

故國關河遠。高臺日月荒。頗聞蘇屬國。海上牧羝羊。蹄林聞野祭。漢室議門誅。辛苦樓蘭將。淒涼太史書。

續演雅十詩

元白 斑

海青羽中虎。燕燕能制之。小隙沉大舟。關尹不吾欺。

海青俊禽也。而羣燕緣撲之即墜。物受於所制

者無小大也。

草食押不盧。雖死元不死。未見滌腸人。先聞棄簞子。

漢北有草。名押不盧。食其汁立死。然以他藥解

之即蘇。華作洗腸。胃攻疾疑先服此。

誰令珠玉唾。出彼藜藿腸。仁人不為寶。良賈宜深藏。和林有尼。能吐珠玉雜寶。

嬰啼聞木枝。羝乳見茅茹。何如百年身。反爾無根據。漠北種羊角。能產羊。其大如兔。食之肥美。嬰啼

木枝。見山海經所載。

西狩獲白麟。至死意不吐。代北有角端。能通諸國語。角端北地異獸也。能人言。其高如浮圖。

纔脫海鶴啄。已登方物輿。仰面勿啾啾。我長非僑如。小人長僅七寸。夫婦二枚。形體畢具。

羯尾大如斛。堅車載不起。此以不掉滅。彼以不掉死。西漢有羯。尾大如身之半。非車載。尾則不可行。

八珍肴龍鳳。此出龍鳳外。荔枝配江蚺。徒誇有風味。謂迤北八珍也。所謂八珍。則醍醐。麝沆。野駝蹄。

鹿脣。駝乳糜。天鷲炙。紫玉漿。元玉漿也。元玉漿即馬奶子。

灤人薪巨松。童山八百里。世無奚超勇。惆悵度易水。取松煤於灤陽。即上都。去上都二百里。即古松

林千里。其大十圍。居人薪之。將八百里也。

兩駝侍雪立。終日飢不起。一覺沙日黃。肉屏那足擬。沙漠雪盛。命兩駝。跌其旁。終夜不動。用斷梗架

片。甃其上。而寢處於下。煖勝肉屏。且不起心兵也。

七言絕句

邊詞

伊州歌入破

第三疊全唐

詩有進者之

名而無作者

之名

三秋大漠冷溪山。八月嚴霜變草顏。卷旆風行宵渡磧。銜枚電掃曉應還。

撫州

趙秉文

蕭寺金風動剎竿。西城北斗挂闌干。一蟲不響夜更靜。片月未高山

已寒。

燕賜城邊春草生。野狐嶺上斷人行。沙平草遠望不盡。日暮惟有牛

羊聲。

和景賢

耶律楚材

今日邊城又見君。試彈流水爇梅魂。聲和塞色金徽潤。香散穹廬玉

鼎溫。

過界牆

劉秉忠

風吹灤水湧如淮。十萬雕弓飲馬來。長嘯一聲鞭影動。金鞍飛過李陵臺。

次韻繼學伯庸上都見寄二首

袁桷

陰陰櫻殿水雲蒼。鳩鵲風微夏日長。渾似醴泉宮畔境。千官齊立從文皇。紗縠單衣珮水蒼。碧牋裁詔繭絲長。日斜雙入通明殿。雲母屏前對玉皇。

李陵臺

袁桷

雪袞寒沙風袞灰。眼穿猶上望鄉臺。隴西可是無廻鴈。不寄平安一字來。

秋懷

曹元用

砂磧秋高宛馬肥。哀笳一曲塞雲飛。南都兒輩應相念。過盡征鴻猶未歸。

五月芍藥

元馬祖常

紅藥花開端午時。江南遊客苦相疑。上京不是春光晚。自是天家日景遲。

丁卯上京四絕句

元馬祖常

山雨晴時已是秋。苑中行殿日華浮。長楊十里旌旗宿。不使飛霜入畫樓。

離宮秋草仗頻移。天子長楊羽獵時。白鴈水寒霜露滿。騎奴猶唱蹋歌詞。
海國名鷹豈鶻胎。渥洼天馬是龍媒。明時不惜黃金賜。只欲番王萬里來。
持橐詞垣已賜金。對衣侍拜更恩深。何如坐索長安米。只有詩歌滿翰林。

李陵臺次韻楊學士

元貢奎

青山繞驛客重來。十里羸驂首重廻。今古李陵悲絕處。夕陽野牧下荒臺。

李陵臺

元許有壬

李陵臺下駐分臺。紅藥金蓮滿地開。斜日一鞭三十里。北山飛雨逐人來。

八月十五日得旨先歸。驛騎在門。復召還草詔。十七日至桓州。

驛題壁。元虞集

烏桓東望天無際。祇有銀蟾出海頭。不得吹簫送清夜。禁城鐘鼓度中秋。

王朋梅東涼亭圖。延祐中奉勅所作草也。

灤水東流紫霧開。千門萬戶起崔嵬。陂陀草色如波浪。長是鑿輿六月來。

詐馬宴

上京作

元宋鑾

寶馬珠衣樂事深。只宜晴景不宜陰。西僧解禁連朝雨。清曉傳呼趣賜金。

灤陽邢君隱於藥。製芍藥芽。代茗飲。號曰瓊芽。先朝嘗以進御云。

元黃潛

芳苗簇簇徧山阿。玉蕾珠芽未足多。千載茶經有遺恨。吳儂元不過灤河。春風北苑鬪時新。萬里函封效貢珍。羨爾託根天尺五。不勞飛騎走紅塵。

元黃潛

人去次韻虞學士上京道中
欲去仍爲一日留。玉堂中夜有詞頭。歸鞍曉逐南飛鴈。猶及西山半夜秋。

元王士熙

上京次李學士韻
山擁石城月上遲。大安閣前清暑時。玉盃爭呼傳法酒。碧牋時進教

坊詩。

金燭承恩出院遲。玉堂學士草麻時。明朝上國新端午。彩筆應供帖子詩。

晝漏渾爭一刻遲。玉京六月似秋時。篋中日日藏紈扇。說與班娘莫寫詩。

芍藥闌前春信遲。灤京端午石榴時。雙雙紫燕自尋壘。小小白翎能念詩。

奉題袁伯長開平百首詩後詩。賦林谷。蘇無。元。王士熙。謝。玉海雲生貝闕高。騎鯨人去采芝遨。灤江一夕秋風到。瑟瑟珊瑚涌

翠濤。上都寄忝政。元。王懋德。

野草侵階水遶門。西風颯颯雨紛紛。小軒坐對爐烟冷。却憶溪南一片雲。

上京雜詠

元葉衡

水晶宮殿柳深迷。朝罷千官散馬蹄。只有詞臣留近侍。經筵長到日輪西。

雲擁蒼松嶺勢雄。微茫俯見九州同。皇家萬載千秋歲。看取天垂日照中。

塞漠穹廬散萬營。平沙細草際天青。柳林老校渾無事。閒倚斜陽理箭翎。

玉堦天近露華流。夜久涼風入鳳樓。曾把翠雲裘進否。上京六月冷于秋。

夜宿榆林月滿天。青帘紅燭喚舫船。相逢莫問兒家姓。醉裏空留白玉鞭。

細沙新築御家坡。恰有清塵小雨過。扶杖老翁先喜舞。翠華聞已渡灤河。

上京雜詠

元薩都刺

白晝簫韶起半空。水晶行殿玉屏風。諸王舞蹈千官賀。高捧葡萄壽
兩宮。天運昌隆。白晝簫韶起半空。水晶行殿玉屏風。諸王舞蹈千官賀。高捧葡萄壽
沙苑棕毛百尺樓。天風搖曳錦絨鈎。內家宴罷無人到。面面珠簾夜
不收。涼殿參差翡翠光。朱衣華帽宴親王。紅簾高捲香風起。十六天魔舞
袖長。中官隊仗等宮車。小樣紅靴踏軟沙。昨日官家清宴罷。御羅輕帽插
珠花。院院燒燈有咒僧。垂簾白日點酥燈。上京六月涼如水。人渴天瓢更
賜冰。

上京卽事

元薩天錫

大野連山沙作堆。白沙平處見樓臺。行人禁地避芳草。盡向曲闌斜

路來。

祭天馬酒灑平野。沙際風來草亦香。白馬如雲向西北。紫駝銀甕賜諸王。

牛羊散漫落日下。野草生香乳酪甜。卷地朔風沙似雪。家家行帳下氈簾。

紫塞風高弓力强。王孫走馬獵沙場。呼鷹腰箭歸來晚。馬上倒懸雙白狼。

和胡士恭灤陽納鉢卽事韻五首

紫駝峰挂葡萄酒。白馬鬣懸芍藥花。繡帽宮人傳旨出。黃門伴送內臣家。
野闊天垂風露多。白翎飛處草如波。髯奴醉起傾渾脫。馬漣香甜奈樂何。
蕎麥花深野韭肥。烏桓城下客行稀。健兒掘地得黃鼠。日暮騎羊齊

唱歸。

新教生駒不受騎。小紅車裏簇歸時。鈎簾醉臥氈毼月。不省人間有別離。

野館吹鐙夜未央。薄寒偏透越羅裳。出門不記人行路。馬首惟占北斗光。

灤河曲二首

元貢師泰

椎髻使來交趾國。橐駝車宿李陵臺。遙看徹夜鈴聲過。知進六宮瓜果廻。

白沙岡頭齊下馬。爲拾闕氏八寶鞭。忽見草間長十八。衆人分插帽檐前。

扈從上京學宮紀事

元周伯琦

曾夢複閣接青冥。金色浮圖七寶楹。當日熙春今避暑。灤河不比漢昆明。

右詠大安閣。故宋汴熙春閣也。遷建上京。

鏤花香案錯琳鏐。金甕葡萄大白浮。羣玉諸山環御榻。瑤池只在殿

西頭。右詠洪禧殿。

睿思閣下瑣窓幽。百寶明珠絡翠裘。內署傳宣來準備。大廷盛宴先

初秋。

數樹青榆延閣東。雲窗霞戶綺玲瓏。上林文鹿高於馬。時引黃鸞碧

草中。

榜題仁壽睿思東。星列鈎陳繡閣重。中夜三時羞玉食。地涼不用暑

衣供。

冰華雪翼眩西東。玉坐生寒八面風。巧思曾經修月手。通明元在五

雲中。右詠水晶殿。

鷓斑百和作堅材。翥鳳翔龍四壁開。寶地曉張香積界。始知天子是

如來。右詠香殿。

延閣圖書取次陳。講帷日日集儒臣。墨池雲合天光絢。東壁由來近

北辰。

右詠宣
文閣。

龔舍重開大殿西。牙符給事籍金闈。吾伊日課繙青簡。揮染還看寫
赫蹏。

北闕岩嶢號穆清。北山迢遞繞金城。四時物色圖丹壁。翠輦時臨幸
太平。

宣文下直

元周伯琦

亭亭翠栢倚朱闌。雲母窓扉逼暮寒。玉德殿前紅杏樹。數花猶作去
年看。

灤京雜詠一百首

錄六
十首

元楊允孚

東涼亭下水濛濛。敕賜遊船兩兩紅。回紇舞時杯在手。玉奴歸去馬
嘶風。

南國鄉音漸漸稀。朔風吹雪上征衣。邊鴻飛過桓州去。更向窮陰何
處飛。

窩名檐子果何如。野草黃雲入畫圖。弧矢縱懸仍覓侶。塞前番語笑人迂。

驅車偏嶺客南還。始見村姬笑整鬟。誰信片雲三十里。寒暄只隔此

重山。過人到偏嶺之北。面不可洗。頭不可梳。冷極故也。過此始有暖意。素非高嶺寒氣止隔于此。良可怪也。歟。

李陵臺畔野雲低。月白風清狼夜啼。健卒五千歸未得。至今芳草綠

萋萋。此地去上京百里許。

鴛鴦坡上是行宮。又喜臨岐象馭通。芳草撩人香撲面。白翎隨馬叫

晴空。由黑圍至此。始合轍焉。即察罕腦兒。白翎草地所產。

歡喜坡邊望禁城。鸞翔鳳翥卿雲清。舉杯一吸灤陽酒。消盡南來百

感情。此以下叙溧京之景。及聖駕往還典故之大概。

鐵蕃竿下草如茵。澹澹東風六月春。高柳豈堪供過客。好花留待蹋

青人。即幹耳柔陽青人。即官人也。

先帝妃嬪火失房。前期承旨達灤陽。車如流水毛牛捷。韉縷黃金白

馬良。毛牛其毛垂地。火失。豕房。乃累朝后妃之宮車也。

聖祖初臨建國城風飛雷動蟄龍驚。月生滄海千山白。日出扶桑萬

國明。上京大山。舊傳有龍居之。

北闕東風昨夜回。今朝瑞氣集蓬萊。日光未透香爐起。御道聲聲駝

鼓來。謂駱駝鼓也。

撒道黃塵輦路過。香焚萬室格天酥。兩行排列金錢豹。欽察將軍上

馬駝。

又是宮車入御天。麗姝歌舞太平年。侍臣稱賀天顏喜。壽酒諸王次

第傳。千官至御天門。俱下馬徒行。獨至尊騎馬直入。前有教坊。舞女引導。且歌且舞。舞出天下太平字樣。至玉階乃止。內門曰御天之門。

九奏鈞天樂漸收。五雲樓閣翠如流。宮中又放灤河走。相國家奴第

一籌。灤河至上京二百里。走者如貴赤。黎明放自灤河至御前。已初中刻者上賞。

得寵親王馬上回。朱門繡闥一時開。淋漓未了金釵宴。中使傳宣御

酒來。

大安閣下晚風收。海月團圓照上頭。誰道人間三伏節。水晶宮裏十

分秋。

大安閣。上京大內也。別有水晶殿。

四傑君前拜不名。輪番內直浹辰更。蓬萊山上羣仙集。得似王孫世

祿榮。

四傑卽四怯薛也。或稱也可怯薛者卽大法薛之稱。是之謂不名當三間夜。所以浹辰一更者也。

北極修門不暫開。兩行宮柳護蒼苔。有時金鎖因何掣。聖駕棕毛殿

裏回。

棕毛殿。在大幹耳架。

結綵爲樓不用扁。角聲扶上日初明。龍駒河北王來覲。直入金門下

馬行。

相國門前柳未花。不多嫩綠便藏鴉。東風吹得濃陰合。散入都城百

萬家。

千官萬騎到山椒。箇箇金鞍雉尾高。下馬一齊催入宴。玉闌干外換

宮袍。

每年六月三日詐馬筵席。所以喻其盛事也。千官以雉尾飾馬入宴。

錦衣行處狡狴習。詐馬筵前虎豹良。特敕雲和罷弦管。君王有意聽

堯綱。

詐馬筵開。盛陳奇獸。宴享既具。必一二大臣稱吉。思皇帝禮撤。于是而後禮有文。飲有節矣。雲和署隸儀鳳司樂。掌天下樂工。

儀鳳伶官樂既成。仙風吹送下蓬瀛。花冠簇簇停歌舞。獨喜簫韶奏

太平。

儀鳳司天下樂工隸焉。每宴教坊美女。必花冠錦繡。以備供奉。

麗日初明瑞氣開。千官錫宴集蓬萊。黃門控馬天街立。丞相簪花御

苑回。

聿來新貢又殊方。重譯寧誇自越裳。馴象明珠龜九尾。皇王不寶壽

無疆。

萬歲山有九尾龜。

嘉魚貢自黑龍江。西域葡萄酒更良。南土至奇誇鳳髓。北陲異品是

黃羊。

黑龍江即哈八都魚也。鳳髓茶名。黃羊北方所產。御膳用。

太平天子重文曹。閣建奎章選俊髦。一自六龍天上去。至今黃帕御

牀高。

昔文宗建奎章閣于大內。年深灑掃。暗御榻之歸然。感而賦此。

內人調膳侍君王。玉仗平明出建章。宰相乍臨闔闔表。小臣傳旨賜

湯羊。

御前廚。常膳有曰小廚房。大廚房。小廚房則內人八珍之奉是也。大廚房則宣徽所掌湯羊是也。由內及外。外膳既畢。羣臣始入奏事。每湯羊一膳。具數十六餐。餘必賜左右大臣。日以爲常。予常職賜。

故悉其詳

仙娥隱約上簾鈎。笑倚闌干出殿頭。鸚鵡臨階呼萬歲。白翎深院度清秋。

香車七寶固姑袍。旋摘修翎付女曹。別院笙歌承宴早。御園花簇小

金桃。

凡車中載固姑。其上羽毛又尺許。拔付女侍手持。對坐車中。雖后妃駝象亦然。

鳳樓春暖翠重重。內禁門開曉日紅。寶馬香車金錯節。太平公主幸離宮。

湯羊內膳日差排。紅帖呼名到玉階。底事金吾呵不住。腰間懸得象牙牌。

東城無樹起西風。百折河流遶塞通。河上驅車應昌府。月明偏照魯王宮。

內宴重開馬湏澆。嚴程有旨出丹霄。羽林衛士桓桓集。太僕龍車欸

欵調。

馬湏馬欸子也。每年八月開馬欸子宴。始奏起程。太僕寺掌馬車者。

鸞車八月政高翔。玉勒雕鞍萬騎忙。天上龍歸纔帶雨。城頭夜午又

經霜。

每年駕起。其夕即霜異哉。

南坡暖翠接南屏。雲散風輕弄午晴。寄與行人停去馬。六龍飛上計

歸程。

南坡乃納寶地也。故遊人罕至焉。

月出王孫獵兔忙。玉驄拾矢戲沙場。皮囊乳酒鑼鍋肉。奴視山陰對

角羊。

良馬馳驟。拾墮箭。橘綠羊。或四角六角者。謂之迭角羊。迭義未詳。以其角之相對。故曰對角。毛角雖奇。香味稍別。故不升之鼎俎。于以見天朝之玉食有等差也。

雍容環珮肅千官。空設番僧止雨壇。自是半晴天氣好。螺聲吹起宿

雲寒。

西番種類不一。每卽殊禮。宴享大會。則設止雨壇於殿隅。時因所見。以發一哂。

正元紫禁肅朝儀。御榻中間寶帕提。王母壽詞歌未徹。雪花片片彩

雲低。

此以下多叙一年之景。并雜詠之物。

元夕華鐙帶雪看。佳人翠袖自禁寒。平生不作蠶桑計。只解青驄韞

繡鞍。

試數窓間九九圖。餘寒消盡煖回初。梅花點遍無餘白。看到今朝是

杏株。

冬至後。貼梅花一枝於窗間。佳人曉妝日。以胭脂日塗一圈八十一圈。既足。變作杏花。即煖同矣。

脫圈窈窕意如何。羅綺香風漾綠波。信是唐宮行樂處。水邊三月麗

人多。

上巳日。灤京士女競作繡圈。臨水棄之。即修禊之義也。

葡萄萬斛壓香醪。華屋神仙意氣豪。酬節涼糕猶末品。內家先散小

絨繚。

重午節也。

百戲遊城又及時。西方佛子閱宏規。綵雲隱隱旌旗過。翠閣深深玉

笛吹。

每年六月望日。帝師以百戲入內。從西華入。然後登城設宴。謂之遊皇城。是也。

紫菊花開香滿衣。地椒生處乳羊肥。氈房納石茶添火。有女褰裳拾

糞歸。

紫菊花。惟灤京有之。名公多見。題品。地椒草。牛羊食之。其肉香肥。納石。韃靼茶。

為愛琵琶調有情。月高未放酒杯停。新腔翻得涼州曲。彈出天鵝避

海青。

海青。擎天鵝。新聲也。

海紅不似花紅好。杏子何如巴欖良。更說高麗生菜美。總輸山後蔞

菰香。

海紅。花紅。巴欖仁。皆果名。高麗人以生菜裹飯食之。尖山產蔞菰。

偶因試馬小盤桓。明德門前御道寬。樓下綠楊樓上酒。年年萬國會

衣冠。

明德門
午門也。

不須白粲備晨炊。乳酪羊酥塞北奇。泥土炕牀銀甕酒。佳人椎髻語
侏離。

東風亦肯到天涯。燕子飛來相國家。若較內園紅芍藥。洛陽輸却牡

丹花。

內園芍藥。迷望亭。直上數尺許。花大如斗。揚州芍藥稱第一。不及上京也。

白白氈房撒萬星。名王酣宴惜娉婷。李陵臺北連天草。直到開平縣
裏青。

東風吹暖柳如烟。寄語行人緩著鞭。燕舞巧防鴉鶻落。馬嘶驚起駝
駝眠。

時雨初肥芍藥苗。脆甘味壓酒腸消。揚州簾卷東風裏。曾惜名花第

一嬌。

草地芍藥。初生軟美。居人多采食之。

霜寒塞月青山瘦。草實平坡黃鼠肥。欲問前朝開宴處。白頭宮使往

還稀。

文宗曾開宴于南坡。故云。

雖然玉宇桂無花。秋比江南分外佳。絃管畫樓人散去。舍郎攜妓勸

嘗瓜。

俗以月下送瓜果往還上京不產桂花。

御饌官廚不較餘。金門掌膳意勤如。更分光祿瓶中酒。爛醉歸時月

上初。

凡御膳及民間者。謂之貢餘。光祿寺掌御酒。

別却郎君可奈何。教坊有令趣興和。當時不信郵亭怨。始覺郵亭怨

轉多。

興和署廼教坊司屬掌天下優人。

灤京九月雪花飛。香壓萸囊與夢違。鴈字不來家萬里。狐裘旋買換

征衣。

出塞書生瘦馬騎。野雲片片故相隨。凍生耳鼻雪堪理。冷入肝腸酒

強支。

凡凍耳鼻。即以雪揉之。方同。近火則脫。

買得香梨鐵不如。玻璃椀裏凍潛蘇。書生半醉思南土。一曲鐙前唱

鷓鴣。

梨子受凍。其堅如鐵。以井水浸之。則味回可食。

元宮詞

明朱 櫛周王

大安樓閣聳雲霄。列坐三宮御早朝。政是太平無事日。九重深處奏
簫韶。

鬼赤遙催駝鼓鳴。短簷氈帽傍車行。上京咫尺山川好。納鉢南來十
八程。

上京次貢侍制韻

明涂 穎

海風吹雨度龍沙。滿眼金蓮紫菊花。日暮笙歌何處起。高低穹帳五
侯家。

蓬萊仙子學長生。羣帝朝天絳節迎。昨日六龍回北極。雲裾霞珮集
灤京。

題忠順夫人畫像

明于 慎行

天山獵罷雪漫漫。繡袿斜偎七寶鞍。半醉屠蘇雙頰冷。桃花一片殢
春寒。

灤京雜詠

明釋來復

秋滿龍沙草已霜。射鵬風急朔雲長。內官連日無宣喚。獵取黃羊進
尚方。

題答抱雪塞遊圖

本朝卓爾堪

新詩吟罷勸金杯。萬里風吹沙雨來。跨馬欲沿荒草去。塞垣直北李
陵臺。

塞外截句

本朝胡會恩

軍廚曉飲拍黃羊。羽騎中宵射白狼。霜月滿營歌敕勒。夢回始覺臥
沙場。

邊風獵獵捲晴沙。四月陰山草未芽。莫道春歸無舊識。駝茸滿地似
楊花。

葡萄宮錦覆貂襜。宴罷旌門逞醉顏。一隊燕支飛上馬。玉鞭裁響過
千山。

萬帳雲屯大漠間。儒臣扈蹕自蕭閒。安營下馬渾無事。臥看崢嶸塞上山。

塞外雜詠

本朝 高士奇

滿磧閒花送野香。窮邊六月始青陽。紛紛蜂蝶須留意。若到秋來便

隕霜。

塞外五六月始有和色。七月即隕霜矣。

望中宮闕隔雲霞。歎息今年負物華。六月駝毛颺滿地。渾疑春盡落

楊花。

橐駝于五六月脫毛。塞上處處皆有風吹。展轉如楊花也。

南風吹雨北風晴。一日暄寒幾變更。誰信龍荒天氣別。無須當暑葛

衣輕。

自湖灘河朔至三岔

高士奇

雲山絕好塞垣圖。濃黛輕烟曉暮殊。野外八屯分畜牧。馬牛千里富

青芻。

張家口官牧餘地。分授八旗放牧。各據一場。每夏加遣人員督率之。

上京秋色圖

本朝 湯右曾

落日牛羊下遠村。平沙萬馬別開屯。君看沒鵲盤鷗處。莽莽青山是塞垣。

八月窮邊雪片麤。角弓鳴處草全枯。上都一片清秋色。却是寒林大小圖。

大風下興安嶺

本朝 查慎行

崇岡無樹朔風寒。直下眞從井底看。知是向南歸路近。亂飛黃葉打征鞍。

重九雪後觀獵

查慎行

銀鞚縞鹿挺嶮巘。重展圍場勢更寬。十萬羽林齊挾矢。只教六騎作旁觀。

茸鱸齏鱉愛新霜。每到登高必望鄉。誰料烏桓山外路。萬峰蹋雪過

重陽。

前二日大雪。

題陳允升塞外牧羊圖後

查慎行

鞭策曾趨萬騎先。鏡鉦親扈六飛旋。當初應笑移中監。塞北蒙氈十九年。

連日扈從。由雍安嶺烏蘭哈爾哈。至上都必拉觀圍。恭紀八首。

錄四

查慎行

連天積素耀威弧。鵠血牛螭力盡輸。看取羣情齊踴躍。一人獲雉萬人呼。

初分左右儼星奔。旋列方圓陣法存。千仞岡頭黃纛下。藍旗兩扇合旌門。

西僧迎輦列香旛。擊鼓吹螺動法門。番界從來知佛大。而今更識帝王尊。

多倫那拉之西。有喇嘛寺。西僧一百五人。蒙古每一部落供差一僧。俱來迎謁。賜銀緞有差。

嗟峨高勢拂雲開。天語親聆指示來。踏遍峰峰沙似雪。始知身到白

龍堆。

二十五日隨駕至上都海拉斯臺。上諭云。此地山形首皆西南向。尾皆東北向。即古白龍堆也。

隨駕閱視羣牧恭紀八首

右接雲中左界遼。放來羣牧十分膘。自從聖祖開基遠。水草新來分外饒。

齊色分花望不窮。一羣拔萃一羣空。天生騏驥初無種。只在君王顧盼中。

大漠塵消罷戍屯。曾收汗血入關門。於今青海無傳箭。字息均蒙豢養恩。

肉鞍高出草頭低。千百封牛褐色齊。

漢書注。駝背上肉鞍隆高。若封土。俗呼封牛。

知有泉源在山

外。但從沙上覓駝蹄。

烏犍黃犍種各殊。駢躡迭角雜攻駒。太平畜產閒無用。好入豐年考牧圖。

四時邊草閱榮枯。填谷堙谿作雪鋪。一色萬羣三百萬。不曾輕費大官芻。

邊戶羣歌樂歲穰。素封何必業耕桑。家家賜種滋蕃息。銀餅渾如柅

藜香。

唐摭言。宣宗賜韋懷孫宏銀餅。皆乳酪膏之所為。即今乳酥餅也。

蒺藜。范小傳。唐監苜蓿園。荒笑漢家。自是累朝無馬政。天留沃壤在

龍沙。

行經獨石口外

查慎行

獨石西南路最紆。時平關隘失崎嶇。灤河源在千山外。流過元朝避

暑都。

丙子春日雜詩

陳奕禧

科爾輪河漫自東。王庭氣暖草蒙茸。巴顏烏刺中間地。水北山南好

過冬。

厄魯特。噶爾丹。侵略爾喀。奪其巴顏烏刺。舊巢。其地南有科爾輪河。北有山環繞。背寒向陽。氣暖。有水草可駐牧。

上都秋夜

本朝 拉 歎

耿耿寒燈照不眠。穹廬孤坐意淒然。滿頭華髮西風老。羞對黃花又

一年。

上都

本朝 闕 名

墩夾邊牆內外長。紛紛廬落繞牛羊。白貂綠馬邊頭貴。爭換紅鹽向市場。

鴛鴦灤上洗妝多。毛錦團鋪向芰荷。宮女雙鳧教仰中。放鷓還去打天鷲。

和友人雪後行獨石口外詠所見

本朝 徐蘭

明沙灘上雪鋪銀。天作穹廬覆遠人。覆到晚來天亦冷。羲和革出日

三輪。

近北諸口。獨石為最冷。霧晦風冽。則冷氣逼人。有如三日並出。相去僅丈許。土人云。若五日並出。狀如梅花。則更冷。冬月所常見。然則唐書載。貞觀初。突厥五日並出者。非異也。

麥拉勒圖早發

本朝 關寧

葉打瑯弧馬帶霜。浪翻白草走黃羊。天空野闊無人跡。一路西風古戰場。

過察汗格勒

土人傳。為遼后梳粧樓遺址。

本朝 關寧

寧

灑灑河流岸草春。畫樓金粉已成塵。青山不管興亡事。依舊崎嶇送

路人。

集唐

打鬼歌

有序

本朝

徐蘭

番僧最尊者。爲呼必辣吉。能悟前身。人稱之曰胡土克圖。華言再來人也。次朝爾吉。次勺煞。次喇木占巴。次嚙卜處。次溫則忒。次德穆齊。次合楞。次合絲規。次合唎爾。次班第。次合由巴。次戳由巴。次骨捻爾。次顛馬。女僧爲尺巴甘赤。有室家者。男爲吳巴什。女爲吳巴三氣。總名之曰喇嘛。打鬼者梵言部勺。是日佛殿上燃燈千盞。建大旗於殿四隅。旗繪四天王像。戳由巴鳴金傳。執事者齊集。設胡土克圖座於殿之東。朝爾吉以下俱列坐。一僧名茶勃勒氣。散淨水於衆僧掌中。無常職班第爲之。几上陳胡朗叭令。以醪餅拌麩。作人獸形。蓋鬼食也。二甲士左右立。以帛束口。恐人氣觸之。鬼不食也。班第扮二小鬼對舞。一夜又睨其旁。向內一呼。卽潛

入人叢中。撒麵以迷人目。殿內吹鋼凍。

西番樂器。詞骨爲之。

諸樂隨之以奏。

合唵爾十二人。戴假面。扮馬哈喇佛。備極殊怪。雙雙跳舞而出。

其一曰厄利汗。文殊化身。二曰作嘛知。文殊之護法神。三曰嘛

哈噶喇。四曰喇嘛。皆觀音化身。五曰威又叭喇。六曰滋那噠渣。

七曰著基阿拉渣。八曰冬琨著煞。九曰生合冬東。十曰出孫冬

東。十一曰煞拉瓦。十二曰摸黑。皆觀音之護法神。惟厄利汗。煞

拉瓦。爲牛鹿扮面。餘皆不可辨。合楞十人。扮十地菩薩。錦衣花

帽。繼之而出。手執腦骨碗。骷髏棒。叉杵。綵縷等物。旁立番僧數

百人。人持鼓與鈸。鼓鈸之徐疾。隨其跳舞之節奏。赤巴甘出。吳

巴什夫婦。執香環繞。溫則忒宣開經偈。衆僧朗誦秘密神咒。吽

聲如雷。鈴聲如雨。喇木占巴以胡朗叭令擲於地。於是牛鹿二

假面。持刀砍地。作殺鬼狀。復有一僧。曰乃冲。戎裝執戟。吐火吞

刀。云神附於身。觀者皆膜拜。奉界單中於神。以問休咎。跳舞畢。

合由巴以糖一鉢候於戶。抹衆僧之口。而佛事終焉。余詢之譯
者云。烏斯藏有碉房。爲邪崇所據。白晝攫人飲食。喇嘛乃扮假
鬼。飲食於房中。以誘眞鬼。因扮諸佛。排闥以入。而打之。故名之
曰打鬼。今京師番僧寺。上元除夕。亦爲之。蓋猶周禮帥百隸。以
時儻之意也。

十里城中一院僧。薛天香飄翠瑣窓凝。劉一千龍象隨高步。裴百八

珍珠貫綵繩。賈萬國戎王盡稽首。鮑半是西方社中人。劉錫禹滿殿香

花爭供養。花蕊島良久問他不開口。高適口翻貝葉古字經。皇會甫嘈然歎

起初駭聽。章楚梵音妙音柔軟音。朱灣吐雲烟兮合宵冥。盧鴻深松竊聽

來妖精。李一草一木棲神明。顧願門閣朝鳴大法鼓。崔今日百獸先來

舞。薛陰風慘淡天王旗。李商繪畫日月蟠龍螭。陸龜瘦鬼染面惟齒

白。孟吹火熒熒又爲碧。李益爪利如風眼似鈴。薛曲頸微伸高九尺。馮涓

遠頸髑髏乾子裂。歐陽髑髏盡是長安卒。常萬人肉上寒毛生。劉言

捲地朔風吹白骨。即鋼凍白骨相撐如亂麻。李淒淒古血青銅生。李風

聲吼烈隨手起。李一聲悲兮一聲喜。戎一悲一喜併相宜。王羌笛胡

笳不用吹。孟北市風生飄散麵。白居一度出時拋一遍。王奕奕紛

紛何所如。劉汀上白沙看不見。盧殿庭燈燭上熏天。杜審紅光

紫氣俱赫然。郭夜又歡喜動關鎖。全青兕黃熊啼向我。甫鼓聲三

下紅旗開。張又見吳牛磨角來。休環行急蹴皆應節。李忽作風馳

及電掣。王虎貔麋猪逮猴猿。愈殊形怪狀不易說。寶中有一人金作

面。王周盧繳道縱橫轉。元中有一人披霓裳。劉長空中似放玉毫光。

崔液輸有一人兮神之側。元前把兩戈後雙戟。韓便似觀音手裏時。韓西

上文殊留印迹。曹又如吳生畫鬼神。蘇天池雷雨變逡巡。陸希應同

羅漢無名欲。苑輝相分明十八身。張千魑魅兮萬魍魎。任莫放燄光

高二丈。李玉羣持刀砍地翻作泥。戴舞風斜去散醯雞。吳冷眼靜看

真好笑。徐纔聞此戲身先到。趙蕃面將軍著鼠裘。馬臂鷹健卒懸氈

帽。盧廷龐眉老仙同佛力。盧綸翠帽珠衫好粧飾。盧汪聚立連連加弟兄。

總狀若歸尊趨有德。蕭祐雲暗青天日下山。陶雍歌終舞羅歡無極。吳少

毳帳望誰爲主人。殷文祐坐中有老沙場客。張陶金鎗亂點野駝酥。岑微

引還家問都邑。王維酒酣笑語秋風裏。姚鵠猶指去程千萬里。韋莊澥中有

國傾神功。寶岸昔日住人今住鬼。陳陶山鬼揚威正氣愁。溫庭筠梵經初向

竺僧求。司空曙感得此神天上下。皎然漫驅神鬼海東頭。羅隱聽此迎神送

神曲。李嘉祐華夷圖上應初錄。柳宗元至今閩里逢災沴。王道盡室惟求多

降福。羅鄴焚香奠醑邀百祥。李嶠朝野歡娛樂未央。司馬逸容惟願聖君無限

壽。張說雷動山呼萬歲長。和凝

口北三廳志卷之十五終

口北三廳志卷之十六

直隸分守口北道金志章撰

雜志

經有緯。史有稗。方志亦然。義例貴在精嚴。而掇拾蒼萃。亦所不廢。或異聞僻事。知之者不必傳。傳之者未必信。以及炙輶之談。捫籥之說。牽而綴之。亦掌故之所由備也。况塞北地處荒漠。紀載闕略。見聞之及。與過而棄之。寧過而存之。爰取採錄所遺。與夫流傳疑似。條付無所者。列之爲雜志。

天文志。自河山以南者中國。中國於四海內則在東南者爲陽。陽則日。歲星。熒惑。填星。占於街南。街天街也。畢主之。其西北則胡貉。月氏。旃裘。引弓之民爲陰。陰則月。太白。辰星。占於街北。昴主之。又曰。太白主中國。而胡貉數侵掠。獨占辰星。辰星出入趨疾。常主夷狄。其大經也。前漢書建武十二年正月己未。小星流百枚以上。或西北。或正北。或東北。二

夜止。六月戊戌晨。小星流百枚以上。四面行。小星者。庶民之類。流行者。移徙之象。或西北。或東北。或四面行。皆小民流移之徵。是時北征廬芳。匈奴助芳侵邊後。徙吏民置常山關。居庸關以東。後漢書 天文志漢制護匈奴中郎將烏桓校尉。銀印珪紐青綬。朝冠武冠獸頭鞞。隋書

禮儀志

鄧訓遷烏桓校尉。故吏最貧乏者。念訓常所服藥。北州少之。又知訓好青泥封書。從黎陽步推鹿車。至洛陽市藥。還過趙國易陽。并載青泥一襍。至上谷遺訓。其得人心如是。東觀漢記

烏桓自為冒頓所破。衆遂孤弱。常臣伏匈奴。及武帝遣驃騎將軍霍去病。擊破匈奴左地。因徙烏桓於上谷。漁陽。右北平。遼東。五郡塞外。為漢偵察匈奴動靜。其大人歲一朝見。於是始置護烏桓校尉。秩二千石。擁節監臨之。使不得與匈奴交通。後漢書 烏桓傳烏桓豪人扶漱官勇健。每與鮮卑戰。輒陷敵。詔賜號率衆君。後漢書 鮮卑傳

桓帝時。鮮卑檀石槐者。其父投鹿侯。初從匈奴軍三年。其妻在家生子。投鹿侯歸。怪欲殺之。妻言。嘗晝行。聞雷震。仰天視。而雹入其口。因吞之。遂妊身。十月而產此子。必有奇異。且宜長視。投鹿侯不聽。遂棄之。妻私語家令收養焉。名檀石槐。年十四五。勇健有智略。異部大人。抄取其外家牛羊。檀石槐單騎追擊之。所向無前。悉還得所亡者。由是部落畏服。乃施法禁。曲直無敢犯者。遂推以爲大人。檀石槐乃立庭於彈汗山。歟仇水上。去高柳北三百餘里。兵馬甚盛。東西部大人皆歸焉。因南抄緣邊。北拒丁零。東却夫餘。西擊烏孫。盡據匈奴故地。

東西萬四千餘里。網羅山川水澤鹽池。

後漢書
鮮卑傳

廣陽閭柔。少沒烏桓鮮卑中。爲其種所歸信。柔乃因鮮卑衆。殺烏桓校尉邢舉代之。袁紹因寵慰。以安北邊。後袁尙敗奔蹋頓。憑其勢復圖冀州。會太祖平河北。柔帥鮮卑烏桓歸附。遂因以柔爲校尉。猶持漢使節。治廣寧如舊。

三國志
烏桓傳

晉武帝太康九年。幽州塞北有死牛頭語。近牛羶也。晉書五行志

自神元以來。與晉和好。是歲穆帝始出并州。遷雜部落。徙雲中五原

朔方。又西渡河。擊匈奴烏桓諸部。自杏城以北八十里。迄長城。原夾

道立碣。與晉分界。魏書桓帝紀 在通典注香城 在中部以西

魏太武皇帝神䴥二年夏五月北伐。次于沙漠。至粟水。蠕蠕震怖。焚

廬舍。絕迹西走。冬十月。振旅凱旋于京師。列置新人於漠南。東至濡

源。西暨五原陰山。竟三千里。北史魏世祖紀

魏世宗正始二年二月癸卯。有黑風。羊角而上。起于柔玄鎮。蓋地一

頃。所過拔樹。甲辰。至於營州。東入於海。魏書靈徵志

高車蓋古赤部之種也。初因以爲狄歷。北方以爲敕勒。諸夏以爲高

車丁零焉。其語略與匈奴同。而亦有小異。其遷徙隨水草。衣皮食肉。

牛羊畜產。盡同蠕蠕。唯車輪高大。輻數至多。部落強大。常與蠕蠕敵。

亦每侵盜。後魏太武帝征蠕蠕。還至漠南。遣騎襲破高車東部。降數

十萬。皆徙至漠南千里之地。後又相率北叛。通典

奚本名庫莫奚。東部落之種也。為慕容部所破。遺落者竄匿松漠之

間。初臣於突厥。後稍強盛。分為五部。一曰辱紇主。二曰莫賀弗。三曰

契箇。四曰木昆。五曰室得。每部俟斤一人為其帥。隨逐水草。頗同突

厥。有阿會氏。五部中為盛。諸部皆歸之。隋書北狄傳 （通典）庫莫奚。其先東部鮮卑字文

樂水。即鮮卑故地。原注饒樂水一名如洛環水。蓋饒樂之訛也。部落並在今柳城郡東北二千餘里。

契丹之先。與庫莫奚異種而同類。並為慕容氏所破。俱竄于松漠之

間。後魏初。大破之。遂逃迸。與庫莫奚分背。經數十年。稍滋蔓。有部落

于和龍之北數百里。其後為突厥所逼。隋開皇末。有別部四千餘家。

背突厥來降。部落漸衆。遂北逐水草。當遼西正北二百里。依回紇。臨

水而居。東西亘五百里。南北三百里。亦鮮卑故地。分為十部。多者三

千。少者千餘。隨水草畜牧。唐貞觀二十二年。契丹師窟哥。率其部內

屬。以契丹部為松漠都督府。拜窟哥為持節十州諸軍事松漠都督。

典通

突厥可汗什鉢苾者。始畢之嫡子。頡利之姪也。隋大業中。突利年數歲。始畢遣領其東牙之兵。號為泥步設。頡利嗣位。以為突利可汗。牙直幽州之北。管奚霫等數十部。典通

芮芮塞外雜類也。晉世什翼珪入塞內。後芮芮逐水草。盡有匈奴故庭。威服西域。土氣早寒。所居為穹廬氈帳。刻木為記。不識文書。馬畜

丁肥。種衆殷盛。常與魏為讐敵。齊書芮芮傳。按芮芮即魏之蠕蠕。

遼本炎帝之裔。曰葛烏菟者。世雄朔陁。後為冒頓所襲。保鮮卑山以居。號鮮卑氏。既而慕容燕破之。析其部曰宇文。曰庫莫奚。曰契丹。契丹之名。昉見於此。隋唐之際。契丹之君。號大賀氏。武后遣將。擊敗其衆。大賀氏微。部長過折代之。過折尋滅。迭刺部長涅里。立廸鞏糞里。為阻午可汗。更號遙輦氏。唐賜國姓曰李懷秀。既而懷秀叛唐。更封楷落為王。而涅里之後曰壽思里者。左右懷秀楷落。至于屈戌幾百

年。國勢復振。至壽思里之孫曰阿保機。功業勃興。號世里氏。是為遼

太祖。於是世里氏與大賀遙輦。號三耶律。

遼史世表

遼制。居有宮衛。謂之幹魯朶。出有行營。謂之捺鉢。分鎮邊圉。謂之部

族。遼史營衛志序

遼國盡有大漠。浸包長城之境。因宜為治。秋冬違寒。春夏避暑。隨水

草。就畋漁。歲以為常。四時各有行在之所。謂之捺鉢。遼史行營志序 子河濼夏捺

鉢無常所。多在吐兒山。秋捺鉢。曰伏虎林。冬捺鉢曰廣平遊。 上

遼之先世。未有城郭溝池宮室之固。氈車為營。硬寨為宮。御帳之官。

不得不謹。百官營衛志 皇帝牙帳。以槍為硬寨。用毛繩連繫。每槍下。黑氈傘一。以芘衛士風雪。槍外

木柱竹椽。以氈為蓋。彩繪縹柱。錦為壁衣。加緋繡額。又以黃布繡龍為地障。窓榻皆以氈為之。傳以黃油絹。基

高尺餘。兩廂廊廡。亦以氈蓋。無門戶。省方殿北有鹿皮帳。帳次北有八方公用殿。壽寧殿北有長春帳。衛以硬

寨。宮用契丹兵四千人。每日輪番千人。祇直禁圍。外卓槍為寨。夜則拔槍移卓。御寢帳周圍。拒馬外設鋪傳鈴宿衛。

契丹之先。曰奇首可汗。生八子。其後族屬漸盛。分為八部。居松漠之間。古八部曰悉萬丹部。何大何部。伏弗郁部。羽陵部曰連部。匹黎部。黎部。吐六于部。 隋開皇四年。契丹別部。寄處高麗者曰

出伏等。率衆內附。詔置獨奚那頡之北。又別部臣附突厥者四千餘戶來附。詔給糧遣還。固辭不去。部落漸衆。徙逐水草。依紇臣水而居。

在遼西正北二百里。分爲十部。逸其名。唐大賀氏八部。達稽部。峭落州。紇便部。彈汗州。獨活部。無

蓬州。芬間部。羽陵州。突便部。日連州。芮奚部。徒河州。墜斤部。萬丹州。伏部州。二匹梨赤山。唐太宗置元州。以契丹大帥據曲爲刺

史。又置松漠都督府。以窟哥爲都督。分八部。并元州爲十州。則十部

在其中矣。遙輦氏八部。且利皆部。乙室活部。實活部。納尾部。類沒部。納會雞部。集解部。奚吐部。唐當開元天寶間。大

賀氏旣微。遼始祖涅里。立廸輦祖里爲阻午可汗。時契丹因萬榮之

敗。部落凋散。卽故有族衆。分爲八部。涅里所統迭刺部。自爲別部。不

與其列。并遙輦。迭刺亦十部也。遙輦阻午可汗二十部。耶律七部。密

相阻午分三耶律。大賀。遙輦。世里。爲七。二審密。乙室。已拔里。爲五。并前八部爲二十部。

其分部。皆未詳。可知者。曰迭刺。曰乙室。曰品。曰楮特。曰烏隗。曰突品。

不。曰捏刺。曰突舉。又有右大部。左大部。凡十。逸其二。大賀遙輦析爲

六。而世里合爲一云。遼史部族志

西北二庭。有西海。白海。青海。蒲類海。蒲昌海。居延海。白亭海。鮮水海。皆竝海立稱。然要其實致。則衆水鍾爲大澤。如洞庭彭蠡之類。故借海以名之。非眞海也。李吉甫辨白亭海而曰。河北得水。便名爲河。塞外有水。便名爲海。其說確也。北邊備對

漢趙信旣降匈奴。與之謀畫。令遠度漠北。以要疲漢軍。幕者漠也。言沙磧廣莫。望之漠漠然也。漢以後。史家變稱爲磧。磧者沙積也。其義

一也。同上

韃韃之俗。每以草青爲一歲。人有問其歲。則曰幾草矣。亦嘗問彼月日。笑而答曰。初不知之。亦不能記其春與秋也。每見月圓爲一月。見草青遲遲。方知是年有閏月也。蒙韃備錄

道宗初年。西北雨穀三十里。遼史食貨志

春飛放杏塢。皇帝射獲頭鷺。薦廟燕飲。樂工數十人。執小樂器侑酒。

金太祖天輔七年四月。上次落黎灤。斡魯等。以林牙大石來獻。并上所獲傳國璽。金史本紀

世宗元光元年正月。遣戶部郎中楊大有等詣京。西南三路開水田。

食貨志

章宗大定二十九年。置節鎮學。增養士之數。奉聖州十五人。撫桓皆十人。選舉志

凡府試策論進士。西京及西南西北二招討司者。則赴大同府試。凡詞賦經義進士。及律科經童府試之處。皆各於其境。金史選舉志

楊伯雄字希雲。藁城人。皇統二年進士。以太子詹事兼諫議大夫。大定六年。世宗將幸西京。欲因涼陘避暑。伯雄率衆諫官入諫。上曰。朕徐思之。伯雄言之不已。是年至涼陘。徼巡果有疎虞。上思伯雄之言。還遷禮部尙書。謂近臣曰。羣臣有幹局者衆矣。如伯雄忠實。皆莫及也。

金史本傳

金之初年。諸部之民。無它徭役。壯者皆兵。其部長曰孛堇。行兵則稱曰猛安。謀克。從其多寡以爲號。猛安者千夫長也。謀克者百夫長也。謀克之副曰蒲里衍。士卒之副從曰阿里喜。部卒之數。初無定制。至太祖卽位之二年。始命以三百戶爲謀克。謀克十爲猛安。金史西北西南二路之虬軍十。曰蘇謨典虬。曰取刺都虬。曰骨典虬。唐克虬。霞馬虬。木典虬。萌骨虬。咩虬。狐都虬。凡九。同上金初。因遼諸抹而置郡牧。抹之爲言。無蚊蚋美水草之地。天德間。置廸河幹。朶幹里保。保亦作本。蒲速幹。燕恩。兀者五羣牧所。皆仍遼舊名。各設官以治之。世宗置所七。曰忒滿。忒滿。在撫州。幹覲只。蒲速椀。蒲速椀本幹覲只之地。大定七年分製。承安三年。收爲叛底因烏魯古。甌里本。承安三年。改爲烏鮮烏魯古。烏魯古者言滋息也。合魯椀。耶魯椀。大定二十一年。更定羣牧官詳穩。脫朶知。把羣。牧人滋息耗損賞罰格。二十一年。敕諸所。馬三歲者。付女直人牧之。牛或以借民耕。或又令民畜。羊或以販貧戶。時遣使閱實其數。缺則杖其官。而令牧人償之。匿其實者。

監察舉覺之。

金史
兵志

上都北極出地四十三度少。

元史天
文志

初帝與汪罕合軍攻乃蠻。約明日戰。札木合言於汪罕曰。我於君是白翎雀。他人是鴻雁耳。白翎雀寒暑常在北方。鴻雁遇寒則南飛就暖耳。意謂。帝心不可保也。汪罕聞之疑。遂部衆於別所。

元史太
祖本紀

至元十三年正月。伯顏丞相入杭。二月。起宋三宮赴上都。五月。見世祖皇帝。尋命幼主。爲檢校大司徒。封瀛國公。十二日。內人安康朱夫人。安定陳夫人。二侍兒失其姓。浴罷。肅襟閉門。焚香於地。並雉經死。衣中有清江紙。書云。不免辱國。幸免辱身。不辱父母。免辱六親。藝祖受命立國。以仁中興。南渡踰三百春。躬受宋祿。羞爲北臣。大難既至。守於一貞。焚香設誓。代書諸紳忠臣義士。期以自新。丙子五月吉日。泣血書。

王逢浯溪集詩注。逢有感宋遺事詩云。五月無花草滿原。
天回南極夜當門。龍香一篆魂同返。猶藉君王舊賜恩。

每歲駕幸上都。以八月二十四日祭祀。謂之灑馬妳子。用馬一。羯羊

八。綵緞練絹各九匹。以白羊毛纏若穗者九。貂鼠皮三。命蒙古巫覡。及蒙古漢人秀才達官四員。領其事。再拜告天。又呼太祖成吉思御名。而祝之曰。托天皇帝福蔭。年年祭賽者。祭畢。掌禮官四員。各以祭幣表裏一與之。餘幣及祭物。則凡與祭者共分之。

元史祭祀志
國俗舊禮

四怯薛。太祖功臣四傑。命其世領怯薛之長。怯薛者。猶言番直宿衛也。其怯薛執事之名。則主弓矢鷹隼之事者。曰火兒赤。昔寶赤。怯憐赤。書寫聖旨者。曰扎里赤。爲天子主文史者。曰必闌赤。親烹飪以奉上飲食者。曰博爾赤。侍上帶刀及弓矢者。曰云都赤。闌端赤。司闌者。曰八刺哈赤。掌酒者。曰荅刺赤。典車馬者。曰兀刺赤。莫倫赤。掌內府尙供衣服者。曰速古兒赤。牧駱駝者。曰帖麥赤。牧羊者。曰火你赤。捕盜者。曰忽刺罕赤。奏樂者。曰虎兒赤。又名忠勇之士。曰霸都魯。勇敢無敵之士。曰拔突。其名類蓋不一。然皆天子左右服勞侍從執事之人。其分番更直。亦如四怯薛之制。而領於怯薛之長。

元史宿衛志

車駕行幸上都。太僕卿以下皆從。先驅馬出健德門外。取其肥可取乳者。以行。汰其羸瘦不堪者。還于羣。自天子以及諸王百官。各以脫羅氈置撒帳。爲取乳室。車駕還京師。太僕卿先期。遣使徵馬五十。醞都來京師。醞都者。承乳車之名也。既至。俾哈赤。哈刺赤。牧人之名在朝爲卿大夫者。親秣飼之。日釀黑馬乳。以奉玉食。謂之細乳。每醞都牝馬四十。每牝馬。一官給芻一束。菽八升。駒一。給芻一束。菽五升。自諸王百官而下。亦有馬乳之供。醞都如前之數。而馬減四之一。謂之粗乳。

元史兵志馬政

世祖至元二十八年。發虎賁親軍三千人。凡立三十四屯於上都。置都指揮使司。爲軍三千人。佃戶七十九。爲田四千二百二頃七十九

元史兵志屯田

畝。初弘吉刺氏族。居於苦烈兒溫都兒斤。迭烈木兒也里古納河之地。歲甲戌。太祖在迭蔑可兒。時有旨。分賜按陳及其弟火忽册等農土。

農土猶言經界也。

若曰。是苦烈兒溫都兒斤。以與按陳及哈撒兒爲農土。申諭按陳曰。可木兒溫都兒。答兒腦兒。迭蔑可兒等地。汝則居之。諭册曰。阿刺忽馬乞迤東。蒜吉納禿山。木兒速拓哈海斡連。直至阿只兒哈溫都哈。老哥魯等地。汝則居之。當以葫盧忽兒河北爲隣。按赤白爲界。又諭。火忽口哈老溫迤東。塗河潢河之間。火兒赤納慶州之地。與亦乞列思爲隣。汝則居之。又諭。按陳之子唆魯火都曰。以汝父子。能輸忠於國。可木兒溫都兒迤東。絡馬河。至于赤山塗河迤南。與國民爲隣。汝則居之。至至元七年。斡羅陳萬戶。及其妃囊加真公主。請於朝曰。本藩所受農土。在上都東北三百里。答兒海子駐夏之地。可建城邑以居。帝從之。遂名其城爲應昌府。二十二年。改爲應昌路。元貞元年。濟寧王蠻子台。亦尙囊加真公主。復與公主請於帝。以應昌路東七百里駐冬之地。剏建城邑。復從之。大德元年。名其城爲全寧路。

梁直脬魯華。蒙古克烈氏人。太祖命將萬人。爲木華黎前鋒。下金桓州。得其監馬幾百萬匹。分屬諸軍。軍勢大振。元史本傳

鐵哥。姓伽乃氏。迦葉彌兒人。至元二十二年。桓州饑。民鬻子女。以爲

食。大司農鐵哥奏。以官帑贖之。元史本傳

洪君祥。高麗人。至元二十八年。爲集賢大學士同僉樞密院事。議者

欲自東南海口辛橋。開河合灤河。運糧至上都。奉旨與右丞阿里。相

其利害。還極言不便。罷之。元史本傳

劉正字清卿。清州人。至元十四年。分省上都。會諸王昔里吉叛。正至

居庸關。守者告。前有警。急使姑退。正曰。職當進。而弗往。後至者益怯

矣。疾馳出關。至上都。元史本傳

虞集。泰定初。遷秘書少監。天子幸上都。以講臣多高年。命集與集賢

侍讀學士王結。執經以從。自是歲嘗在行。一時大典冊。皆出其手。元史本傳

字本魯。神字子翬。從幸上都。嘗奉敕撰碑文。稱旨。文宗曰。候朕還大

都。當還汝潤筆資也。還遷集賢直學士。兼國子祭酒。

元史本傳

世祖中統四年。置惠民藥局于上都。每中統鈔一百兩。收息錢一兩

五錢。至元二十五年。以陷失官本。罷革之。

元史食貨志

上都稅課提舉司。歲額一萬五百二十五錠五兩。興和路商稅。歲額

七百七十錠一十一兩七錢。上都留守司。歲額一千九百三十四錠

五兩。上都食羊等課。上都路計鈔三百錠。興和路三百錠。

食貨志

元世。西僧怙勢恣睢。氣燄熏灼。延於四方。爲害不可勝言。至大二年。

上都開元寺西僧。強市民薪。民訴於留守李璧。璧方詢問其由。僧已

率其黨。持白梃突入公府。隔案引壁髮。摔諸地。捶扑交下。拽之以歸。

閉諸空室。久乃得脫。遇赦以免。二年。又有僧龔柯等十八人。與諸王

合兒八刺妃爭道。拉妃墮車。歐之。事聞。詔釋不問。

元史釋老傳

世祖至元十四年八月。車駕駐隆興北。田忠良奏曰。昔里吉之叛。以

安童之食不及彼也。今宿衛之士。日食一瓜。豈能充饑。竊有怨言矣。

帝怒答主膳二人。俾均其食。元史方技傳

明初逐元漠北。卽元上都。設開平衛守之。置八驛。東接大寧。西接獨石。邊境無事。後以大寧界虜。興和亦廢。開平孤立難守。宣德中。乃移

衛於獨石。明會典

元君旣遁。復留兵開平。猶有覬覦之意。太祖遣使馳書。明示禍福。因答詩曰。金陵使者渡江來。漠漠風烟一道開。王氣有時還自息。皇恩何處不昭回。信知海內歸明主。亦喜江南有俊才。歸去誠心煩爲說。

春風先到鳳皇臺。剪勝野聞

永樂元年正月辛亥。以萬全左右宣府前懷安開平開平中等衛興

和守禦千戶所。俱隸北京留守。行後軍都督府。成祖實錄

永樂八年。上親征漠北。駐蹕興和。駐馬於營前。召幼孜等謂曰。汝觀

地勢遠見。似高阜。至卽又卑。此卽陰山脊。故寒。過此又暖。北征前錄

發鳴鑾戍。行數里。平山漸盡。東北有山。頗高出諸山。上曰。此卽大伯

顏山。西北有山。甚長。隱隱如雲霧。間如海波層疊。上曰。此卽小伯顏

山。望之若高。少焉至其下。則又卑矣。由是地始平曠。上同

上同

闊灤海子有山。如長堤。以限水。海子甚闊。望之者無畔岸。遙望水高

如山。白浪隱隱。自高而下。天下之物。莫平於水。嘗經江湖間。望水無

上同

不平者。獨此水遠見如山之高。近處若極下。此理極不可曉。

七月次開平。營於鞞耳朶。華言所謂宮殿也。蓋元時宮殿故址猶存。

荒臺斷礎。零落於荒烟野草之間。可爲一慨。初七日。經元西涼亭故

址。四面石牆。東廢殿基。樹木已成抱。殿前有栢兩行。仍在。俱蕭條寂

上同

寞。不能無感也。五雲關卽哈刺罕。凌霄峰卽兀出干伯顏。龍沙甸卽阿蘭腦兒。雙泉

海卽撒里怯兒。元太祖發跡之所。舊嘗建宮殿郊壇。每歲於此度夏。

山川環繞。中關數十里。前有二海。一鹹一淡。西南十里。有泉水海子

一處。西北山有三。關口通飲馬河。土刺河。北人常出入處也。

北征後錄

皇甫仲和。睢州人。精天文推步之學。文皇北征。仲和以占從。一日師至漠北。不見寇。上意疑欲還。召仲和占之。曰。今日未申間。寇至自東南方。問勝負何如。曰。王師始却。終必勝。召袁忠徹問之。皆如仲和言。上怒械之。曰。今日寇不至。二人皆死。日中不至。復召二人占。對如初。頃之寇大至。直前以神鎗衝之。寇按兵不動。頃之寇衆齊發。上登高望之。召總兵譚廣曰。東南不可却乎。廣率精兵。舞牌斫其馬足。寇稍却。已而疾風揚沙。兩不相見。寇引去。詔欲乘夜還。二人曰。不可。明日寇必來降。從容而去。明日果詣軍門納款。乃還。守溪筆記

宣德九年正月。大同總兵官武安侯鄭亨等奏。近聞北寇百餘人。攜家口。至官山近地。牧放就食。馬困力窮。衆心不一。請出兵掩捕。不然請給榜招之。上曰。彼不寇。而加以兵。不仁。惟當撫諭。招懷之耳。宣宗實錄

永樂中。侍講金幼孜與楊榮。從駕北征。駐清水原。有泉出。幼孜獻銘。榮獻詩。皆勞以上尊。帝重幼孜文學。所過山川要害。輒命記之。嘗與

胡廣楊榮及侍郎金純。失道陷橐駝谷中。帝暮夜遣使十餘輩迹之。不獲。時幼孜墮馬。廣純去不顧。榮爲結鞍。行行又輒墜。榮以所乘馬予幼孜。明日始及行在所。明史

楊榮字勉仁。永樂八年。從出塞。度野狐嶺。召榮及胡廣等。指示山川聚落。語良久。奉制馬上賦詩。榮詩有寇自相殘語。已而謀言。本雅失

里與其下阿魯台相攻。皆竄走。帝謂榮曰。卿詩驗矣。復賜之牢醴。明史

楊榮傳

北部自脫古思帖木兒後。部帥紛拏。五傳至坤帖木兒。咸被弑。不復知帝號。有鬼力赤者。篡立稱可汗。去國號。遂稱韃靼云。久之。其知院阿魯台。殺鬼力赤。而迎元之後。本雅失里於別失八里。立爲可汗。明史

韃靼傳

永樂十年。本雅失里爲瓦剌馬哈木等所殺。阿魯台奏。願輸誠內附。請爲故主復仇。天子義之。封爲和寧王。自是歲或一貢。或再貢。以爲常。十九年。阿魯台貢使至邊。要刼行旅。帝諭使戒戢之。由是驕蹇不

至。二十年春。大入興和。于是詔親征之。阿魯台懼。遂以其孥直北徙。仁宗初立。阿魯台使來貢馬。詔納之。自是歲修職貢。如永樂時。時阿魯台數敗於瓦剌。部曲離散。勢日益蹙。乃率其屬東走兀良哈。駐牧遼塞。宣德九年。阿魯台復爲脫脫不花所襲。妻子死。孳畜略盡。獨與其子失捏干等。徙居母納山。察罕腦兒等處。未幾瓦剌脫懽。襲殺阿魯台及失捏干。于是阿魯台子阿卜只俺等。喪敗無依。來乞內附。同上脫脫不花者。故元後韃靼長也。瓦剌脫懽。旣擊殺阿魯台。悉收其部。兼并賢義安樂二王之衆。欲自立爲可汗。衆不可。乃立脫脫不花。以阿魯台衆屬之。自爲丞相。陽推奉之。實不承其號令。脫懽死。子也先嗣。益桀驁自雄。諸部皆下之。脫脫不花具可汗名而已。韃靼傳正統十四年秋。也先謀大舉入寇。脫脫不花止之也。先不聽。遂自擁衆從大同入。帝親征之。駕於土木。陷焉。明年秋。上皇歸。脫脫不花修貢益勤也。先疑其與中國通。將害已。遂治兵相攻。殺脫脫不花。而自

立爲可汗。未幾。爲所部阿刺知院所殺。韃靼部長孛來復攻破阿刺。求脫脫不花子麻兒可兒立之。號小王子。阿刺死。而孛來與其屬毛里孩等。皆雄視部中。於是韃靼復熾。麻兒可兒死。衆共立馬古可兒吉思。亦號小王子。自是韃靼部長益各專擅。小王子稀通中國。傳世次多莫可考。

明史韃靼傳

正統十四年秋八月。駕至土木。師潰。敵擁上以去。過九十九海子。又行經蘇武廟。李陵碑。至黑松林。入也先營。否泰錄

景泰元年夏六月戊戌。瓦剌知院參政完者脫懽五人。齎番文表至。請和。命禮部侍郎李實爲正使。少卿羅綺爲副使。使瓦剌。七月初七日。出獨石。過氈帽山。初八日。宿興和衛東河邊。初九日。宿昂昆岡兒。卽海子。初十日。宿失刺失薄禿。卽也先邊塞。十一日。至也先營。十二日。朝見上皇。上曰。比先我出來。非爲遊獵私己之事。乃爲天下生靈。躬率六軍。征討迤北。不意被留在此。實因王振。陳友。馬清。馬雲所陷。

也先欲送回。又被喜寧阻住。今你每回去上覆。當今皇帝并內外文武羣臣。差來迎我。願看守祖宗陵寢。或做百姓也好。若不來接取。也先人馬擾邊不休。我身不惜。祖宗社稷天下生靈爲重。十三日也先備酒相待。謂實等曰。太上皇帝留在這裏。是一箇閒人。我還你每千載之後。只圖一箇好名兒。你回去奏知。務差大人來接。我便差人送去。如今送去。便輕易了你每皇帝了。十四日拜辭。上皇起行。宿荒野十五日。宿失刺失薄禿。十六日。過蕞麻嶺。十七日。從西陽河口入關。

奉使
錄

成化二年。韃靼諸部內爭。孛來弑馬古河兒吉思。毛里孩殺孛來。更立他可汗。斡羅出者。復與毛里孩相仇殺。毛里孩遂殺其所立可汗。逐斡羅出。而遣使入貢。而別部長孛魯乃。亦遣人來朝。六年。孛魯乃與斡羅出。合別部札加思蘭。孛羅忽。亦入據河套。已而毛里孩。孛魯乃。斡羅出。稍衰。滿都魯入河套。稱可汗。札加思蘭爲太師。初。札加思

蘭。以女妻滿都魯。立爲可汗。久之殺孛羅忽。并其衆。益專恣。滿都魯部脫羅干亦思馬因。謀殺之。尋滿都魯亦死。諸酋相繼略盡。韃靼傳成化末。亦思馬因死。入寇者復稱小王子。又有伯顏猛可王。弘治中。小王子自稱大元大可汗。與脫羅干之子火篩相倚日強。爲東西諸

邊患。

同上

嘉靖十二年。元順帝十七傳卜赤。立爲小王子。伯顏猛可伐之。長孫也。其別部賽郡刺有七子。長吉囊。壁河套。名襖兒都司。次俺答。壁大同外之豐州灘。二人雄黠善兵。卜赤從父行也。其弟老哈都。一名昆都乃哈。壁宣府外之張家口地。名哈喇慎。諸部落百十處。各有分地。名尊小王子。實不受其約束。卜赤遂徙壁東方。奪福餘衛地居之。直于遼。號土蠻。其所居地名插漢。十三年。吉囊俺答入犯山陝。宣大無虛歲。十九年。仇鸞師大同。陰使人賄俺答。詔以開市。其冬。俺答上書求貢。明年。使子脫脫徙塞下。申請。仇鸞力主其議。詔給金十萬。易布

幣。開市五堡及宣府以待。郎史道經略其事。馬市遂成。二十一年。鸞死。詔罷諸邊馬市。初學集詩注

永樂元年。韃靼知院阿魯台。瓦剌馬哈木。俱遣人入貢。七年。封馬哈木順寧王。太平賢義王。把禿孛羅安樂王。通貢不絕。十一年。阿魯台乞降。封和寧王。尋各叛去。二十年。阿魯台弑其可汗本雅失里而自立。馬哈木攻破之。遂立元裔脫脫不花爲可汗。居漠北。宣德元年。瓦剌太平子捏烈忽嗣賢義王。馬哈木子脫懽嗣順寧王。九年。脫懽擊敗阿魯台走死。遣人朝貢且告捷。正統六年。脫脫不花及其太師也先貢馬。也先者脫懽子也。景泰三年也先攻殺脫脫不花。自立爲可汗。遣使貢馬。書稱大元田盛大可汗。朝廷亦稱瓦剌可汗。以報之。天順初也先爲哈刺所逐死。孛來殺哈刺。立小王子爲可汗。孛來癘王子。復弑小王子。立脫思。脫思者小王子從兄也。乃孛來衰而大酋毛里孩。阿羅出。孛羅忽。入河套相持。成化初。滿都魯稱可汗。札加思蘭

爲太師。與孛羅忽更入爲寇。十三年。滿都魯亦衰。而後把禿猛可王。太師亦思馬因。知院脫羅干。屢遣使入貢。弘治初。把禿猛可死。弟伯顏猛可立。與火篩相攻。小王子益衰。自天順成化以來。更立數王。皆稱小王子。正德中。瓦剌西徙。與土魯番相仇殺。小王子復強。小王子三子。長阿爾倫。其後爲土蠻汗。次阿著。次滿官嗔。阿爾倫爲太師。亦不刺所弑。二子卜赤也。明皆幼。阿著稱小王子。未幾死。衆立卜赤。稱亦克汗。而亦不刺部從吉囊居套。火篩部從俺答居漠。老把都住牧宣府塞外。與吉囊子吉能。東西出沒。並聽俺答調度。吉囊。俺答。老把都。皆阿著子。而俺答最强。嘉靖間。犯邊無寧歲。遂絕其貢。至隆慶中。復款貢。封順義王。明會典

隆慶四年九月。把漢那吉來貢。把漢那吉者。俺答第三子鐵背台吉子也。幼孤育于俺答妻一克哈屯所。俺答愛之。爲娶歹慎部女。曰大成比妓。比妓明史實錄俱作比吉那吉又自聘兔扯金女。未及婚。會俺答有外孫女。

已聘襖兒都司矣。俺答聞其美。自娶之。號曰三娘子。襖兒都司怒。治兵相攻。俺答懼。奪那吉所聘女。與之。那吉恚恨。攜其妻及其乳母之夫阿力哥等。扣關來降。總督王崇古。與大同巡撫方逢時。具以其事奏聞。詔授那吉指揮使。阿力哥正千戶。俺答方掠西蕃。得報疾馳歸。趙全教其約諸部稱兵入塞。索那吉。一克哈屯聞其謀。哭罵俺答曰。是欲速殺吾孫也。俺答乃遣使來祈請。崇古因使使與俱說俺答。俺答聞那吉無恙大喜。復使使來定約稱臣。貢方物開市。崇古聞於朝。俺答隨收縛趙全李自馨等。以獻。周元聞變服毒死。全等旋皆伏法。全未至時。已詔那吉歸。俺答迎之河上。祖孫嗚咽相誓。告使使入謝。申請貢市。崇古奏其款堅。宜聽。中朝頗多異議。大學士高拱。張居正。力主崇古。奏是請於上。報可。五年三月。封俺答爲順義王。賜蟒衣綵緞。昆都力哈及黃台吉。卽興克都隆。俺答長子。官都督同知。餘指揮千百戶有差。俺答率所部。受詔甚恭。隨遣使貢馬謝。九月報市成。歲以爲常。萬曆

九年俺答故子黃台吉襲王封。烝其妾母三娘子爲妻。萬曆十三年黃台吉故子擗力克襲王封。亦收三娘子爲妻。詔封忠順夫人。以其經事三王。約束諸部。奉約惟謹故也。萬曆三十二年。擗力克故。其長子晁兔台吉亦已先死。孫卜石兔應嗣。而三娘子所生不他失禮。收其異母兄子把漢那吉。妻大成比妓。生子素囊者。狡黠多智。藉其祖母併有扳升之衆。極稱富強。心易卜石兔。嫚言于忠順曰。王事始吾母。大成比妓投降中國。中國以我父母故。乃授我祖王封。祖故。應那吉襲王。那吉故。應我父。不他失禮。襲王。我父故。應襲王者我也。我祖母親孫。不以我襲王。而遺所不親之卜石兔。我必不能甘。矧爾老且病。經事三王。今又戀戀於黃口之卜石兔。復何顏與我相見乎。忠順聞之大慙。卜石兔以應襲王。卒入忠順毳帳。踞上座。藐素囊不爲禮。素囊怒目攝之。卜石兔覺而避去。遂不敢復往。忠順亦惡卜石兔頑愎不任事。而毛明暗者。擗力克次子也。

滿官正比妓所出駐新開口外

狡而獯。百計媚忠

順。忠順頗暱之。私與明暗約。將請于朝以王授之。而卜石兔久不得封。請止市賞。又不可。諸部落無定主。中外頗洶洶。明年正月。有五路台吉者。黃台吉之次子。于卜石兔爲大父行。糾集七十三部落。聚豐州灘。與素囊爲難。挾婚忠順。至五月。卜石兔乘此得畢婚事。欲於例賞外。更挾加賞。始受封故。自五月至八月。不言求封事。九月。始使敢拾把都兒計虎等。請改印。請加賞。請增市。督臣涂宗濬拒之。會忠順病故。素囊盡掠其所蓄。自遣使請王。宗濬諭之曰。俺答有約。世世相傳。封王以長。今卜石兔倫序當立。三枝十一部。莫不歸心。爾若叛盟。則皆欲聲罪致討矣。且抗天朝之封命。亦將以兵夾攻。爾其安歸。素囊心折。於是合詞請封。至次年五月。卜石兔始受封如故事。并封素囊母把漢比妓爲忠義夫人。以其初降也。後素囊日強。卜石兔日弱。而市貢亦歲增。大同市本至七萬金。宣府市本至十八萬金。山西市本至四萬金。其撫賞各至二萬金。而邊備日弛矣。

牧齋詩註

隆慶四年。款市既定。每年一貢。以二月爲期。貢由小王子故道。馬不過五百匹。內選上馬三十匹。督撫代進。餘留邊給軍。其使不過一百五十名。俱留宣府大同。應得賞賜。差官齎發。軍門頒給。諸酋貢者六枝。一老把都。後爲青把都台吉等。一黃台吉。今爲擻力克等。一永邵卜大成台吉等。一兀慎打兒漢台吉等。一合羅氣把都兒台吉等。一吉能。後爲把都兒黃台吉等。今爲卜失兔阿不害等。皆統于順義王俺答。開市凡十一處。在大同者三。曰得勝口。曰新平。曰守口。在宣府者一。曰張家口。在山西者一。曰水泉營。在延綏者一。曰紅山寺堡。在寧夏者三。曰清水營。曰中衛。曰平魯衛。在甘肅者二。曰洪水扁都口。曰高溝寨。歲以爲常。市各二日。每月又有小市。明會典貢市初起。無制度。宣府巡撫吳兌始定番部貢儀。及通使之禮。我使用白衣。至北庭隆重。北使入遇。參遊于途。避馬下。立言事。則跪。置驛館。以五銳士夾一使。加扁鍵焉。每市阻酋長牆外。按部犒給所市馬。

良者予直七兩。遞減至三兩而止。番部或潛盜所鬻馬以去。兌使挾
梃伺擊之曰。孰令汝爲市。而盜乎。哈不慎盜馬擒三人。哈獻馬請釋。
不與。哈奪之去。兌閉關停市。告諸部。命發兵討之。諸部懼。共追還所
奪。以哈馬九九謝死罪。乃舍之。打喇名安。執關民要貨。兌聲罪諸酋。
共收其畜千獻之。表聞。詔以賜諸部。諸部愧服。吳兌傳

虎墩兔者。元裔也。居察漢兒地。亦曰察漢兒王子。其祖打來孫。始駐
牧宣府塞外。四傳至虎墩兔益盛。明史
韃靼傳

沙漠曠蕩。馬力未窮。惟近塞。則多山川林木。及荒城廢寺。如沿河十
八村者。其墟落尙歷歷可數。極北則黃沙白草。彌望無垠。小王子所
居地。名可的里速。猶華言大沙窪也。西南曰青山。曰照壁山。曰草
塚山。曰樺皮嶺。曰威寧海子。曰東西二海子。曰野馬川。曰羊圈堡。曰
樺林溝。曰杏園。曰松林。蕃部常往來。駐牧於此。俱與宣府西路西陽
河。渡口堡。柴溝堡。洗馬林。新河口。新開口。膳房堡。張家口諸邊相望。

曰東西二連山。曰紅崖兒。曰明嵯兒。曰柳橋兒。曰蓋里坡。曰瓦房嵯。曰靜邊城。曰太子城。曰禮拜寺。曰孤榆樹。俱與宣府中路羊房堡。青邊口。常峪口。葛峪堡。大小白陽諸邊相望。大沙窪之南。與宣府北路龍門。赤城。雲州。馬營。獨石。龍門所。滴水崖。宣府東路四海冶諸邊相望。然重巒疊嶂。蒼松古栢。環繞於外者。不知數百千里。爲花當別部。棲息於此焉。

語譯

花當部落駐牧宣府東路塞外。東邇密雲諸邊。其酋首名革蘭台者。近襲都督。每以籓離自負。其北曰兀良哈。甚驍勇。蕃部呼爲黃毛。亦謂之花當。又西北一部落亦曰兀良哈。性質略同。但戴紅帽爲號。好畜駝馬。小王子輩。利其所有。歲侵奪之。卒兼并其衆。又有哈刺慎莽觀鎮。兵各二三萬。常在宣府邊外駐牧云。是分地也。

語譯

北地。凡牝馬通淫而不孕。謂之飄沙。

菽園雜記

察哈爾國元之嫡派也。世雄長西北諸部。傳至靈丹可汗。在位久。忽

欲往西域歸佛教。其台吉那顏等。苦諫不聽。國中無主。太宗皇帝因發兵追降之。其尙璽內侍。以傳國璽。倉卒坎地而霾之。兵旣退。有童豎牧羊其地。一羊屢至坎所。蹄之不已。驅之復來。牧覺有異。試發土則璽見焉。聞於官。遂進上。時天聰某年也。今藏御府。予按何文肅喬新椒邱集。有傳國璽志一篇。叙述甚詳。五代後。唐從珂時。秦璽燬。石敬瑭入洛。更以玉爲之重貴。獻之遼。興宗試進士。遂以有傳國璽者爲正統命題。金滅遼。延禧遺傳國璽于桑乾河。元世祖時。有扎刺爾氏者。漁於桑乾河之濱。得之。夜有光。監察御史楊桓辨其文。以爲歷代傳國璽。上之。至正末。中山大兵至燕。順帝攜之。北遁沙漠。其本末如此。以文肅之言考之。自五代之亂。璽歸於遼。遼歸於金。金歸於元。在察哈爾國者。又二百年。而歸於本朝。詎偶然哉。居易錄

故戶部侍郎蔡弼漢公。常使漠北。天色已晚。欲投宿處。而絕無人。居倉皇間。見大營柵。人馬喧闐。因就之。有如大將者三人。坐帳中。其下

甲士數十輩。跪進酥酪。方欲前。顧視其人。皆無下頰。大驚而出。上馬急馳。回視營柵。已不見。惟燐火無數。隨其後。追之馳二十餘里。乃免。

蓋古戰場云。

居易錄

吏部員外郎艾某。滿洲人。自言行開平。道中日方午。天無片雲。忽見一物自東而西。疾於飛隼。長約二三丈。其首髣髴如畫龍狀。其末漸細。倏于空中倒垂而下。又有一物。從東來。追及之。二物蜿蜒相糾。離合數次。如戰鬪之形。久之乃解。一向北。一向東徐去。

居易錄

蒙古棋局。縱橫九線六十四罫。棋各十六枚。八卒。二車。二馬。二象。一砲。一將。別以朱墨。將居中之右。砲居中之左。上於將一罫。車馬象左右。列卒橫於前。其棋形而不字。將刻塔。崇象教也。象刻駝或熊。迤北無象也。多卒人。衆爲強也。無士。不尙儒生也。棋不列於線。而列於罫。置器于安也。馬橫行六罫。駝橫行九罫。以駝疾於馬也。滿局可行。無河爲界。所謂隨水草以爲畜牧也。卒直行一罫。至底斜角。食敵之在

前者去而復返用。同於車。嘉有功也。衆棋還擊一塔。無路可出始爲敗。其戲做中國。或以意創。皆不可知。然國人爲之。亦遂有工拙之不同焉。

芝仙集

番僧云。瀚海中文石。是積羽所化。間得石卵擊破之。中有勺水。一小活魚在焉。見風墮地。復化爲石。

芝仙詩注

幕北曠野千里。雖盛夏。朝暮猶寒。獨亭午炎風烈日。人馬如行火光中。遙望雲陰覆地。就其下以憩息。則別有一天地矣。人知塞外之寒。而不知塞外之熱。更甚於炎方也。

芝仙詩注

自策妄策零相繼爲逆。王師西征。動逾萬里。輓粟飛芻。時懼不給。雍正六年。始命太僕寺卿銜范毓黻。辦理北運軍糧。毓黻深沉多智略。計張家口地處極邊。糴買不如內地之易。又軍前往返。不啻萬里。日行沙漠中。蒙古諸部落。馴梗不一。慮有疎虞。因請於察漢叟爾等處。倉厥有支銷。存剩者借運。籍數以待補運。又或召買未足。則請於直

隸山西各州縣存倉米石。及湖灘河所堆貯米內支給。仍依出陳易新例。照時價交銀。司庫和糴。以足運數。米石出入。悉請以部定鐵斛一例。平量以杜侵欺。至於車運駝運。凡口袋繩索鞍屨苦種需用之物。纖悉備具。又大兵沿途口糧。隨地支給。有多羅鄂波等處。先請部檄。飭知蒙古各該管之甲色。暨沿途領兵將弁務。令頓貯有所。支領有方。仍飭知甲色。凡運道所經。各遣人護送。出境節次交遞。所經沙磧山谿。並募人徒。厚給工值。芟夷剷治。通行無阻。軍儲既足。大功乃成。其經營籌畫。蓋足爲後事之法云。

北運
紀略

